

# 平成24年度業務実績報告書

平成25年6月  
独立行政法人国立美術館

# 目 次

|  |    |
|--|----|
| I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上                        |    |
| 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開                           |    |
| (1) 多様な鑑賞機会の提供                                     | 3  |
| ① 所蔵作品展  | 3  |
| ② 企画展  | 4  |
| ③ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等                           | 7  |
| ④ 巡回展  | 8  |
| (2) 美術創造活動の活性化の推進                                  | 9  |
| ① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）                          | 9  |
| ② 新しい芸術表現への取組み                                     | 10 |
| (3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上                           | 12 |
| ① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等               | 12 |
| ② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実               | 14 |
| (4) 国民の美的感性の育成                                     | 16 |
| ① 幅広い学習機会の提供                                       | 16 |
| ② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業                         | 18 |
| ③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動                             | 21 |
| (5) 調査研究成果の美術館活動への反映                               | 21 |
| ① 調査研究一覧   | 21 |
| ② 展覧会カタログの執筆                                       | 26 |
| ③ 研究紀要の執筆  | 29 |
| ④ 館ニュース等の執筆  | 30 |
| (6) 快適な観覧環境の提供                                     | 33 |
| ① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応                               | 33 |
| ② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入                                | 34 |
| ③ 入場料金、開館時間等の弾力化                                   | 35 |
| ④ キャンパスメンバーズ制度の実施                                  | 36 |
| ⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実                             | 37 |
| 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承 |    |
| (1) 美術作品の収集  | 38 |
| (2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等                | 40 |
| ① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応                                  | 40 |
| ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実                              | 42 |
| (3) 所蔵作品の修理・修復                                     | 43 |
| (4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究                            | 44 |
| 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与            |    |
| (1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信                             | 48 |
| ① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信                         | 48 |
| ② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催                          | 61 |
| (2) 国内外の美術館等との連携                                   | 62 |
| ① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築            | 62 |
| ② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力             | 64 |
| ③ その他海外の美術館との連携・協力                                 | 65 |
| (3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換            | 65 |
| (4) 所蔵作品の貸与等                                       | 66 |
| (5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動                      | 68 |
| ① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施                      | 68 |
| ② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発                              | 68 |
| (6) 美術館活動を担う中核的人材の育成                               | 69 |

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| (7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築           | 69 |
| ① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究                  | 69 |
| ② キュレーター研修                            | 70 |
| (8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動   | 71 |
| ① 国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）の正会員としての活動   | 71 |
| ② 日本映画情報システムの運営                       | 71 |
| ③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充                   | 71 |
| ④ 映画関係団体等との連携                         | 71 |
| ⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討          | 72 |
| <b>II 業務運営の効率化</b>                    |    |
| 1 業務の効率化のための取り組み                      | 73 |
| (1) 各美術館の共通的な事務の一元化                   | 73 |
| (2) 使用資源の削減                           | 73 |
| (3) 美術館施設の利用推進                        | 76 |
| (4) 民間委託の推進                           | 77 |
| (5) 競争入札の推進                           | 77 |
| 2 事業評価及び職員の研修等                        | 78 |
| 3 管理情報の安全性向上                          | 79 |
| 4 人件費の抑制，給与体系の見直し                     | 79 |
| <b>III 予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画</b> |    |
| 1 予算                                  | 81 |
| 2 収支計画                                | 82 |
| 3 資金計画                                | 83 |
| 4 貸借対照表                               | 83 |
| 5 短期借入金                               | 84 |
| 6 重要な財産の処分等                           | 84 |
| 7 剰余金                                 | 84 |
| 8 人事に関する計画                            | 85 |
| 9 施設整備に関する計画                          | 86 |
| 10 関連公益法人                             | 86 |

(別紙1) 公益調達の適正化（財計第2017号）等に即した実施状況  
(別紙2) 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

#### (1) 多様な鑑賞機会の提供

##### ① 所蔵作品展

| 館名             | 開催日数  | 展示替回数 | 入館者数    | 目標数     |
|----------------|-------|-------|---------|---------|
| 東京国立近代美術館(本館)  | 236   | 3     | 187,143 | 189,000 |
| 東京国立近代美術館(工芸館) | 126   | 3     | 32,968  | 31,000  |
| 京都国立近代美術館【※1】  | 224   | 6     | 107,890 | 113,000 |
| 国立西洋美術館【※2】    | 299   | 6     | 339,308 | 287,000 |
| 国立国際美術館【※3】    | 199   | 3     | 109,797 | 77,000  |
| 計              | 1,084 | 21    | 777,106 | 697,000 |

備考：【※1】企画展「開館50周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術」を開催するに当たり、当初予定のなかったコレクション・ギャラリーを使用することとなった。これにより開催日数が当初予定の238日から変更となった。

【※2】企画展「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」に出品する彫刻作品を常設展示室から移動するため、平成24年10月29日～11月2日の間、臨時休館した。これにより開催日数が当初予定の303日から変更となった。

【※3】台風接近に伴う暴風警報発令により、1日間臨時休館した。

#### 各館の特徴

##### ア 東京国立近代美術館

###### (本館)

平成24年度は、指名によるプロポーザルを経て建築家、西澤徹夫氏を選出し、10年ぶりに所蔵品ギャラリーをリニューアルし、特集展示の拡充、解説の拡充、導線の整理、多言語化対応及び休憩スペースの拡充を行った。「美術にぶるっ！」展第1部という変則的な運用を行った10月から1月までの会期を終え、平成25年1月から、所蔵作品展「MOMATコレクション」を開始した。

「MOMATコレクション」では、12室をすべて特集展示の形式とし、当館コレクションの特徴を活かしつつ、新収蔵品の活用や研究成果のいち早い公開を積極的に行うとともに、日本画、洋画、版画、水彩・素描、写真など美術の各分野にわたる12,000点（うち重要文化財13点、寄託作品1点を含む）を越える所蔵作品から、会期ごとに約200点を選び、20世紀初頭から今日に至る約100年間の日本の近代美術の流れを海外作品も交えて展示した。

###### (工芸館)

毎年度恒例となっている「こども工芸館／おとな工芸館 植物図鑑」では、人間にとって身近な存在であり、また、芸術における最もポピュラーな主題の一つである「植物」を切り口に、子どもから大人まで幅広い世代を対象に工芸を親しみやすく紹介した。会場は、植物の成長段階や表現方法、または食料や工芸材料のように、人間の生活の営みと植物とのさまざまな関係によって6つのテーマ（「芽生え・葉・草」、「木・森・山」、「花の模様」、「花のかたち」、「松竹梅」及び「収穫（農業&工芸）」）で構成し、工芸作品への理解を促進させることを目的とした。「寿ぎの『うつわ』—工芸館の漆工コレクションから—」では、海外では日本を代表する工芸の一つとして知られている漆工について、一部の借用作品を交えて、工芸館として初めて特集した。漆という素材に脈々と継承されてきた文化的な特質を「寿ぐ」というキーワードで捉え、漆という素材による近現代の多様な表現の展開をわかりやすく展示した。また、「花咲く工芸」では、所蔵作品の中から花を主題にした159点

を選び、陶磁や染織、漆工、金工、木工、ガラス、人形など、様々な素材による作品を取り上げ、明治期から現代にかけての近代工芸を代表する名品を紹介した。

#### イ 京都国立近代美術館

「コレクション・ギャラリー」では、6回の展示替えを行うとともに、「すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙」と連動し、「前衛」運動の旗手・村山知義が活動した1920年及び30年代に展開した動向の一端を紹介した「村山知義と同時代の日本の「前衛」」, 「高橋由一展」と連動し、京都で高橋由一にも匹敵する洋画活動を展開した田村宗立の画業を、最初期から晩年にいたるまで紹介した「京の由一 田村宗立 — 明治洋画の先覚者」, また、「山口華楊展」にあわせ山口華楊及び関連作家の作品を展示し、画家としてだけではなく、指導者として京都画壇の発展に寄与したことをも紹介する「山口華楊展にちなんで」を開催するなど、平成24年度も引き続き、企画展と関連する、コレクションを活用した小企画を開催した。

また、「京の由一 田村宗立 — 明治洋画の先覚者」に関して、ポスターの裏面に、展覧会意図や作者・作品などの解説を出品作品の色刷図版を掲載しながら読み物風に印刷し、観覧者に無料で配布して、展覧会の情報提供を行う新たな形式の広報物を作成した。

#### ウ 国立西洋美術館

所蔵作品から約200点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、中世末期から20世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行った。この間、6回の展示替えを行ったが、それによる休室は最小限にとどめ、絵画・彫刻コレクションの主要作品を常時公開するよう努めた。

また、版画素描展示室では、「クラインマイスター：16世紀前半ドイツにおける小画面の版画家たち」をはじめ計4本の小企画展を開催し、素描・版画コレクションの多様な側面を紹介した。

広報の新たな取組として、インターネット上で美術作品の高解像度画像や館内の360度画像(ストリートビュー)を提供するGoogle社のwebサービス「Google アートプロジェクト」に参加し、同サイトを通じて164件の所蔵品データの公開を開始した。また、企画展やイベントの告知を行い、常設展への関心を高めることを目指して、公式facebookページの公開を開始した。

#### エ 国立国際美術館

平成24年度の所蔵作品展は、共催展及び企画展の開催にあわせて3回行った。同時開催の企画展にあわせ展示内容を見直し、企画展に関連する作家及び作品や、近年収蔵された作品による展示構成としている。「宮永愛子：なかそら—空中空—」と同時期に開催したコレクション展においては、「70年代日本の美術—「もの派」を中心に—」というタイトルで、これまで重量があるため、展示する機会のなかった作品を一堂に紹介した。

### ② 企画展

企画展は、来館者のニーズに応え、以下の観点に留意して実施した。

イ 国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。

ハ メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。

ホ その他

なお、東京国立近代美術館では、所蔵品ギャラリーのリニューアル工事に際しての夏期休館中、所蔵品から選りすぐった絵画作品を前に演奏を繰り広げる「Concerto Museo / 絵と音の対話」（平成24年8月10日～8月12日）、建築事務所スタジオ・ムンバイによる日本初の建築プロジェクトである「夏の家」（平成24年8月26日～平成25年5月26日）、「パフォーマンス」をテーマにプログラムを組んだ連続14日間のイベント「14のタペ」（平成24年8月26日～9月8日）を開催した。

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値、（継続）は次年度に継続開催する展覧会

| 館名             | 展覧会名  | 開催<br>日数   | 入館者数                | 目標数                 | 企画<br>趣旨 | 共催者             |
|----------------|---|------------|---------------------|---------------------|----------|-----------------|
| 東京国立近代美術館（本館）  | ①生誕100年 ジャクソン・ポロック展                               | 33<br>(79) | 63,615<br>(123,301) | 62,000<br>(150,000) | イ        | 読売新聞社, 日本テレビ放送網 |
|                | ②写真の現在4 そのときの光、そのさきの風                             | 51         | 13,785              | 17,000              | ロ        |                 |
|                | ③吉川霊華展 近代にうまれた線の探求者                               | 42         | 12,144              | 16,000              | ニ        |                 |
|                | ④東京国立近代美術館60周年記念特別展 美術にぶるっ! ベストセレクション 日本近代美術の100年 | 76         | 101,647             | 100,000             | ロ        | NHK, NHKプロモーション |
|                | ⑤フランス・ベーコン展 【※1】                                  | 22<br>(73) | 28,552<br>(継続)      | 45,000<br>(120,000) | イ, ロ     | 日本経済新聞社         |
|                | 計   | <b>224</b> | <b>219,743</b>      | <b>240,000</b>      |          |                 |
| 東京国立近代美術館（工芸館） | ①原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの                  | 33<br>(85) | 24,762<br>(50,020)  | 10,000<br>(25,000)  | ホ        |                 |
|                | ②「織」を極める 人間国宝 北村武資                                | 14<br>(63) | 5,625<br>(12,642)   | 3,000<br>(14,000)   | ロ        |                 |
|                | ③越境する日本人—工芸家が夢見たアジア 1910s-1945                    | 74         | 8,242               | 15,000              | ニ        |                 |
|                | ④現代工芸への視点 現代の座標—工芸をめぐる11の思考—                      | 68         | 9,030               | 11,000              | ロ        |                 |
|                | ⑤東京オリンピック1964 デザインプロジェクト                          | 42<br>(93) | 15,744<br>(継続)      | 18,000<br>(41,000)  | ニ        |                 |
|                | 計   | <b>231</b> | <b>63,403</b>       | <b>57,000</b>       |          |                 |
| 京都国立近代美術館      | ①すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—                              | 33         | 10,086              | 10,000              | ハ        | 読売新聞社, 美術館連絡協議会 |
|                | ②井田照一の版画  | 30         | 7,793               | 8,000               | ニ        | 京都新聞社           |
|                | ③KATAGAMI Style—もうひとつのジャポニスム                      | 40         | 36,337              | 54,000              | イ, ロ, ニ  | 日本経済新聞社, 京都新聞社  |

|         |  |            |                     |                     |     |                                     |
|---------|--|------------|---------------------|---------------------|-----|-------------------------------------|
|         | ④近代洋画の開拓者 高橋由一                         | 39         | 45,954              | 55,000              | ホ   | 読売新聞社,<br>NHK京都放送局,<br>NHKプラネット近畿   |
|         | ⑤日本の映画ポスター芸術 【※2】                      | (48)       | (35,624)            | (18,000)            | ニ,ホ | 東京国立近代美術館フィルムセンター                   |
|         | ⑥山口華楊展                                 | 39         | 43,382              | 42,000              | ホ   | 毎日新聞社, 京都新聞社                        |
|         | ⑦開館 50 周年記念特別展 交差する表現 工芸/デザイン/総合芸術     | 14<br>(46) | 2,841<br>(継続)       | 10,000<br>(33,000)  | ロ   | 京都新聞社                               |
|         | 計                                      | <b>195</b> | <b>146,393</b>      | <b>179,000</b>      |     |                                     |
| 国立西洋美術館 | ①ユベール・ロベールー時間の庭                        | 44<br>(67) | 64,237<br>(91,897)  | 23,000<br>(34,000)  | イ,ニ | 東京新聞                                |
|         | ②ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年          | 85         | 399,312             | 296,000             | イ,ニ | TBS, 読売新聞社                          |
|         | ③手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描 | 70         | 46,876              | 31,000              | ロ   | 朝日新聞社                               |
|         | ④ラファエロ                                 | 26<br>(81) | 139,611<br>(継続)     | 97,000<br>(317,000) | イ   | フィレンツェ文化財・美術館特別監督局, 読売新聞社, 日本テレビ放送網 |
|         | 計                                      | <b>225</b> | <b>650,036</b>      | <b>447,000</b>      |     |                                     |
| 国立国際美術館 | ①草間彌生 永遠の永遠の永遠                         | 7<br>(80)  | 39,831<br>(218,945) | 4,000<br>(44,000)   | ロ   | 朝日新聞社                               |
|         | ②国立国際美術館 35 周年記念展 コレクションの誘惑            | 57         | 42,826              | 41,000              | ホ   | 朝日新聞社                               |
|         | ③<私>の解体へ: 柏原えつとむの場合 【※3】               | 73         | 21,527              | 11,000              | ニ   |                                     |
|         | ④リアル・ジャパネスク: 世界の中の日本現代美術 【※3】          | 71         | 20,602              | 17,000              | ホ   |                                     |
|         | ⑤宮永愛子: なかそらー空中空ー                       | 63         | 59,452              | 52,000              | ハ   |                                     |
|         | ⑥エル・グレコ展                               | 61         | 191,143             | 127,000             | イ   | NHK大阪放送局, NHKプラネット近畿, 朝日新聞社         |
|         | ⑦夢か、現か、幻か                              | 56         | 12,473              | 15,000              | ロ,ハ |                                     |
|         | 計                                      | <b>388</b> | <b>387,854</b>      | <b>267,000</b>      |     |                                     |
| 国立新美術館  | ①野田裕示 絵画のかたち/絵画の姿                      | 2<br>(68)  | 813<br>(21,151)     | 1,000<br>(18,000)   | ニ   |                                     |

|  |            |                      |                      |         |                                |
|--|------------|----------------------|----------------------|---------|--------------------------------|
| ②セザンヌーパリとプロヴァンス                            | 63<br>(67) | 290,494<br>(302,239) | 317,000<br>(331,000) | イ, ロ    | 日本経済新聞社                        |
| ③大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の400年               | 73         | 392,949              | 407,000              | イ       | 日本テレビ放送網, 読売新聞社, エルミタージュ美術館    |
| ④「具体」ーニッポンの前衛 18年の軌跡ー                      | 60         | 26,700               | 27,000               | ロ       |                                |
| ⑤与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄                        | 66         | 15,725               | 24,000               | ロ       | 読売新聞社                          |
| ⑥リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝                      | 71         | 253,569              | 237,000              | イ       | 朝日新聞社, 東映株式会社, TBS             |
| ⑦未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 2013<文化庁芸術家在外研修の成果> | 20         | 14,307               | 10,000               | ハ       | 文化庁, 読売新聞社, アート・ベンチャー・オフィス・ショウ |
| ⑧アーティスト・ファイル 2013ー現代の作家たち                  | 59<br>(60) | 30,129<br>(継続)       | 31,000<br>(32,000)   | ハ, ホ    |                                |
| ⑨平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭                    | 11         | 51,819               | 45,000               | ハ       | 文化庁メディア芸術祭実行委員会 (文化庁, 国立新美術館)  |
| ⑩カリフォルニア・デザイン 1930-1965ーモダン・リビングの起源ー       | 11<br>(67) | 15,670<br>(継続)       | 6,000<br>(40,000)    | イ, ロ, ハ | ロザンゼルス・カウンティ美術館                |
| 計  | 436        | 1,092,175            | 1,105,000            |         |                                |
| 合計   | 1,699      | 2,559,604            | 2,295,000            |         |                                |

備考：【※1】借用作品経由地となったシドニーの美術館との間でのスケジュール及び便数を調整した結果、開催日数が当初予定の31日間から変更となった。

【※2】コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、開催日数、入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。

【※3】台風接近に伴う暴風警報発令により、1日間臨時休館した。

### ③ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

#### 【上映会】

| タイトル                                     | 会場   | 上映回数 | 日数 | 入館者数   | 目標数    | 企画趣旨 | 共催者                   |
|--|------|------|----|--------|--------|------|-----------------------|
| ①よみがえる日本映画 vol.4 [大映篇] ー映画保存のための特別事業費による | 大ホール | 60   | 20 | 9,105  | 8,500  | ニ    |                       |
| ②生誕百年 映画監督 今井正                           | 大ホール | 124  | 54 | 18,115 | 19,500 | ニ    |                       |
| ③EU フィルムデーズ 2012                         | 大ホール | 42   | 20 | 7,862  | 8,500  | ホ    | 駐日欧州連合代表部, EU加盟国大使館・文 |



|  |               |            |            |               |               |      | 化機関   |
|--|---------------|------------|------------|---------------|---------------|------|---|
| ④ロードショーとスクリーン<br>ブームを呼んだ外国映画   | 大ホール          | 51         | 17         | 5,884         | 6,500         | ホ    | 一般社団法人<br>外国映画輸入<br>配給協会                              |
| ⑤シネマの冒険 闇と音楽 2012<br>ロシア・ソビエト無声映画選集                                  | 大ホール          | 12         | 6          | 1,836         | 1,500         | ホ    |   |
| ⑥第34回 PFFぴあフィルムフ<br>ェスティバル   | 大ホール,<br>小ホール | 35         | 10         | 4,576         | 4,500         | ロ, ニ | PFFパートナ<br>ーズ(ぴあ, ホ<br>リプロ, 日活)<br>, 公益財団法人<br>ユニジャパン |
| ⑦生誕百年 木下恵介劇場   | 大ホール          | 50         | 25         | 5,089         | 8,500         | ニ    |   |
| ⑧日活映画の100年 日本映画<br>の100年   | 大ホール          | 138        | 69         | 17,728        | 19,500        | ニ    |   |
| ⑨よみがえる日本映画 vol.5 [日<br>活篇]—映画保存のための特別事<br>業費による                      | 大ホール          | 72         | 36         | 10,184        | 10,000        | ニ    |   |
| ⑩自選シリーズ 現代日本の映<br>画監督 1 崔 洋一   | 大ホール          | 24         | 12         | 3,578         | 3,500         | ロ, ニ |   |
| ⑪映画の教室 2012 [京橋映画<br>小劇場 No.23]                                      | 小ホール          | 18         | 9          | 1,800         | 2,000         | ホ    |   |
| ⑫アンコール特集 2011 年度上<br>映作品より [京橋映画小劇場<br>No.24]                        | 小ホール          | 18         | 9          | 1,947         | 1,500         | ホ    |   |
| ⑬東京国立近代美術館 60 周年記念<br>美術館と映画:フィルムセンター<br>以前の上映事業 [京橋映画小劇<br>場 No.25] | 小ホール          | 42         | 21         | 2,201         | 3,500         | ホ    |   |
| 計  |               | <b>686</b> | <b>308</b> | <b>89,905</b> | <b>97,500</b> |      |   |

#### 【展覧会】

| 展覧会名                         | 日数         | 入館者数          | 目標数           | 企画趣旨 | 共催者                      |
|------------------------------|------------|---------------|---------------|------|--------------------------|
| ①ロードショーとスクリーン 外国映画<br>ブームの時代 | 89         | 5,104         | 4,000         | ロ, ニ | 一般社団法人<br>外国映画輸入<br>配給協会 |
| ②日活映画の100年 日本映画の100年         | 102        | 5,738         | 4,500         | ロ    |                          |
| ③西部劇の世界 ポスターでみる映画史<br>Part1  | 72         | 4,770         | 3,000         | ニ    |                          |
| 計                            | <b>263</b> | <b>15,612</b> | <b>11,500</b> |      |                          |

#### ④ 巡回展

| 企画館     | 展覧会名           | 開催館      | 開催日数 | 入館者数  |
|---------|----------------|----------|------|-------|
| 国立西洋美術館 | 平成24年度国立美術館巡回展 | 井原市立田中美術 | 45   | 9,808 |

|                |  |                |     |        |
|----------------|--|----------------|-----|--------|
|                | 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術                                     | 館              |     |        |
|                |  | 島根県立石見美術館      | 47  | 11,459 |
| 東京国立近代美術館（工芸館） | 東京国立近代美術館コレクション 茶事にまつわる うつわ 一陶を中心に                       | 益子陶芸美術館        | 54  | 4,103  |
|                | 時計塔 80 年記念 東京国立近代美術館工芸館の名品でみる アール・ヌーヴォーとアール・デコ 展—その時代の光— | 和光ホール(和光本館 6階) | 11  | 3,583  |
| 計              |  |                | 157 | 28,953 |

| 企画館                 | タイトル  | 会場数 | 開催日数 | 入館者数    |
|---------------------|---|-----|------|---------|
| 東京国立近代美術館(フィルムセンター) | ①平成 24 年度優秀映画鑑賞推進事業                                   | 189 | 357  | 79,354  |
|                     | ②日本が声を上げる！ 陽が昇る地から来た最初のトーキー映画                         | 1   | 7    | 915     |
|                     | ③「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」巡回事業                               | 2   | 13   | 1,093   |
|                     | ④第 5 回中之島映像劇場 浪花の映像【キネマ】の物語 —東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品から— | 1   | 2    | 357     |
|                     | ⑤NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home 2012                     | 1   | 10   | 575     |
|                     | ⑥日本の映画ポスター芸術  | 1   | 48   | 35,624  |
| 計                   |   | 195 | 437  | 117,918 |

## (2) 美術創造活動の活性化の推進

### ① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%

入館者数：1,259,966 人

1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組みを行った。

- ・ 作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施
- ・ 作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底
- ・ 審査、展示等に必要な備品の充実
- ・ 展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底

- ・公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施
- ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施
- ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実
- ・国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより、広報の支援を実施
- ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知

## 2 公募団体等が行う教育普及活動

館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを行った。また、館ホームページへ情報を掲載し普及・広報の支援を実施した。

## 3 平成 26 年度に展示室（公募展用）を使用する 69 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。

### ② 新しい芸術表現への取組み

#### 【東京国立近代美術館本館】

| 展覧会名                                    | 日数 | ジャンル                         | 入館者数    | 目標数     | 共催者              |
|---|----|------------------------------|---------|---------|------------------|
| 平成 24 年度第 1 回所蔵作品展「近代日本の美術」             | 33 | ビデオ・アート                      | 36,337  | —       | —                |
| 「美術にぶるっ！ ベストセレクト ション日本近代美術の 100 年」第 1 部 | 76 | ビデオ・アート（コミッション・ワーク（注文制作）を含む） | 101,647 | 100,000 | NHK, NHK プロモーション |
| 平成 24 年度第 2 回所蔵作品展「MOMAT コレクション」        | 59 |                              | 27,516  | —       | —                |
| フランス・ベーコン展                              | 22 | ビデオ・アート                      | 28,552  | 45,000  | 日本経済新聞社          |

※なお、所蔵品ギャラリーのリニューアル工事に際しての夏期休館中、建築事務所スタジオ・ムンバイによる日本初の建築プロジェクトである「夏の家」、「パフォーマンス」をテーマにプログラムを組んだ連続 14 日間のイベント「14 の夕べ」を開催した。

#### 【東京国立近代美術館フィルムセンター】

平成 24 年 4 月 23 日から 28 日まで中国電影資料館で行われた第 68 回国際フィルム・アーカイブ連盟北京会議で開催されたシンポジウム「世界のアニメーション」において、フィルムセンター主幹及び研究員がそれぞれ基調講演と講演を行った。あわせて、このシンポジウムに連動した上映会「珍宝級世界動画電影展映」では、『動絵狐狸達引』（1933 年）など日本の初期トーキー・アニメーション映画 6 作品、大藤信郎監督と関連作品 7 作品に加え、平成 23 年度にデジタル復元を行った政岡憲三監督『くももちゅうりっぷ』（1943 年）デジタル復元版のプレミア上映を行い、アニメの原点といえる初期アニメーション映画の豊かな創造性と卓抜な技術を、世界各国から参加した多くのアーキビストに紹介した。

海外における日本の初期アニメーション映画については、シネマテーク・ド・グルノーブル（FIAPF 加盟機関）が主催した第 35 回グルノーブル野外短篇映画祭に 6 本、スウェーデン映画協会（FIAPF 加盟機関）が国内 3 会場で主催した日本のアニメーション映画特集に 6 本を貸与し紹介に努めた。

#### 【京都国立近代美術館】

| 展覧会名                | 日数 | ジャンル    | 入館者数   | 目標数    | 共催者          |
|---------------------|----|---------|--------|--------|--------------|
| すべての僕が沸騰する一村山知義の宇宙一 | 33 | アニメーション | 10,086 | 10,000 | 読売新聞社、美術館連絡協 |

|  |  |  |  |  |    |
|--|--|--|--|--|----|
|  |  |  |  |  | 議会 |
|--|--|--|--|--|----|

・我が国映画史上における最初のアニメーション作品としても貴重な村山知義の「三匹の小熊さん」（1931年）を、同展会期中に展覧会場で上映した。

#### 【国立西洋美術館】

・国立西洋美術館本館の世界遺産登録について

平成23年6月にパリのユネスコ本部で開催された第35回世界遺産委員会において、国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献」の推薦案件が「記載延期」と決定されて以降、平成27年2月の改訂推薦書の提出を目指して登録推進事業を継続している。

国立西洋美術館本館は、戦後日本の建築に大きな影響を与えた世界的建築家ル・コルビュジエの作品として国の重要文化財に指定され、同時に世界遺産にも推薦されていることから、建物の「保存管理（活用）計画」がそれぞれにおいて求められている。そのため、外部有識者を含めた国立西洋美術館修理検討委員会を開催し、さらに文化財保存計画協会の協力も得て、平成25年8月の完成を目指し同計画の策定作業を開始した。

また、世界遺産登録においては地元からの支持も重要な要素であるため、地元台東区と協力し様々な形で館の広報活動を行う一方、イコモス関係者やル・コルビュジエ財団関係者との専門家会議等に、ル・コルビュジエ研究者である客員研究員を7回にわたり派遣し、世界遺産登録に係る国際情勢の情報収集を行った。

#### 【国立国際美術館】

| 展覧会名     | 日数 | ジャンル     | 入館者数   | 目標数    | 共催者 |
|----------|----|----------|--------|--------|-----|
| 夢か、現か、幻か | 56 | 映像及び写真表現 | 12,473 | 15,000 | —   |

・欧米では「time-based media」とされる映像、インスタレーションやパフォーマンスなどの新しい表現様式による作品を収蔵作品としていかに受入れ、それを管理、保存、修復するかをテーマに調査研究を進め、当該分野では先進国である英国やドイツなど各国の美術館や関係機関などとの連携を進めている。

#### 【国立新美術館】

| 展覧会名                                | 日数 | ジャンル                                  | 入館者数   | 目標数    | 共催者                         |
|-------------------------------------|----|---------------------------------------|--------|--------|-----------------------------|
| 「具体」—ニッポンの前衛 18年の軌跡—                | 60 | 映像、パフォーマンス                            | 26,700 | 27,000 | —                           |
| 平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭              | 11 | ビデオ・アート、インタラクティブ・アート、アニメーション、マンガ、ゲーム等 | 51,819 | 45,000 | 文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁、国立新美術館） |
| カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源— | 11 | 建築、デザイン、映像                            | 15,670 | 6,000  | ロザンゼルス・カウンティ美術館             |

・アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして、(A)「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2012」への特別協力を行い、(B)「TOKYO ANIMA!2012秋」及び「TOKYO ANIMA!2013春」への共催を実施した。(A)のICAF2012では国内の大学など21機関の学生によるアニメーション作品に加え、韓国とヨーロッパの映像作品を4日間に渡り講堂と研修室ABにて上映し、日本のアニメーション表現のこれか

らの可能性を紹介する機会となった。4日間の会期中、来場者は808名であった。(B)の「TOKYO ANIMA! 2012 秋」は、約30名の若手映像作家の近作・新作を中心に2日間に渡り上映し、延べ1,301名の来場者があった。平成25年3月に開催されたアートイベント「六本木アートナイト2013」に参画し、「TOKYO ANIMA!2013 春」を開催し、延べ686名の来場者があった。

### (3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

#### ① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

##### ア ホームページアクセス件数

| 館名                            | アクセス件数<br>(ページビュー) | 目標数 (第2期平均)       |
|-------------------------------|--------------------|-------------------|
| 本部                            | 11,580,546         | 9,076,555         |
| 東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む) | 13,678,742         | 10,500,075        |
| 京都国立近代美術館                     | 2,199,673          | 2,244,585         |
| 国立西洋美術館                       | 11,243,430         | 6,313,881         |
| 国立国際美術館                       | 2,864,365          | 2,266,576         |
| 国立新美術館                        | 10,403,992         | 9,372,754         |
| 計                             | <b>51,970,748</b>  | <b>39,774,426</b> |

##### イ 各館の ICT 活用の特徴

###### (ア) 本部

平成20年度にリニューアルした法人ホームページにおいては、引き続き国立美術館5館の開催展覧会及び各種催事等トピックスの一覧を維持した。

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」については、平成23度より「指導者研修 Web 報告」のページを充実させて、平成24年度も継続してその記録を公開した。

###### (イ) 東京国立近代美術館

平成19年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム (CMS) を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化し、平成24年度は特に「60周年記念サイト」を設けてポスター・アーカイブも公開するなどして、記念事業の広報につとめた。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た水彩・素描その他の作品237点について画像を新規登録した。

また、平成24年度から新たに工芸についての著作権者情報を整備するとともに、初年度として陶磁の著作権許諾申請を開始した。

平成23年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システム並びに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、他の国立美術館各館と連携して実装させた。

平成23年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである [artlibraries.net \(http://artlibraries.net/index\\_en.php\)](http://artlibraries.net/index_en.php) と国立美術館の図書検索システム (東京国立近代美術館及び国立西洋美術館) の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、[artlibraries.net](http://artlibraries.net) への参加を実現させた。

フィルムセンターでは、事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」の登録者が着実に増加している。NFCD (フィルムセンターデータベース) については、人物情

報の統合を進めるとともに、フィルムの運用管理機能、資料整理の深化及びプレス資料（プレスシート、試写状他）をカテゴリーに加えるという重要な改造を行った。

さらに、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うため、また、識別を容易にするため、適宜デジタル・データへのスキャンや簡易撮影を行い、共有ファイル内に蓄積を進めている。

#### (ウ) 京都国立近代美術館

展覧会の内容や案内に関する情報、講演会及び教育普及関連のイベント案内、さらには「友の会」の行事報告に加え、コレクション・ギャラリー（所蔵作品展示）の展示替えごとに出品リストや小企画などのテーマ展示についても解説と出品リストをホームページに掲載し、情報発信に努めた。

また、「開館 50 周年記念特別展」の開催に際しては、展覧会広報の一助として、ホームページ上に、当館独自の展覧会として初めて「特設サイト」を開設した。

さらに、美術館ニュースや研究論集についても、掲載内容をホームページ上に告知した。

#### (エ) 国立西洋美術館

収蔵作品情報管理システムに作品関連文書を管理する機能を新たに付加し、作品に関する多様な情報資源を蓄積・公開する基盤を強化した。また、平成 23 年度に引き続き科学研究費補助金を受け、収蔵作品データの充実に努め、平成 24 年度は署名・年記情報の充実に重点的に取り組んだ。ホームページ上に公開している所蔵作品データベース（「作品検索」）を時代の変化に即して改良し、スマートフォン及びタブレット等 Flash 非対応端末の表示不良等の問題解決を図った。さらに、本データベースが平成 25 年度開講の放送大学『博物館情報・メディア論』でデジタル・アーカイブ活用モデルとして取り上げられることとなり、取材に全面的に協力した。

収蔵品情報以外では、従来から要請の多かった松方コレクション関連情報の公開に関連し、その第一段階として科学研究費補助金の助成を受けて、大正から昭和期の松方コレクション展に関する調査を行い、その成果をホームページ上で公開する準備を進めた。このほか急速に拡大しつつあるソーシャル・メディアへの取り組みとして、公式 facebook ページを開設した。「Google アートプロジェクト」への参画も果たし、所蔵品 164 点を同サイトにて公開した。

#### (オ) 国立国際美術館

平成 24 年度は、平成 23 年度に実施したホームページのリニューアルにより充実を図った展覧会情報、関連イベント情報、施設利用案内について、更なる充実に努めた。

また、引き続き、展覧会ごとに英語版ホームページを作成し、海外への情報発信、外国人来館者への情報提供に努めた。

#### (カ) 国立新美術館

展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」において、引き続き日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催する展覧会の情報を収集し、検索可能とすることに努めた。平成 24 年度においては 4,067 件の展覧会情報を 1,170 の美術館・美術団体・画廊の協力により収集・公開した。

また、ホームページを通じて、「活動報告」の公開を含め、当館の活動を紹介すると共に、これまでのメールマガジンの発行に加え、ソーシャルネットワークサービス（SNS）

の活用により、昨今のインターネットの利用形態の変化に対応した幅広い情報発信の道筋について実践的に試行・検証した。

## ② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

### ア 図書資料等の収集

| 館名        |          | 収集件数          | 累計件数           | 利用者数          | 目標利用者数<br>(第2期平均) |
|-----------|----------|---------------|----------------|---------------|-------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館       | 5,309         | 124,367        | 2,113         | 2,921             |
|           | 工芸館      | 887           | 22,888         | 251           | 356               |
|           | フィルムセンター | 3,195         | 39,374         | 3,731         | 3,273             |
| 京都国立近代美術館 |          | 1,472         | 22,453         | —             | —                 |
| 国立西洋美術館   |          | 1,006         | 46,231         | 396           | 399               |
| 国立国際美術館   |          | 612           | 36,979         | —             | —                 |
| 国立新美術館    |          | 7,013         | 126,311        | 21,917        | 44,365*           |
| 計         |          | <b>19,494</b> | <b>418,603</b> | <b>28,408</b> | <b>51,314*</b>    |

注 東京国立近代美術館は本館 4 階、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

※ 新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く

### イ 特記事項

#### (ア) 東京国立近代美術館

本館では、平成 18 年度開催の藤田嗣治展の後、19 年度に寄贈された藤田家旧蔵書は平成 22 年度に登録を完了し、検索公開をしているが、その中から 52 点が平成 24 年度開催の「藤田嗣治と愛書都市パリ」展（渋谷区立松濤美術館、北海道立近代美術館巡回、2012 年 7-11 月）に出品された。

60 周年事業の一環である 60 年史のデータ集成及び編集作業を進めて、ミュージアム・アーカイブの整備をあわせて進め、その成果として『東京国立近代美術館 60 年史』を刊行した。あわせて、美術出版社より『美術家たち証言—東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』選集』を出版した。

工芸館では、比較的高額な資料の購入があったことにより収集件数は減少したが、内容の一層の充実をはかることができた。

フィルムセンターでは、一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。

公開への準備としては、今後のデータベース登録を見越して図書室内の映画雑誌、外国映画祭カタログのリスト化を進めている。映画パンフレットについては OPAC データベースへの登録が進み、当初公開された分の外国映画パンフレットの登録がほぼ終了している。

#### (イ) 京都国立近代美術館

平成 24 年度が、研究の最終年となる科学研究補助金（当館学芸課長が研究代表者となり、4 か年にわたる研究）によって、平成 25 年度開催予定の展覧会に関する書籍を購入するとともに、研究分担者として外部の研究者と連携して研究をすすめている科研費によっても、図書を収集している。

(ウ) 国立西洋美術館

欧米の主要美術図書館が構築している国際的な図書館横断検索システム（「artlibraries.net」）への参画を企図し、東京国立近代美術館と共に国立情報学研究所との共同研究に従事した。美術史その他関連諸学に関する資料の収集の一環として、雑誌文献データベースである「Art Source」を試験的に契約し、レファレンス・サービスの向上を図った。次年度以降、本格的に運用する予定である。このほか研究資料センターの利用者サービス向上のため、電子メールでの予約受付を開始した。

図書資料以外では、展覧会の写真アルバムや関連文書等、国立西洋美術館の事業に関する各種記録の整理に着手し、その成果を『国立西洋美術館名作選』収録の年表に結実させた。

(エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。特に、企画展や所蔵作家関連の文献に加え、国際展に関する文献なども積極的に収集を行った。（購入：156冊，寄贈：456冊）

(オ) 国立新美術館

引き続き日本の展覧会カタログを中心に網羅的、遡及的収集に努め、国内約400、国外約100の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を構築した。平成23年度までに寄贈された複数の個人からの大口寄贈資料についての整理作業を進め、一部を平成25年度に公開できる状況となった。所蔵資料の増加への対応のため、別館書庫内の書架増設を行うとともに、別館1階アトライブラリー別館閲覧室の開室準備を行った。アトライブラリー別館閲覧室は平成25年度に開室予定であり、これまで予約制だった所蔵資料が当日出納（脆弱な資料等一部を除く）できるようになり、資料提供サービスの向上が実現される予定である。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

| 館名        |                      | 画像データ        |               |                           |              | テキストデータ       |                |                           |              |
|-----------|----------------------|--------------|---------------|---------------------------|--------------|---------------|----------------|---------------------------|--------------|
|           |                      | デジタル化件数      | デジタル化累計       | 累積公開件数<br>(公開率)           | 目標公開率        | デジタル化件数       | デジタル化累計        | 累積公開件数<br>(公開率)           | 目標公開率        |
| 東京国立近代美術館 | 本館                   | 250          | 10,559        | 6,927<br>(56.1%)          | 33.0%        | 162           | 11,032         | 10,433<br>(84.5%)         | 97.3%        |
|           | 工芸館                  | 1,108        | 4,037         | 425<br>(12.9%)            | 5.5%         | 448           | 4,353          | 3,155<br>(96.0%)          | 99.5%        |
|           | フィルムセンター<br>(映画関連資料) | —            | —             | —                         | —            | 33,248        | 150,758        | —                         | —            |
| 京都国立近代美術館 |                      | 76           | 7,465         | 2,028<br>(17.8%)          | 11.4%        | 2,769         | 13,201         | 11,895<br>(104.3%)        | 85.8%        |
| 国立西洋美術館   |                      | 309          | 5,627         | 203<br>(3.7%)             | 4.4%         | 117           | 4,967          | 4,599<br>(83.3%)          | 94.7%        |
| 国立国際美術館   |                      | 335          | 6,762         | 3,629<br>(51.7%)          | 19.0%        | 182           | 7,691          | 6,794<br>(96.8%)          | 97.6%        |
| 計         |                      | <b>2,078</b> | <b>34,450</b> | <b>13,212<br/>(33.4%)</b> | <b>17.8%</b> | <b>36,926</b> | <b>192,002</b> | <b>36,876<br/>(93.2%)</b> | <b>93.9%</b> |

注 「累計公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお、国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ4,664点を公開している。京都国立近代美



術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。フィルムセンターについては、映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

#### エ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

国立美術館5館全体においてVPN（暗号化された通信網）を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、VPNを用いたグループウェア及びテレビ会議システムを継続して稼働させた。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに、画像掲載の増加を図るため、平成23年度許諾を得た水彩・素描その他の作品929点の画像を掲載するとともに、平成24年度から新たに工芸についての著作権者情報を整備するとともに、初年度として陶磁の著作権許諾申請手続を開始した。

平成23年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システム並びに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、国立美術館各館と連携して実装させた。

平成23年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである [artlibraries.net \(http://artlibraries.net/index\\_en.php\)](http://artlibraries.net/index_en.php) と国立美術館の図書検索システム（東京国立近代美術館及び国立西洋美術館）の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、[artlibraries.net](http://artlibraries.net) への参加を実現させた。

### （４）国民の美的感性の育成

#### ① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

| 館名        | 実施回数       | 参加者数          | 目標数           |       |
|-----------|------------|---------------|---------------|-------|
| 東京国立近代美術館 | 本館         | 99            | 17,278        | 5,509 |
|           | 工芸館        | 39            | 1,679         | 1,616 |
|           | フィルムセンター   | 186           | 13,276        | 9,733 |
| 京都国立近代美術館 | 63         | 2,725         | 3,724         |       |
| 国立西洋美術館   | 144        | 13,143        | 10,261        |       |
| 国立国際美術館   | 61         | 3,611         | 3,486         |       |
| 国立新美術館    | 84         | 22,539        | 10,518        |       |
| 計         | <b>676</b> | <b>74,251</b> | <b>44,847</b> |       |

#### ア 各館の特徴

##### （ア）東京国立近代美術館

###### （本館）

幅広い層への解説プログラム（所蔵品ガイド、ハイライトツアー、キュレータートーク、音声ガイド、子ども用セルフガイドやイベント等）や来館者サービス（ライブラリ、ショップ、レストラン、休憩室、バリアフリー情報、夜間開館、無料観覧日、MOMATパスポート等）を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を制作した。

平成24年度は、開館60周年を記念して多くの特別プログラムを実施した。とりわけ「Concerto Museo / 絵と音の対話」と「14のタベ」は企画展ギャラリートーク内でコンサートやパフォーマンスを実施する全く新しい試みに取り組んだ。「だれでもMOMAT」では、子どもから大人まで、誰もが当館のコレクションに親しめることをコンセプトに5つのプログラムを開催した。

###### （工芸館）

「越境する日本人」展では連続講座を開催した。全7回のうち複数の講座に参加する来館者も見受けられ、一つのテーマを多面的かつ深く掘り下げる試みが好評であった。「寿ぎの『うつわ』」展では出品作家の並木恒延氏によるトークに際して制作の実演も行い、作品の背景を知る貴重な機会として強い関心が寄せられた。この事業に際しては多数の参加者が見込まれたことから、国立新美術館の情報担当の研究員の技術協力を得て、制作中の手元をスクリーンに映し出すとともに、別室に中継して対応した。

(フィルムセンター)

平成24年度は、大ホールの3企画及び展示室の3企画等で、計69回のトーク・イベントを行った。これらに加え、教育普及を目的とする上映イベントでは、小中学生を対象とする「こども映画館」、若い観客層の開拓を目的とした「カルト・ブランシュ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～」及びユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント（「講演と弁士・伴奏付き上映 日活映画の起源」）といった恒例行事に加え、研究員による講演解説付きの特別イベント「『地獄門』デジタル復元版特別上映会」を開催した。

東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業を新たに始め、国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行うための整備を行い、4回の講義を実施したほか、大学等の学生が、フィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付を開始した。

(イ) 京都国立近代美術館

平成24年度は、展覧会関連イベントとして鑑賞と制作を関連付けたワークショップを数多く開催した。世代の異なる参加者同士のコミュニケーションを意識し、年齢制限することなく、参加者を募った。また、三種類の異なるワークショップを企画・開催し、それぞれ2～3回行う機会を設けたことで、当館での学習支援活動が周知されることとなり、参加者の半分がリピーターとなった。

一方、学校との連携として、毎年京都市で夏休みに行われている小学校教員の教科別指導講座のうち、図画工作の会場が当館となり、京都市教育委員会の担当者と協力し、講座実現に向けて取り組んだ。京都市の小学校では、「図画工作」科を専科とする教員は配属されていないことから、新鮮な視点で「鑑賞教育」を授業に取り入れてもらう契機となったと思われる。

MoMAK Filmsの映画上映プログラムでは平成23年度に続き、ゲストトークを招いて、上映作に関連したトーク・イベントを行った。MoMAK Filmsの開催は当館の普及事業の柱ともなっており、映画鑑賞者を美術館に取り込むという意味でも貴重な機会となっている。

(ウ) 国立西洋美術館

平成24年度は、「ファン・ウィズ・コレクション」と「ファン・デー」の2つのプログラムを、企画展「手の痕跡—国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」と連携させるという初めての試みによって、来館者に彫刻作品を楽しむ多様な視点と数多くの機会を提供し、好評を博した。ファン・ウィズ・コレクション「彫刻の魅力を探る」では、東京藝術大学彫刻科研究室及び工芸科鋳金研究室の協力を得て、ロダンとブールデルが用いた彫刻制作の技法を紹介する小企画展を「手の痕跡」展内に設け、技法に関連する創作プログラムも実施した。2日間にわたって開催した「ファン・デー」では、常設展と併せて「手の痕跡」展も無料開放し、常設展関連の定番プログラムとなっている10分トークや建築ツアーを実施したほか、通常は小中学生のみに配布している「手

の痕跡」展セルフガイドを希望者へ無料配布した。さらに、同展に関連し、彫刻の技法のデモンストレーションを大理石、ブロンズ、粘土といった素材別に行い、多くの参加者を得た。

(エ) 国立国際美術館

引き続き、企画展ごとに講演会、対談、ギャラリートークなどを実施するとともに、小・中・高・特別支援学校の教職員または鑑賞教育に取り組んでいる方を対象に、美術館の活用法や子どもによる鑑賞の取り組みについての討議の場、情報交換の場として、「先生のための鑑賞ミーティング」を開催した。

また、上記のほか、以下の教育プログラムを実施した。

- ・鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（「国立国際美術館 35周年記念展コレクションの誘惑」（H24.4.21～H24.6.24 開催）、「コレクション」（H24.7.7～H24.9.30, H24.10.13～H24.12.24, H25.1.19～H25.3.24 開催）で配布）
- ・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ（2校を受入れ）
- ・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ（166校を受入れ）
- ・教員研修会の実施（3回）

(オ) 国立新美術館

展覧会に関連した講演会やアーティスト・トークのほか、「セザンヌ」展、「大エルミタージュ美術館展」、「具体」展ではシンポジウムを企画し、展覧会の内容をより深く検証するためのイベントの開催に積極的に取り組んだ。

一方、平成24年度の新規事業の「カフェアオキ」は、国立新美術館長と様々な分野で活躍する著名人が対談や鼎談を行うトーク・イベントである。カジュアルな雰囲気の中で著名人を迎えてのトークは、一般の人々に分かりやすい言葉で解説し美術や美術館により親しんでもらうことを目的としたもので、大勢の参加者があった。

このほか、開館以来、教育普及事業の柱の一つとなっているアーティスト・ワークショップでは、平成24年度に初めて未就学児を対象にしたワークショップ「はじめてのアート」を開催し好評を得た。また、写真家の柴田敏雄氏によるワークショップでは、2回にわたる講評のみを実施するなど、毎回参加者にとって最も有意義なプログラムを検討・企画し、ワークショップの内容を多様化し、充実させている。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

| 館名        |     | ボランティア登録者数 | ボランティア参加者数 | 事業参加者数 |
|-----------|-----|------------|------------|--------|
| 東京国立近代美術館 | 本館  | 41         | 378        | 3,627  |
|           | 工芸館 | 32         | 251        | 1,646  |
| 京都国立近代美術館 |     | 35         | 142        | —      |
| 国立西洋美術館   |     | 32         | 565        | 5,835  |
| 国立国際美術館   |     | 42         | 51         | —      |
| 国立新美術館    |     | 97         | 97         | —      |
| 計         |     | 279        | 1,484      | 11,108 |

イ 各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、リニューアル工事休館にあわせ、「MOMAT ガイドスタッフによる所蔵品ガイド」を2ヶ月半休止した。

ガイドスタッフに対するフォローアップ研修では、9月に奥村高明氏（聖徳大学教授）より「テート・モダンの鑑賞ハンドブックと子どもの鑑賞」、1月に本間美里氏（大田区立矢口小学校教諭）より「ギャラリートーク分析について」をテーマに講演を依頼し、教育学的側面から鑑賞活動への理解を深めた。

開館60周年記念プログラム「だれでも MOMAT」では、日頃の活動での経験を生かし、MOMAT ガイドスタッフが、「MOMATALK」、「アートカード・ワークショップ」及び「MOMAT パズル」の3つのプログラムを担当した。

工芸館では、ボランティアガイドの5期メンバーが本格的に活動を開始し、平日朝の団体対応がスムーズになった。また、海外（ドイツ及びアメリカ）の専門家によるタッチ&トークの調査希望があり、それぞれ英語タッチ&トークに実際に参加した。

(イ) 京都国立近代美術館

企画展ごとに、ボランティアスタッフによるアンケート調査の回収・集計を行った。

(ウ) 国立西洋美術館

スクール・ギャラリートークへの参加を希望する学校が年々増えており、平成24年度は、平成23年度より約700名も多くの児童がトークに参加した。特に、台東区の協力により、区内の小・中学校の来館数が増加した。プログラムの開始から4年が経過した美術トークもさらに周知されてきたとみられ、参加者数は平成23年度より大幅に増えている。平成23年度までボランティア・スタッフが行っていた「びじゅつーる」の貸出業務はインターンと都立上野高校奉仕の課外授業の高校生の担当となり、その分ボランティア・スタッフは、人手がより必要なスクール・ギャラリートークなどで大いに活躍した。

(エ) 国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り、教育普及事業の実施補助、広報資料の発送、図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通じて、美術館活動に接する機会を提供した。

なお、平成24年度は、「エル・グレコ展」の開催にあたり、ボランティアに協力を依頼し、展示室内の環境整備などを行い、美術館における展覧会活動についての理解を深める機会を提供した。

(オ) 国立新美術館

学生ボランティアである「サポートスタッフ」として、開館以来最も多い97名が登録した。美術や美術史だけでなく、幅広い分野の専攻の学生が、講演会やシンポジウム、ワークショップの運営補助などの活動に参加した。

ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) コンサート等の実施

東京国立近代美術館本館では、NPO 法人日本声楽家協会及び日本声楽アカデミーの協力を得て、開館60周年を記念するイベントとしてコンサート「Concerto Museo / 絵と音の対話」を3日間にわたり開催した（1階企画展ギャラリー、入場無料）。（計1件3回）

京都国立近代美術館では、「KATAGAMI Style」展及び「山口華楊展」において、京都市立芸術大学の協力によりコンサートを開催した。（計 2 件、2 回）

国立西洋美術館では、財団法人アルゲリッチ芸術振興財団及び上野のれん会との連携による「ピノキオ コンサート～子どもと大人のための音・学・会 at 国立西洋美術館」、企画展関連企画「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年 レクチャー・コンサート」、東京藝術大学との連携による「Museum X'mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」クリスマスキャロル・コンサート及びジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー 前庭コンサート」を開催した。（計 4 件、11 回）

国立国際美術館では、「リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術」に関連し、澤野工房と協力した大石学によるピアノコンサートとともに、財団法人ダイキン工業現代美術振興財団と協力した「ミュージアムコンサート Vol.17」を開催した。（計 2 件、2 回）

国立新美術館では、企業協賛金を活用した館主催のロビーコンサート「国立新美術館サマー・ジャズコンサート」及び「国立新美術館クリスマス・オペラコンサート」（制作：新国立劇場）を開催した。（計 2 件、2 回）

#### （イ）ぐるっとパスへの参加

東京の美術館・博物館等 75 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2012」及び関西の美術館・博物館等 65 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2012」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化または割引や、企画展観覧料の割引などを実施した。

#### （ウ）NPO 法人との連携

東京国立近代美術館本館では、NPO 法人日本声楽家協会及び日本声楽アカデミーの協力を得て、開館 60 周年を記念するイベントとしてコンサート「Concerto Museo / 絵と音の対話」を 3 日間にわたり開催した（1 階企画展ギャラリー、入場無料）。（平成 24 年 8 月 10 日～8 月 12 日、計 3 回）

国立西洋美術館では、ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー 前庭コンサート」を開催した。（平成 24 年 11 月 10 日、11 日、計 4 回）

#### （エ）企業との連携

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、三菱商事株式会社と共同で行っている障がい者のための鑑賞プログラムを実施した。

東京国立近代美術館では、「美術にぶるっ！展」（平成 24 年 11 月 24 日）及び「フランス・ベーコン展」（平成 25 年 3 月 23 日）の閉館後に障がい者特別内覧会を実施した。「美術にぶるっ！展」の参加者は 102 名、「フランス・ベーコン展」の参加者は 98 名であった。

国立西洋美術館では、「ベルリン国立美術館」展（平成 24 年 7 月 14 日）を対象に障がい者特別内覧会を実施し参加者は 236 名であった。

国立国際美術館では、企業とのタイアップによる前売券の発券、企業等が発行する印刷物・ホームページへの展覧会情報の掲載等、企業との連携を進めた。

①朝日新聞グループ 朝日友の会、(株)阪急阪神カード、(株)京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに割引を実施した。

- ②近隣ホテルと連携し、広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施した。
- ③「Osaka メセナカード」と連携し、カードの普及広報を行った。
- ④近畿地方整備局の中之島活性化実行委員会に協力するとともに、同委員会の実行企業である京阪電鉄の広報誌において、展覧会及びイベントの広報を行った。

国立新美術館では、外部協力者（参与）と連携し、外部資金の募金活動を行い、コンサート事業等の支援を目的に、企業から協賛金を受け入れた。企業協賛金を活用した事業として、託児サービスを提供するとともに、JAC（Japan Art Catalog）プロジェクトにより、海外の日本美術の研究拠点4箇所へ国内で開催された展覧会図録を寄贈した。

(オ) その他

東京国立近代美術館では、近代美術協会との連携により、平成25年1月2日に工芸館所蔵作品展「近代日本の漆工芸」の観覧料を無料とした。また、本館及び工芸館の来館者には、過去の展覧会図録、ポスター及びオリジナルグッズのプレゼントを行った。さらに、本館では開館60周年を記念して「60周年記念ピンバッジ」のプレゼントも行った。（入館者数 本館 2,426人、工芸館 2,443人）

また、東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、東京都が実施する「家族ふれあいの日」事業に参加し、子ども連れ家族来館者の観覧料（フィルムセンターは7階展示室）を無料または割引にした。

③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@home 2012」は、フィルムセンターが提供する映画コレクションを、京都の会場で上映する趣旨で、平成19年度に開始されたが、年に1回(各回1日)を仮設の会場で開催していた初年度及び第2年度から、様々な方法を模索しつつ徐々に拡充している。

「第5回中之島映像劇場 浪花の映像【キネマ】の物語—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品から—」は、平成22年度より国立国際美術館が始めた表題の事業を、年1回フィルムセンターとの共催により行っている事業であるが、平成23年度に比べ入館者数を50人以上増やすことができた。また、各作品の撮影場所の同定を通して近代建築と映画との親和性を明らかにした、客員研究員による調査結果を反映した当日プログラムの配布や、上映前の解説を通じて、観客の作品理解を一層促進することができた。

これらの共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵作品の定期的な上映拠点の形成に、堅実な成果を上げている。

(5) 調査研究成果の美術館活動への反映

① 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館

| 調査研究テーマ              | 美術館活動への反映  | 連携機関   |
|----------------------|--|--------|
| 現代の写真作家に関する調査研究      | 「写真の現在4 そのときの光、そのさきの風」展を開催しカタログを発行                         |        |
| 吉川壺華に関する調査研究         | 「吉川壺華展 近代にうまれた線の探究者」を開催しカタログを発行                            |        |
| 1950年代の日本の美術に関する調査研究 | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」第2部「実験場1950s」を開催しカタログ及び論文集を発行 |        |
| フランシス・ベーコンに関する調査     | 「フランシス・ベーコン展」を開催しカタログを                                     | 豊田市美術館 |

|  |   |                                       |
|--|---|---------------------------------------|
| 研究   | 発行  |                                       |
| 鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や、学校の授業と美術館での鑑賞の連続性に関する調査研究           | 学校の授業と関連付けた、小・中学校のギャラリートークの受入れ及び全国指導者研修をはじめとした鑑賞教育研修の実施   | 東京都図画工作研究会、東京都中学美術研究会                 |
| 美術館の教育普及事業(ワークショップ、鑑賞ガイド等)に関する調査研究                     | セルフガイドの発行、60周年記念「だれでもMO MAT」の実施   |                                       |
| 国立美術館の情報資源を、「想-IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開に関する調査研究 | 「想-IMAGINE 国立美術館」を <a href="http://imagine.artmuseums.go.jp/index.jsp">http://imagine.artmuseums.go.jp/index.jsp</a> において継続して公開 |                                       |
| 1960-70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築                       | データ・ベース「1960-70年代の概念芸術」を構築  |                                       |
| 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発                              | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年ジュニアガイド」の発行   |                                       |
| 工芸の現代的表現に関する調査研究                                       | 企画展「現代の座標—工芸をめぐる11人の思考」   | 敦井美術館、金沢21世紀美術館、豊田市美術館、資生堂アートフォーラム他   |
| 近代日本工芸の系譜に関する調査研究                                      | フィレンツェ展「日本のわざと美—近代工芸の精華—」   | 文化庁、ピッティ宮殿銀器博物館、京都国立近代美術館他            |
| 明治期に海外流出した近代工芸作品の調査                                    | 近代初頭の工芸の展開の検証と作品収集及び展示への活用  | フィラデルフィア美術館、ボルチモア美術館、国立自然史博物館、フリーア美術館 |
| 東アジア地域のデザインにみる交流に関する歴史的研究：中国、台湾、韓国、日本                  | 国際シンポジウム「オリエンタル・モダニティ：東アジアのデザイン史 1920—1990」   | 埼玉大学、津田塾大学、ロンドン芸術大学                   |
| 工芸館のコレクションと所蔵作品展染織作品の鑑賞にかかる調査研究                        | 『東京国立近代美術館60年史 1952-2012』所蔵作品展「植物図鑑」セルフガイドへの活用  | 実践女子大学                                |
| 工芸素材と技法の体験と鑑賞教育の推進にかかる調査研究                             | 所蔵作品展「植物図鑑」ワークショップへの活用  | 多摩美術大学                                |
| 1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究                   | 研究論文を刊行するとともに、研究成果の一部は、平成25年度開催予定の展覧会カタログに反映予定  | 首都大学東京<br>国立新美術館                      |
| 戦後日本に配給された外国映画に関する調査研究                                 | 上映会「ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画」、展覧会「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」の開催   | 一般社団法人外国映画輸入配給協会                      |
| 新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究                                | 上映会「よみがえる日本映画vol.4 [大映篇] —映画保存のための特別事業費による」「よみがえる日本映画vol.5 [日活篇] —映画保存のための特別事業費による」の開催  |                                       |
| 現代欧州映画に関する調査研究   | 上映会「EUフィルムデーズ2012」の開催   | 駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関              |
| 今井正監督に関する調査研究  | 上映会「生誕百年 映画監督 今井正」の開催   |                                       |
| 無声映画に関する調査研究   | 上映会「シネマの冒険 闇と音楽 2012」の開催  |                                       |
| 木下恵介監督に関する調査研究   | 上映会「生誕百年 木下恵介劇場」の開催   |                                       |
| 日活の歴史と作品に関する調査研究                                       | 上映会「日活映画の100年 日本映画の100年」、展覧会「日活映画の100年 日本映画の100年」及び教育普及事業「講演と弁士・伴奏付き上映 日活映画の起源」の開催  |                                       |
| 現代日本映画監督に関する調査研究                                       | 上映会「自選シリーズ 現代日本の映画監督1 崔洋一」の開催   |                                       |
| 戦後日本に配給された外国映画に関する調査研究                                 | 上映会「ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画」及び展覧会「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」の開催  | 社団法人外国映画輸入配給協会                        |
| 日活の歴史と作品に関する調査研究                                       | 上映会「日活映画の100年 日本映画の100年」, 「よみがえる日本映画vol.5 [日活篇] —映画保  | 日活株式会社                                |

|                             |  |  |
|-----------------------------|--|--|
|                             | 存のための特別事業費による」、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「講演と弁士・伴奏付き上映日活映画の起源」及び展覧会「日活映画の100年 日本映画の100年」の開催 |  |
| ジャンル別の映画ポスターに関する研究          | 展覧会「西部劇(ウェスタン)の世界 ポスターでみる映画史Part 1」の開催   |  |
| 「写し絵」に関する調査研究               | 写し絵実演の記録撮影の実施及び常設展「NFCコレクションでみる日本映画の歴史」での資料展示  |  |
| 「無声映画の音—帝政期ロシアにおける初期映画興行研究」 | 美術館が所蔵する帝政ロシア映画のデータベース充実化  |  |

## イ 京都国立近代美術館

| 調査研究テーマ                                   | 美術館活動への反映  | 連携機関                      |
|---|--|---------------------------|
| 我が国における1920年代前衛美術の先駆者・村山知義に関する調査研究        | 展覧会「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」を開催  | 神奈川県立近代美術館、高松市美術館、世田谷美術館  |
| 京都で活躍した版画家・井田照一の新収蔵コレクションに関する研究           | 展覧会「井田照一の版画」を開催するとともに、図録を「所蔵作品目録X」として刊行                                    |                           |
| もうひとつのジャポニスムというべき、ヨーロッパにおける「型紙」に関する調査研究   | 展覧会「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニスム」を開催                                      | 三菱一号館美術館、三重県立美術館、ジャポニスム学会 |
| 我が国の近代洋画の先駆者である高橋由一の調査研究                  | 展覧会「近代洋画の開拓者 高橋由一」を開催  | 東京藝術大学                    |
| 京都を代表する日本画家・山口華揚に関する調査研究                  | 展覧会「山口華揚展」を開催  | 笠岡市立竹喬美術館                 |
| 「日本の映画ポスター芸術」についての調査研究                    | 展覧会「日本の映画ポスター芸術」を開催  | 東京国立近代美術館フィルムセンター         |
| 開館50周年に当たって、「工芸」を中心とする記念展開催のための調査研究       | 展覧会「交差する表現」を開催   |                           |
| 子どもを対象とした鑑賞教育に関する研究実践                     | 「京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて」の研修会を実施                                       | 京都市教育委員会、京都市図画工作研究会       |
| 「東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の脱—、超—領域的作用史の基盤研究」 | 国書刊行会から、研究の集大成として『東西文化の磁場』を出版（平成25年3月）                                     |                           |
| 「装飾とデザインのジャポニスム—西欧におけるその概念形成と実作の研究」       | 関連展覧会「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニスム」の会期中にシンポジウムを開催し、上記『東西文化の磁場』にも研究成果を盛り込む | 日本女子大学                    |
| 「イディッシュ語文化圏における芸術活動の研究」                   | 当該科研による研究会（於明治学院大学）における発表を実施   | 大阪大学                      |
| 「1960～70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築」        | 平成25年度特別展の内容に研究調査を盛り込む予定   | 東京国立近代美術館                 |
| 「オーラルヒストリーによる1960年代前衛美術研究の再構築」            | 50周年記念展「交差する表現」図録に、元館員の聞き取り調査の記録を盛り込んだ                                     | 広島市立大学                    |

## ウ 国立西洋美術館

| 調査研究テーマ   | 美術館活動への反映  | 連携機関                    |
|---|--|-------------------------|
| ユベール・ロベール及び18世紀のフランス風景画をめぐる美学的展開に関する調査研究                | 「ユベール・ロベール—時間の庭」展を開催<br>同展の図録を刊行、新聞等への掲載、講演会及びシンポジウム等による発表を実施    | ヴァランス美術館、静岡県立美術館、福岡市美術館 |
| ベルリン国立美術館所蔵のイタリアと北方の絵画彫刻の比較研究及び15～17世紀イタリア素描の技法に関する調査研究 | 「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の400年」を開催<br>同展の図録を刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施 | ベルリン国立美術館、九州国立博物館       |
| 国立西洋美術館所蔵のロダンとブ   | 「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心と  |                         |



|   |   |                    |
|---|---|--------------------|
| ールデル作品に関する調査研究                                    | したロダンとブールデルの彫刻と素描」展を開催<br>同展の図録を刊行，新聞等への掲載，ギャラリートーク等を実施     |                    |
| ラファエロに関する研究                                       | 「ラファエロ」展を開催<br>同展の図録を刊行，新聞等への掲載，講演会等による発表を実施                | フィレンツェ文化財・美術館特別監督局 |
| 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究                    | 作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等                        |                    |
| 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究                         | 作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等                        |                    |
| 所蔵版画作品に関する調査研究                                    | 作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等                        |                    |
| 美術館教育に関する調査研究                                     | 教育普及プログラムを実施<br>鑑賞教育教材制作，インターンシップ，ボランティア指導，解説等(企画展解説パネル制作等) |                    |
| ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究                   | 教育普及プログラムを実施<br>文献や図面の調査<br>本館保存に関する修理検討委員会の実施              |                    |
| 「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究                         | 国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築，整備                                     |                    |
| 「西洋近世版画史の一次資料調査」                                  | 作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等                        |                    |
| 「共和主義におけるチャールズ・ウィルソン・ピールのミュージアムの教育的役割と視覚による教育の成立」 | 教育普及活動に関する文献調査，今後の活動に関する基礎資料                                |                    |
| 「ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代建築と古代彫刻のデータベース構築」         | 作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，解説等                                  |                    |
| 「エライザ法を用いた接着材同定の実現のための検討」                         | 所蔵作品の保存のための基礎資料   |                    |
| 「ナショナル・ポートレート・ギャラリー その思想と歴史」                      | 美術館の成立に関する文献調査<br>刊行物                                       |                    |
| 「海外における松方コレクション関連資料の収集と公開」                        | 作品及び文献調査，関連資料のデータベースの構築と整備                                  |                    |

## エ 国立国際美術館

| 調査研究テーマ               | 美術館活動への反映  | 連携機関   |
|-----------------------|--|--------|
| 所蔵作品についての調査研究         | コレクション展  |        |
| 現代日本美術の動向についての調査研究    | 「リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術」                                 |        |
| 柏原えつとむについての調査研究       | 「＜私＞の解体へ：柏原えつとむの場合」                                      |        |
| エル・グレコについての調査研究       | 「エル・グレコ展」  | 東京都美術館 |
| 宮永愛子についての調査研究         | 「宮永愛子：なかそらー空中空ー」   |        |
| 現代の映像表現についての調査研究      | 「夢か、現か、幻か」   |        |
| 工藤哲巳に関する調査研究          | 展覧会の企画構成   |        |
| ライアン・ガンダーについての調査研究    | 所蔵作家の研究  |        |
| アンドレアス・グルスキーについての調査研究 | 展覧会の企画構成   | 国立新美術館 |
| 高松次郎についての調査研究         | 展覧会の企画構成   |        |
| 美術館教育に関する調査研究         | 美術館，展覧会運営<br>(ジュニアセルフガイド作成，びじゅつあー／なつやすみびじゅつあー／びじゅつあーすぺし) |        |

|                                 |                                   |                       |
|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------|
|                                 | やる/ワークショップの企画)                    |                       |
| アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究        | 美術館, 展覧会運営                        | アジア次世代キュレーター会議        |
| フランス国立クリュニー中世美術館所蔵作品についての調査研究   | 展覧会の企画構成                          | フランス国立中世美術館, 国立新美術館   |
| 工藤哲巳についての調査研究                   | 展覧会の企画構成                          |                       |
| 郭徳俊についての調査研究                    | 展覧会の企画構成                          |                       |
| フォートリエについての調査研究                 | 展覧会の企画構成                          | 東京ステーションギャラリー, 豊田市美術館 |
| フィオナ・タンについての調査研究                | 展覧会の企画構成                          | 東京都写真美術館              |
| 高松次郎についての調査研究                   | 展覧会の企画構成                          |                       |
| ジャコメッティについての調査研究                | 展覧会の企画構成                          |                       |
| ミュージアムと地域活性化-変容するミュージアムの新たな経営課題 | 美術館, 展覧会運営                        | 東京国立近代美術館             |
| 美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発       | 美術館, 展覧会運営<br>(先生のための鑑賞ミーティングの企画) | 同志社大学経済学部             |

#### オ 国立新美術館

| 調査研究テーマ                             | 美術館活動への反映                                 | 連携機関                        |
|-------------------------------------|---|-----------------------------|
| 日本の現代美術の動向に関する調査研究                  | 「アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち」展を開催             |                             |
| 海外の現代美術の動向に関する調査研究                  | 「アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち」展を開催             |                             |
| 野田裕示の芸術とその展開についての調査研究               | 「野田裕示 絵画のかたち/絵画の姿」展を開催                    |                             |
| セザンヌの芸術と生涯に関する調査研究                  | 「セザンヌ—パリとプロヴァンス」展を開催                      | パリ市立ブティ・パレ美術館               |
| 柴田敏雄の芸術とその展開についての調査研究               | 「与えられた形象—辰野登恵子/柴田敏雄」展を開催                  |                             |
| 辰野登恵子の芸術とその展開についての調査研究              | 「与えられた形象—辰野登恵子/柴田敏雄」展を開催                  |                             |
| 具体美術協会についての調査研究                     | 「『具体』—ニッポンの前衛 18年の軌跡」展を開催                 |                             |
| 関西の戦後前衛美術についての調査研究                  | 「『具体』—ニッポンの前衛 18年の軌跡」展を開催                 |                             |
| バロック美術についての調査研究                     | 「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」展を開催                | 高知県美術館, 京都市美術館              |
| ロシアにおける西欧美術の収集と受容についての調査研究          | 「大エルミタージュ展 世紀の顔・西欧絵画の400年」展を開催            | エルミタージュ美術館, 京都市美術館, 名古屋市美術館 |
| 20世紀中葉のロサンゼルスにおけるデザイン潮流についての調査研究    | 「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」展を開催 | ロサンゼルス・カウンティ美術館             |
| 美術館の教育普及事業(ワークショップ, 鑑賞ガイド等)に関する調査研究 | 教育普及事業                                    |                             |
| 日本の近・現代美術資料に関する調査研究                 | 美術資料の収集・提供事業                              |                             |
| 戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究 | 美術資料の収集・提供事業                              |                             |
| 美術情報の収集・提供システムに関する調査研究              | 美術資料の収集・提供事業                              |                             |
| 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究        | 美術資料の収集・提供事業                              |                             |

## ② 展覧会カタログの執筆

### ア 東京国立近代美術館

| タイトル   | 執筆者職名・氏名    | 展覧会名  |
|--|-------------|---|
| 作品解説   | 主任研究員・大谷省吾  | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」                 |
| 「静物としての身体、もしくはアンチ・ヒューマニズムについて」                     | 主任研究員・大谷省吾  | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」（論文集『実験場 1950s』） |
| 章解説  | 主任研究員・鈴木勝雄  | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」                 |
| 「集団の夢—50年代を貫く歴史的パトス」                               | 主任研究員・鈴木勝雄  | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」（論文集『実験場 1950s』） |
| 「吉川靈華について」、章解説、作品目録、作品解説、年譜、参考文献                   | 主任研究員・鶴見香織  | 「吉川靈華展 近代にうまれた線の探究者」                          |
| 作品解説   | 主任研究員・鶴見香織  | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」                 |
| 「フランシス・ベーコンについての断章、いくつか」、章解説、作品解説、年譜、アンソロジー（編集・翻訳） | 主任研究員・保坂健二郎 | 「フランシス・ベーコン展」                                 |
| 「政治の絵画から絵画の政治へ—中村宏の場合」                             | 研究員・榊田倫広    | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」（論文集『実験場 1950s』） |
| 「うわさのベーコン—日本におけるフランシス・ベーコン受容の歴史のためのノート」、作品解説       | 研究員・榊田倫広    | 「フランシス・ベーコン展」                                 |
| 「世界に出会う持続的な営為」、インタビュー」                             | 主任研究員・増田玲   | 「写真の現在4 そのときの光、そのさきの風」                        |
| 「時代はめぐる—東京国立近代美術館の60年」                             | 副館長・松本透     | 「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」                 |
| 東京オリンピック 1964 そのデザインワークにおける「日本的なもの」                | 主任研究員・木田拓也  | 「東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト」                    |
| 工芸家が夢見たアジア：工芸の「アジア主義」                              | 主任研究員・木田拓也  | 「越境する日本人：工芸家が夢見たアジア 1910s-1945」               |
| 現代工芸を担う11人   | 主任研究員・諸山正則  | 「現代の座標—工芸をめぐる11の思考—」                          |

### イ 京都国立近代美術館

| タイトル                            | 執筆者職名・氏名   | 展覧会名                            |
|---------------------------------|--|---------------------------------|
| 「村山知義と建築、パウハウス」についての一断片         | 学芸課長・山野英嗣  | 「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」           |
| 『京都国立近代美術館作品目録X 井田照一の版画』への若干の脚註 | 客員研究員・河本信治   | 「井田照一の版画」                       |
| 「型」を求めて—ドイツにおける型紙受容とその背景        | 主任研究員・池田祐子   | 「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニスム」 |
| 作者・工房解説                         | 主任研究員・池田祐子<br>阿佐美淑子（三菱一号館美術館・主任学芸員）<br>味岡京子（明治学院大学／日本女子大学・非常 | 「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニスム」 |

|                    |  |  |
|--------------------|--|--|
|                    | 勤講師)<br>今井朋 (パリ・ルーブル学院博士課程在籍)<br>桑 和沙 (日本女子大学・ 学術研究員)<br>高木陽子 (文化学園大学・教授)<br>馬淵明子 (日本女子大学・教授)<br>鈴木暁世 (福岡女子大学専任講師)<br>山崎菜未 (東京藝術大学大学院博士課程在籍) |  |
| 山口華楊一人と作品          | 主任研究員・小倉実子   | 「山口華楊展」                                |
| 作品解説               | 主任研究員・小倉実子<br>上藺四郎 (笠岡市立竹喬美術館館長)   | 「山口華楊展」                                |
| 〈工芸〉表現の一断面から見たその諸相 | 学芸課長・山野英嗣  | 「開館 50 周年記念特別展<br>交差する表現 工芸/デザイン/総合芸術」 |

#### ウ 国立西洋美術館

| タイトル                     | 執筆者職名・氏名   | 展覧会名                                    |
|--------------------------|------------|---|
| 「サンドロの友」の憂鬱, 《フローラ》の涙    | 主任研究員・高梨光正 | 「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年」          |
| イタリア素描の技法さまざま            | 主任研究員・高梨光正 | 「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年」          |
| 松方幸次郎と国立西洋美術館の近代美術コレクション | 学芸課長・村上博哉  | 「平成 24 年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵ヨーロッパの近代美術」  |
| 序ーロダンとブールデル, 彫刻に残る手の痕跡   | 主任研究員・大屋美那 | 「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」 |
| 松方幸次郎収集のロダンとブールデルの彫刻     | 主任研究員・大屋美那 | 「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」 |
| ロダンの《エヴァ》について            | 主任研究員・大屋美那 | 「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」 |
| ラファエロ像の変遷と偶像化への過程        | 主任研究員・渡辺晋輔 | 「ラファエロ」                                 |

#### エ 国立国際美術館

| タイトル             | 執筆者職名・氏名   | 展覧会名                           |
|------------------|------------|--------------------------------|
| 国立国際美術館のコレクション逍遙 | 館長・山梨俊夫    | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説 | 学芸課長・島敦彦   | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説 | 主任研究員・中井康之 | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説 | 主任研究員・安來正博 | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説 | 主任研究員・中西博之 | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |

|                        |             |                                |
|------------------------|-------------|--------------------------------|
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 主任研究員・植松由佳  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 主任研究員・藤吉祐子  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 研究員・橋本梓     | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 客員研究員・竹内万里子 | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 客員研究員・森下明彦  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 研究補佐員・小野尚子  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 研究補佐員・福元崇志  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 研究補佐員・宮田有香  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| 国立国際美術館所蔵作品選作品解説       | 研究補佐員・岡部るい  | 「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」 |
| ユニークさを求めて              | 主任研究員・中西博之  | 「リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術」       |
| 出品作家 9 名の解説            | 主任研究員・中西博之  | 「リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術」       |
| <私>の解体へ：柏原えつとむの場合      | 研究員・橋本梓     | 「<私>の解体へ：柏原えつとむの場合」            |
| 年表一般事項                 | 主任研究員・安來正博  | 「エル・グレコ展」                      |
| 始まりはあって終わりはないー宮永愛子の芸術ー | 主任研究員・中井康之  | 「宮永愛子：なかそらー空中空ー」               |
| 「夢か、現か、幻かーWhat We See」 | 主任研究員・植松由佳  | 「夢か、現か、幻か」                     |

## オ 国立新美術館

| タイトル                            | 執筆者職名・氏名   | 展覧会名                             |
|---------------------------------|------------|----------------------------------|
| 「マティスとロシアーロシア・アヴァンギャルドにおける「東方」」 | 主任研究員・本橋弥生 | 「大エルミターージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の 400 年」 |
| 「『具体』ー近代精神の理想郷」, 章解説, 年譜, 作家略歴  | 主任研究員・平井章一 | 「『具体』ーニッポンの前衛 18 年の軌跡」           |
| 「大阪万博というフィナーレへ向かって」, 「主要参考文献」   | 研究員・山田由佳子  | 「『具体』ーニッポンの前衛 18 年の軌跡」           |
| 「与えられた形象ー序論」                    | 学芸課長・南雄介   | 「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」             |
| 「辰野登恵子 その展開についての記述の試み」          | 学芸課長・南雄介   | 「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」             |
| 「柴田敏雄の写真」                       | 主任研究員・宮島綾子 | 「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」             |
| 「デキウス・ムス連作ールーベンス芸術マニフェステーション」   | 主任研究員・宮島綾子 | 「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」           |
| 「利部志穂の作品について」                   | 学芸課長・南雄介   | 「アーティスト・ファイル」                    |

|   |            |  |
|---|------------|--|
|   |            | 2013—現代の作家たち                             |
| 「ダレン・アーモンド」   | 主任研究員・西野華子 | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「ジョン・ヨンドウ」  | 主任研究員・西野華子 | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「東亭順」   | 主任研究員・宮島綾子 | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「ナリニ・マラニ」   | 主任研究員・本橋弥生 | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「志賀理江子:写真における身体とイメージ」   | 主任研究員・長屋光枝 | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「《返本還元》から《竜神》へ—<br>國安孝昌の仕事」                                     | 副館長・福永治    | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「中澤英明の絵画」   | 副館長・福永治    | 「アーティスト・ファイル<br>2013—現代の作家たち」            |
| 「『パシフィカ』と『ジャパニーズ・<br>モダン』—1950年代カリフォルニアと<br>日本における日本調のモダン・デザイン」 | 主任研究員・本橋弥生 | 「カリフォルニア・デザイン<br>1930-1965—モダン・リビングの起源—」 |

### ③ 研究紀要の執筆

#### ア 東京国立近代美術館（本館・工芸館）

| タイトル   | 執筆者職名・氏名   | 掲載誌名                | 発行年月日      |
|--|------------|---------------------|------------|
| 「山田正亮 life and work 制作ノートを中心に」               | 企画課長・中林和雄  | 『東京国立近代美術館研究紀要』第17号 | 2013年3月31日 |
| 松田権六「優品之調査」                                  | 主任研究員・北村仁美 | 『東京国立近代美術館研究紀要』第17号 | 2013年3月31日 |
| ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン 1956-2008:工芸/CRAFTの行方 | 主任研究員・木田拓也 | 『東京国立近代美術館研究紀要』第17号 | 2013年3月31日 |

#### (フィルムセンター)

| タイトル                                  | 執筆者職名・氏名    | 掲載誌名                 | 発行年月日      |
|---------------------------------------|-------------|----------------------|------------|
| 関東大震災記録映画群の同定と分類—NFC所蔵フィルムを中心として      | 研究員・大澤浄     | 『東京国立近代美術館 研究紀要』第17号 | 2013年3月31日 |
| 『土』から『家』へ—その政治的権能の変遷に関する考察—           | 客員研究員・浅利浩之  | 『東京国立近代美術館 研究紀要』第17号 | 2013年3月31日 |
| フィルムセンター所蔵の小型映画コレクション 9.5mm フィルム調査の覚書 | 技能補佐員・郷田真理子 | 『東京国立近代美術館 研究紀要』第17号 | 2013年3月31日 |

#### イ 京都国立近代美術館

| タイトル                                 | 執筆者職名・氏名 | 掲載誌名                                | 発行年月日      |
|--------------------------------------|----------|-------------------------------------|------------|
| キュレトリアル・スタディズ 05 ニュー・バウハウスの写真家たちはじめに | 研究員・牧口千夏 | 京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS -VOL.5 | 2013年3月20日 |

#### ウ 国立西洋美術館

| タイトル                         | 執筆者職名・氏名   | 掲載誌名              | 発行年月日      |
|------------------------------|------------|-------------------|------------|
| 作品調査報告—ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》  | 主任研究員・高梨光正 | 国立西洋美術館研究紀要 No.17 | 2013年3月31日 |
| ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代彫刻の同定 | 研究補佐員・飯塚隆  | 国立西洋美術館研究紀要 No.17 | 2013年3月31日 |

|   |               |                   |            |
|---|---------------|-------------------|------------|
| 古代末期におけるキリスト教と異教の併存の一例—イタリア国ソマ・ヴェスヴィアーナ在ローマ時代遺跡 | リサーチフェロー・向井朋生 | 国立西洋美術館研究紀要 No.17 | 2013年3月31日 |
|---|---------------|-------------------|------------|

#### ④ 館ニュース等の執筆

ア 東京国立近代美術館（本館・工芸館）

| タイトル   | 執筆者職名・氏名    | 掲載誌名            | 発行年月日    |
|--|-------------|-----------------|----------|
| 「ジャクソン・ポロック展におけるく表現+鑑賞>連続授業のとりくみ」                | 主任研究員・一條彰子  | 『現代の眼』593号      | 2012年4月  |
| 「本館の教育普及事業」「独立行政法人国立美術館としての教育普及事業—指導者研修とアートカード」  | 主任研究員・一條彰子  | 『東京国立近代美術館60年史』 | 2012年12月 |
| 「開館六〇周年記念プログラム「だれでも MOMAT」」                      | 主任研究員・一條彰子  | 『現代の眼』598号      | 2013年2月  |
| 「須田国太郎が《書齋》の影に込めた想いとは？」                          | 主任研究員・大谷省吾  | 『現代の眼』593号      | 2012年4月  |
| 「12月1日（土）開館記念日の催しのご案内」                           | 主任研究員・大谷省吾  | 『現代の眼』596号      | 2012年10月 |
| 「この六〇年に、何が「名品」として選ばれてきたか」                        | 主任研究員・大谷省吾  | 『現代の眼』597号      | 2012年12月 |
| 各展覧会概説   | 主任研究員・大谷省吾  | 『東京国立近代美術館60年史』 | 2012年12月 |
| 「作品研究 影と遠近法—荒川修作と高松次郎」                           | 美術課長・蔵屋美香   | 『現代の眼』594号      | 2012年6月  |
| 「平成23年度の新収蔵作品（美術作品）について」                         | 美術課長・蔵屋美香   | 『現代の眼』596号      | 2012年10月 |
| 「整理と壁面—所蔵品ギャラリーリニューアルで、建築家と美術館が考えたこと」            | 美術課長・蔵屋美香   | 『現代の眼』597号      | 2012年12月 |
| 「本館のコレクションと所蔵作品展」「所蔵作品展における戦争画の展示」               | 美術課長・蔵屋美香   | 『東京国立近代美術館60年史』 | 2012年12月 |
| 「60周年記念企画—夏期休館中の催しについて」                          | 研究補佐員・柴原聡子  | 『現代の眼』594号      | 2012年6月  |
| 展覧会予告「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」               | 主任研究員・鈴木勝雄  | 『現代の眼』595号      | 2012年8月  |
| 「[所蔵作品展特集] 大下藤次郎から中西利雄へ—揺さぶられる水彩画」               | 主任研究員・都築千重子 | 『現代の眼』593号      | 2012年4月  |
| 「コレクションの画像の保存と活用をめぐる—デジタル完全移行を見据えての共同研究プロジェクト始動」 | 主任研究員・都築千重子 | 『現代の眼』595号      | 2012年8月  |
| 展覧会予告「吉川霊華展 近代にうまれた線の探究者」                        | 主任研究員・鶴見香織  | 『現代の眼』593号      | 2012年4月  |
| 「吉川霊華にまつわることごと：市田儀一郎氏に聞く」                        | 主任研究員・鶴見香織  | 『現代の眼』594号      | 2012年6月  |
| 「本館の企画展」   | 企画課長・中林和雄   | 『東京国立近代美術館60年史』 | 2012年12月 |
| 「60周年記念事業をふりかえって」                                | 企画課長・中林和雄   | 『現代の眼』598号      | 2013年2月  |
| 「作品研究 川合玉堂《小松内府図》について」                           | 主任研究員・中村麗子  | 『現代の眼』598号      | 2013年2月  |

|   |             |                   |                 |
|---|-------------|-------------------|-----------------|
| 「近代美術館における展示と建築」「建築展の変遷とその問題点」「『オルタナティブ・スペース』としてのギャラリー4」    | 主任研究員・保坂健二郎 | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月     |
| 展覧会予告「フランシス・ベーコン」   | 主任研究員・保坂健二郎 | 『現代の眼』597 号       | 2012 年 12 月     |
| 「六〇周年記念特別展『美術にぶるっ！ベストセレクション 日本近代美術の 100 年』によせて」             | 研究員・梶田倫広    | 『現代の眼』596 号       | 2012 年 10 月     |
| 展覧会予告「写真の現在 4 そのときの光、そのさきの風」展                               | 主任研究員・増田玲   | 『現代の眼』593 号       | 2012 年 4 月      |
| 「平成 23 年度の新収蔵作品（美術作品）について」                                  | 主任研究員・増田玲   | 『現代の眼』596 号       | 2012 年 10 月     |
| 「本館の写真コレクション」   | 主任研究員・増田玲   | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月     |
| 「東京国立近代美術館の 60 年」「カタログの学術性—『マチス展』のことなど」                     | 副館長・松本透     | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月     |
| 「東京国立近代美術館 60 周年記念シンポジウム 近代美術館の誕生—前史から未来へ」                  | 副館長・松本透     | 『現代の眼』598 号       | 2013 年 2 月      |
| 「本館の情報資料事業」   | 主任研究員・水谷長志  | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月     |
| 「二冊の六〇周年記念刊行物—『60 年史』と『美術家たちの証言—東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』選集』について」 | 主任研究員・水谷長志  | 『現代の眼』597 号       | 2012 年 12 月     |
| 「60 周年記念企画—夏期休館中の催しについて」                                    | 主任研究員・三輪健仁  | 『現代の眼』594 号       | 2012 年 6 月      |
| 「「ビデオを待ちながら：映像、60 年代から今日へ」展について」                            | 主任研究員・三輪健仁  | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月     |
| 「寿ぎ」のうつつわ展解題  | 主任研究員・北村仁美  | 『現代の眼』598 号       | 2013 年 2 月 1 日  |
| 工芸館の教育普及事業  | 主任研究員・今井陽子  | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月 1 日 |
| 展覧会予告「所蔵作品展 こども工芸館/おとな工芸館 植物図鑑」                             | 主任研究員・今井陽子  | 『現代の眼』594 号       | 2012 年 6 月 1 日  |
| おとな工芸館「植物図鑑」  | 主任研究員・今井陽子  | 植物図鑑展セルフガイド（児童対象） | 2012 年 6 月      |
| こども工芸館「植物図鑑」  | 主任研究員・今井陽子  | 植物図鑑展セルフガイド（一般対象） | 2012 年 6 月      |
| 展覧会予告「現代の座標—工芸をめぐる 11 の思考—」                                 | 主任研究員・諸山正則  | 『現代の眼』595 号       | 2012 年 8 月 1 日  |
| 平成 23 年度の新収蔵作品（工芸作品）について                                    | 工芸課長・唐澤昌宏   | 『現代の眼』594 号       | 2012 年 6 月 1 日  |
| 工芸館の企画展   | 工芸課長・唐澤昌宏   | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月 1 日 |
| 工芸館のデザインコレクション  | 主任研究員・木田拓也  | 『東京国立近代美術館 60 年史』 | 2012 年 12 月 1 日 |

(フィルムセンター)

| タイトル                    | 執筆者職名・氏名                                   | 掲載誌名              | 発行年月日           |
|-------------------------|--|-------------------|-----------------|
| 「日本映画が素晴らしい」という世界の声を聞こう | フィルムセンター主幹・岡島尚志                            | NFCニューズレター第 105 号 | 2012 年 10 月 1 日 |
| 映画保存の現在と未来（対談）          | 主幹・岡島尚志，米議会図書館映画放送録音物部国立視聴覚保管センター（パッカード・キャ | NFCニューズレター第 105 号 | 2012 年 10 月 1 日 |



|                                     |                        |                 |            |
|-------------------------------------|------------------------|-----------------|------------|
|                                     | ンパス) チーフ               |                 |            |
| 日活映画―“世紀”の発見                        | 主幹・岡島尚志                | NFCニューズレター第106号 | 2012年12月1日 |
| 映画監督・崔洋一の時代と個性                      | 主幹・岡島尚志                | NFCニューズレター第107号 | 2013年2月1日  |
| よみがえる大映イーストマン・カラー第一作                | 主任研究員・榎本章(執筆者名・とちぎあきら) | NFCニューズレター第102号 | 2012年4月1日  |
| フィルムセンター相模原分館・映画保存棟Ⅱについて            | 主任研究員・榎本章(執筆者名・とちぎあきら) | NFCニューズレター第103号 | 2012年6月1日  |
| 『幕末太陽傳』デジタル修復版をめぐる断想                | 主任研究員・榎本章(執筆者名・とちぎあきら) | NFCニューズレター第105号 | 2012年10月1日 |
| シネマテーク・スイスにおける「マックス・ランデー国際シンポジウム」報告 | 研究員・大傍正規               | NFCニューズレター第106号 | 2012年12月1日 |
| 映画というのは自己完結するものではない(上) 崔洋一監督インタビュー  | 研究員・大澤浄[聞き手・構成]        | NFCニューズレター第107号 | 2013年2月1日  |
| 戦後外国映画―《通俗》のよろこび                    | 主任研究員・岡田秀則             | NFCニューズレター第102号 | 2012年4月1日  |
| 101年目の活動写真                          | 主任研究員・岡田秀則             | NFCニューズレター第104号 | 2012年8月1日  |
| FIAPF北京会議報告 映画保存が創る新たなアニメーション史      | 主任研究員・岡田秀則             | NFCニューズレター第104号 | 2012年8月1日  |

イ 国立西洋美術館

| タイトル   | 執筆者職名・氏名   | 掲載誌名          | 発行年月日       |
|--|------------|---------------|-------------|
| ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の400年   | 主任研究員・高梨光正 | ZEPHYROS 第51号 | 2012年5月20日  |
| 報告 文化財レスキュー事業：東北の美術品・文化財を守る  | 学芸課長・村上博哉  | ZEPHYROS 第51号 | 2012年5月20日  |
| 小企画展「クラインマイスター：16世紀前半ドイツにおける小画面の版画家たち」                                     | 研究員・中田明日佳  | ZEPHYROS 第51号 | 2012年5月20日  |
| 報告 2011年度収蔵作品について  | 主任研究員・渡辺晋輔 | ZEPHYROS 第52号 | 2012年8月20日  |
| 寄附報告と購入作品 ブラングイン作《共楽美術館構想俯瞰図，東京》<br>―平成23年度寄附により購入した作品                     | 主任研究員・大屋美那 | ZEPHYROS 第52号 | 2012年8月20日  |
| 報告 美術館で奉仕活動  | 主任研究員・寺島洋子 | ZEPHYROS 第52号 | 2012年8月20日  |
| 手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブルデルの彫刻と素描                                       | 主任研究員・大屋美那 | ZEPHYROS 第53号 | 2012年11月20日 |
| 『手の痕跡』展と同時開催！「Fun with Collection2012 彫刻の魅力を探る」「セイビまるごとお楽しみ！ FUN DAY 2012」 | 主任研究員・横山佐紀 | ZEPHYROS 第53号 | 2012年11月20日 |
| マックス・クリンガーの連作版画―尖筆による夢のシークエンス  | 研究員・新藤淳    | ZEPHYROS 第53号 | 2012年11月20日 |
| 企画展「ラファエロ」   | 主任研究員・渡辺晋輔 | ZEPHYROS 第54号 | 2013年2月20日  |

ウ 国立国際美術館

| タイトル                 | 執筆者職名・氏名    | 掲載誌名              | 発行年月日     |
|----------------------|-------------|-------------------|-----------|
| 国立国際美術館の写真コレクションについて | 客員研究員・竹内万里子 | 国立国際美術館ニュース 第189号 | 2012年4月1日 |

|  |             |   |             |
|--|-------------|---|-------------|
| 報告：「Alternating Currents: Japanese Art after March 2011」 | 研究員・橋本梓     | 国立国際美術館ニュース 第189号                       | 2012年4月1日   |
| 工藤哲巳入門(五) 「インボ哲学」の誕生                                     | 学芸課長・島敦彦    | 国立国際美術館ニュース 第189号                       | 2012年4月1日   |
| [表紙] 館蔵品紹介   | 主任研究員・中井康之  | 国立国際美術館ニュース 第190号                       | 2012年6月1日   |
| 報告 ワークショップ「顔が顔に会うための顔をつくる」                               | 主任研究員・藤吉祐子  | 国立国際美術館ニュース 第190号                       | 2012年6月1日   |
| 工藤哲巳入門(六) 「インボ哲学」を引っ提げ、いざパリへ                             | 学芸課長・島敦彦    | 国立国際美術館ニュース 第190号                       | 2012年6月1日   |
| 工藤哲巳入門(七) 勇名を轟かせた「ハブニング男」の六〇年代                           | 学芸課長・島敦彦    | 国立国際美術館ニュース 第191号                       | 2012年8月1日   |
| シンポジウム「写真の誘惑－視線の行方」を振り返って                                | 客員研究員・竹内万里子 | 国立国際美術館ニュース 第192号                       | 2012年10月1日  |
| 工藤哲巳入門(八) 箱の中の「あなたの肖像」                                   | 学芸課長・島敦彦    | 国立国際美術館ニュース 第192号                       | 2012年10月1日  |
| THIS IS A FILM ー柏原えつとむの映像作品ー                             | 客員研究員・森下明彦  | 国立国際美術館ニュース 第193号                       | 2012年12月1日  |
| 工藤哲巳入門(九) 消滅する肉体ー変異する人類                                  | 学芸課長・島敦彦    | 国立国際美術館ニュース 第193号                       | 2012年12月1日  |
| 工藤哲巳入門(十) 「脱皮」の記念品・郷愁病用・あなたの居間に                          | 学芸課長・島敦彦    | 国立国際美術館ニュース 第194号                       | 2013年2月1日   |
| 写真と記憶  | 主任研究員・植松由佳  | 「国立国際美術館開館35周年記念シンポジウム『写真の誘惑－視線の行方』記録集」 | 2012年12月25日 |

## エ 国立新美術館

| タイトル  | 執筆者職名・氏名        | 掲載誌名                                   | 発行年月日       |
|---|-----------------|--|-------------|
| 『『具体』ーニッポンの前衛 18年の軌跡』展関連シンポジウム『『具体』再評価の過去と現在』抄録 | 研究員・山田由佳子       | 『国立新美術館ニュース』No.23                      | 2012年8月31日  |
| 「国立新美術館の情報検索サービスの展開ー展覧会情報と書誌情報のリンク」             | 主任研究員・室屋泰三      | 『国立新美術館ニュース』No.23                      | 2012年8月31日  |
| 「マイ・フェイヴァリッツ 私の好きな作品 辰野登恵子×柴田敏雄」                | 学芸課長・南雄介        | 『国立新美術館ニュース』No.24                      | 2012年11月30日 |
| 南北の往復から見るセザンヌー展覧会史における「セザンヌーパリとプロヴァンス」展の意義      | アソシエイトフェロー・工藤弘二 | シンポジウム「セザンヌーパリとプロヴァンス」展から見る今日のセザンヌ 記録集 | 2013年3月15日  |

## (6) 快適な観覧環境の提供

### ① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応

平成23年度に引き続き、各館とも次のような対応を実施している。

- ・多目的（身体障害者用）トイレ、エレベータ（エスカレーター）、スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子、ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布

- ・所蔵作品展（常設展），企画展（一部を除く）において，作品リスト（日・英）の配布
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）用の設備を設置
- ・キャプションに英語表記を併記
- ・英語版ホームページの公開
- ・東京国立近代美術館（フィルムセンターは平成23年12月より），国立西洋美術館においては，東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引
- ・東京国立近代美術館本館では，所蔵作品展「MOMATコレクション」英語版音声ガイドを導入
- ・国立西洋美術館では，インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置
- ・国立国際美術館では，貸出用拡大鏡16個を設置するとともに，授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し，幼児向け絵本400冊を常設
- ・国立新美術館では，授乳室（地下1階）の設置，点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内他）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機10台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施並びに文字を大きくし，見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布とともに，平成24年度は新たに館内の各インフォメーションに筆談ボードを設置

## ② 展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

その他，東京国立近代美術館本館においては，所蔵作品展で「重要文化財」のキャプション表示やホームページに重要文化財作品の解説ページを引き続き設置するとともに，所蔵作品展のための英語版音声ガイドの貸出しを行った。

平成24年度に行った所蔵品ギャラリーのリニューアルでは，2～4階の順路を整理した上で，館内サインを拡大・多言語化し，高齢者，身体障がい者及び外国人等を含むすべての来館者がスムーズに観覧できるようにした。また，和英ともにホームページを大幅に拡充した。

工芸館では，キャプションサイズの拡大，作品名のふりがな及び素材・技法を記載した。

フィルムセンターでは，常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において，児童・生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布した。

国立西洋美術館においては，企画展において，児童・生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布したほか，国立西洋美術館本館の建築探検マップ（日・英・仏・韓・中国語版）や館広報（国立西洋美術館ニュース *Zephyros* の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載を行うとともに，常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod Touch・Android 携帯端末専用アプリ「Touch the Museum」の無料配信を行った。また，企画展の解説パネルを，見易いように拡大文字の冊子に加工し，展示室内に配置したほか，版画展開催の際には，版画の技法を説明した小冊子を展示室内に配置した。

国立国際美術館においては，作品紹介キャプションをより見やすくするよう努めた。

国立新美術館においては，「「具体」—ニッポンの前衛18年の軌跡」鑑賞ガイド『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック vol.7』（日英併記），「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」鑑賞ツール「ちいさなアーティスト・ファイル 2013」（日英併記）及び「カ

リフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」鑑賞ガイド「国立新美術館ガイドブック ハロー！カリフォルニア・デザイン」を配布した。

### ③ 入場料金、開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日、国立新美術館を除く）及び国際博物館の日（5月18日、東京国立近代美術館フィルムセンターの上映会を除く。）の所蔵作品展（常設展）の観覧料を無料にするとともに、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。また、所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び18歳未満の者の観覧料の無料化についての周知に努めた。

その他平成24年度の各館の取組は以下のとおりである。

#### （ア）東京国立近代美術館

- ・開館60周年を記念して、誕生日当日の来館者（誕生日を証明できるものを提示）に対して所蔵作品展及び企画展すべての無料観覧を実施  
本館：平成24年2月3日～平成25年1月14日  
工芸館：平成24年2月7日～平成25年1月14日  
フィルムセンター：平成24年2月7日～平成25年2月3日（上映会を含む）
- ・開館記念日（平成24年12月1日）には、展覧会の無料観覧を実施（フィルムセンターの上映会を除く）
- ・本館、工芸館では、東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・本館・工芸館では、「東京マラソン 2013」イベントガイド持参者は、所蔵作品展の観覧料（個人一般）を割引
- ・本館では、年始は1月2日から開館し、図録やオリジナルグッズをプレゼント
- ・本館では、共催展においてペア観覧券等による観覧料割引
- ・本館では、千代田区「秋まつり 2012 公式ガイドマップ」持参者は「美術にぶるっ！展」を、また、「桜まつり 2013 公式ガイドマップ」持参者は「フランシス・ベーコン展」の観覧料金を割引
- ・工芸館では、千代田区「桜まつり 2013 公式ガイドマップ」持参者は、所蔵作品展の観覧料金を（個人一般）を割引
- ・「ジャクソン・ポロック展」において、政府による美術品補償制度適用の国民への還元策として、平成24年2月から4月の日曜日（12日間）及び祝日（3日間）の15日間（平成24年度は6日間）について、高校生の無料観覧を実施
- ・「フランシス・ベーコン展」において、政府による美術品補償制度適用の国民への還元策として、平成25年3月から4月の土曜日、日曜日の16日間（平成24年度は8日間）について、高校生の無料観覧を実施

#### （イ）国立西洋美術館

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売
- ・春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間を30分延長し、午後5時30分まで開館
- ・「夏休み子供音楽会 2012《上野の森文化探検》」（主催：東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）ほか）に参画し、音楽会参加者について常設展の無料観覧を実施（期間：平成24年7月22日のみ）
- ・教育普及プログラム「ファン・デー」の開催に伴い、常設展及び「手の痕跡」展の無料観覧を実施（期間：平成24年11月10日、11日のみ）

- ・「ベルリン国立美術館展」において、政府による美術品補償制度の適用を想定し、高校生料金を同規模の企画展より安価に設定し、料金を500円としたほか、平成24年7月21日から8月5日の14日間について、高校生の無料観覧を実施
- ・「ベルリン国立美術館展」について、ペア観覧券等による観覧料割引を実施
- ・「ラファエロ」展において、政府による美術品補償制度の還元策として、平成25年3月22日から3月31日の9日間について、高校生の無料観覧を実施（高校生観覧料の無料化は平成25年4月7日まで、計15日間実施）
- ・上野の山文化ゾーンフェスティバル20周年記念「上野の山ナイトミュージアム」（主催：上野の山文化ゾーン連絡協議会）に参画し、21時まで開館時間を延長（期間：平成24年10月20日のみ）

#### （ウ）国立国際美術館

- ・毎月第一土曜日に、所蔵作品展のみ観覧料の無料化（B2F）
- ・関西文化の日（11月17日、18日）に、所蔵作品展の観覧料の無料化（B2F）

#### （エ）国立新美術館

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO）による観覧券の窓口販売
- ・「平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭」の無料観覧
- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・共催展において、ペア観覧券等による観覧料割引
- ・共催展において、高校生無料観覧日の設定を推進
- ・「セザンヌーパリとプロヴァンス」において、政府による美術品補償制度の還元策として、平成24年3月28日から4月8日までの12日間（平成24年度は8日間）、及び4月14日から30日までの土・日・祝日（7日間）について、高校生の無料観覧を実施
- ・「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」において、政府による美術品補償制度の還元策として、平成24年10月から11月の土・日・祝日（18日間）について、高校生の無料観覧を実施
- ・「六本木アートナイト2013」（平成25年3月23日～24日）において、3月23日の「アーティスト・ファイル2013—現代の作家たち」及び「カリフォルニア・デザイン1930-1965—モダン・リビングの起源—」展の開館時間を22時まで延長し、観覧料を無料化
- ・5月1日（火）に臨時開館を実施

#### ④ キャンパスメンバーズ制度の実施

平成18年12月に規則を制定し、国立美術館全体の事業として発足した、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、平成24年度においてメンバー校は新規8校を加え78校、各館利用者数は76,180名となった。また、平成22年度にパソコン版、平成23年度にモバイル版を開設したキャンパスメンバーズ入会校学生向け特設サイトにおいて、各館の展覧会情報を提供するとともに、サイトを周知するためのポスター及びチラシを加入校に配布するなど、利用促進に努めた。

東京国立近代美術館フィルムセンターでは、東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業を新たに始め、国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行うための整備を行い、4回の講義を実施したほか、大学等の学生が、フィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付を開始した。

#### ⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなど広報宣伝を行った。また、レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。

東京国立近代美術館本館では、平成23年度のピンバッジに続き、ホルダー付き記念切手、トートバック、Tシャツなどの60周年記念グッズを販売した。また、レストランでは、「美術にぶるっ！展」及び「フランス・ベーコン展」にちなんだ特別メニューや、皇居周辺の桜をテーマにした「桜プレート」など季節にちなんだメニューを開発し提供した。

京都国立近代美術館では、幅広い客層から満足を得られるよう、単価・内容を吟味しつつ、多様な商品を展開するよう取り組むとともに、開館50周年記念展にあわせ、「上野リチ」オリジナルグッズを企画、作成した。展覧会ごとに内容に関連した書籍を充実させ、アートグッズも絶えず新商品を取り入れ、リピーターからも満足してもらえるように仕入れを行った。また、レストランでは、春夏と秋冬でメニューを入れ替え、京都の旬の食材を使った手作りのメニューを提供するとともに、企画展に合わせたテーマランチやテーマデザートの提供を行った。

国立西洋美術館では、販売品の充実のため、例年に引き続きオリジナルグッズの開発を行った。平成24年度の主な新商品として、ゴッホ「ばら」をモチーフにしたアクセサリや最新技術の色調校正で作品の色を再現した所蔵作品図版のオリジナル卓上カレンダー、ル・コルビュジエが設計した本館建築図面を元に立体再現をしたペーパークラフトなどを販売した。また、レストランでは、各企画展に関連したメニューを開発し、提供した。

国立国際美術館では、所蔵作品の絵葉書、封筒、Tシャツや、美術館のロゴ入りマグカップ、Tシャツ、キーホルダーなどオリジナルグッズの充実のほか、企画展にあわせて、出展作家に関連した書籍、DVDの販売を行い、来館者のニーズに合わせた運営を行った。また、レストランでは、運営会社を変更し、メニューの種類を増やす等により充実させた。

国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、ショップ内のギャラリーの展示について企画協力を行った。「与えられた形象—辰野登恵子/柴田敏雄」及び「カリフォルニア・デザイン1930-1965—モダン・リビングの起源—」展において、外部事業者の企画によるミュージアムショップを設置し、自主企画展におけるミュージアムショップの充実を図った。また、レストランでは、来館者からの意見等について、業者と協議し、一部メニューの変更を実施するとともに、共催展にゆかりのある特別メニューを企画し、提供した。さらに、「六本木アートナイト2013」（平成25年3月23日～24日）では、3月23日の営業時間を22時まで延長し、利用者にオリジナルポストカードやオリジナルキャンバスバッグのプレゼント企画を実施するとともに、レストランを会場として使用し、アーティストと空間を共にし、語り、食事ができる「六本木夜楽会（ろくほんもくよらくえ）」と題するアートナイトのプログラムを実施した。

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

## (1) 美術作品の収集

| 館名        |     | 購入点数       | 購入金額<br>(千円)     | 寄贈点数         | 年度末<br>所蔵作品数         | 年度末<br>寄託品数  |
|-----------|-----|------------|------------------|--------------|----------------------|--------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館  | 123        | 269,919          | 31           | 12,344 <sup>※1</sup> | 235          |
|           | 工芸館 | 2          | 63,000           | 54           | 3,288 <sup>※2</sup>  | 108          |
| 京都国立近代美術館 |     | 67         | 829,964          | 327          | 11,401               | 819          |
| 国立西洋美術館   |     | 17         | 953,443          | 811          | 5,521                | 122          |
| 国立国際美術館   |     | 102        | 742,398          | 228          | 7,016                | 132          |
| 計         |     | <b>311</b> | <b>2,858,724</b> | <b>1,451</b> | <b>39,570</b>        | <b>1,416</b> |

※1 東京国立近代美術館本館では、『東京国立近代美術館 60 年史』の編纂を契機として、所蔵作品の計数方法等の見直しを行った。

※2 東京国立近代美術館工芸館では、展覧会ポスター等のデザインを長年手掛けた原弘のグラフィック作品 165 点を、保存分として保管してあった所蔵資料から分類替えを行った。

| 館名                  | 購入本数 | 購入金額<br>(千円) | 寄贈本数  | 年度末<br>所蔵本数 | 年度末<br>寄託品本数 |
|---------------------|------|--------------|-------|-------------|--------------|
| 東京国立近代美術館(フィルムセンター) | 247  | 114,092      | 1,523 | 67,287      | 8,018        |

### ア 収集作品の特徴

#### (ア) 東京国立近代美術館

##### (本館)

明治から今日に至る美術作品を、日本を中心に、重要な影響を与えた海外の作品も交えて収集することを方針し、絵画、版画、水彩・素描、彫刻・立体造形、写真、映像等の分野を対象とする。

平成 24 年度は、近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家作品の収集も積極的に行った。特に次の点に留意した。

- ①1900-1940 年代の日本画作品の収集
- ②1970 年代以降の日本人作家の作品の収集
- ③日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集

購入作品については、平成 22 年度より継続して収集を行ってきた国内個人のコレクションより、スペインの世界的画家、ジョアン・ミロ初期の重要作《絵画詩（おお！あの人やっちゃったのね）》を特別購入予算により購入した。作品の重要度はもとより、国内コレクションの海外流出を防ぐ意味でも、収蔵の意義は大きい。また、日本の前衛運動における最重要画家のひとり、瑛九の 83 点におよぶ貴重な作品・資料を購入・受贈した。加えて、当館のコミッションワーク（注文制作）として、館を舞台に撮影された若手作家、田中功起の映像作品 1 点を購入した。

寄贈作品については、注目すべき中堅写真家である松江泰治の集大成となる作品群、1 点（全 343 点組）を国内個人より受贈することができた。

##### (工芸館)

日本工芸の近代化を示す作品の補充と、戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集、そして近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集に留意した。

購入作品については、高額作品を 2 点収集することができた。加守田章二《曲線彫文壺》は、加守田作品を代表する〈曲線彫文〉シリーズの壺であり、本焼で焼き締められた器胎に縄文土器を思わせる波状の曲線が彫りこまれている。長年当館へ寄託され、1987 年当館企画

展「加守田章二」等でもっとも重要な作品として紹介されてきた作品である。また、二十代堆朱楊成《彫漆六華式平卓》は、1916年第4回農展に出品されたもので、1929年発行の作品集でも最も重要な作品として掲載された作家の代表的作品である。

寄贈作品については、伝統工芸作品が主であったが、槻尾宗一のクラフト作品や、アメリカのジム・レーディの現代陶芸作品の寄贈を受け入れた。また、「原弘と東京国立近代美術館」で取り上げた、東京国立近代美術館の展覧会ポスター等のデザインを長年手掛けた原弘のグラフィック作品165点を、保存分として保管してあった所蔵資料から分類替えを行い、21点を寄贈分として収蔵した。

(フィルムセンター)

購入については、上映企画にあわせ、『今年の恋(全八話)』(1967年)他、木下恵介監督に関連するテレビ映画作品全12作品31本、春原政久『女人の館』(1954年)他、日活作品全9作品10本、『J・MOVIE・WARS 月はどっちに出ている』(1993年)他、崔洋一監督作品全10作品のプリント、及び平成25年度の上映企画にあわせ、毛利正樹『宇治みさ子の緋ぢりめん女大名』(1958年)、和田嘉訓『自動車泥棒』(1964年)他、全7作品10本等のフィルムを購入した。

寄贈作品については、新規の受入先からの寄贈として、日本大学藝術学部より、畑中寥坡『寒椿』(1921年)の可燃性染色プリントや日本大学藝術科による文化・記録映画『沈み行く小河内村』(1938年)の可燃性マスター・ポジ等29本、国鉄労働組合より、徳永瑞夫『三池一たたかう仲間の心はひとつ』(1950年)等プリント101本、株式会社フィルム・クレセントより、熊井啓『ひかりごけ』(1992年)のオリジナル・ネガ等、原版類及びプリント48本を受贈した。一方、公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団からは、同財団が木村正美『一伝統工芸の名匠—うるしを現代にいかす 曲輪造・赤地友哉』(1980年)以来製作してきた工芸・伝統芸能・民俗芸能に関する記録映画41作品の全フィルム原版の寄贈を受け入れた。

また、石井岳龍(聰互)、金井勝、藤原智子、松川八洲雄など、長年個人やインディペンデントで活躍してきた映画監督による貴重な作品の原版類及びプリント等をはじめとして平成24年度においても寄贈受入を引き続き活発に行った。

映画関連資料については、川喜多記念映画文化財団より静活株式会社旧蔵の日本映画ポスター1,114点、また、「日本の映画ポスター芸術」の出品作家である横尾忠則氏から同氏デザインの映画ポスター17点等の寄贈を受けた。

(イ) 京都国立近代美術館

国内外の「工芸」作品を中心に、日本画、油彩画、版画、写真、現代美術及び海外の近代美術作品などの代表的作品、並びに美術史上貴重な価値を有する作品・資料の収集を進めるという長期的な収集方針のもと、平成24年度は、一括収蔵することで近代美術史上重要な意味を有する「芝川照吉コレクション」を収集するとともに、引き続き日本及び海外の近代美術作品についても収集した。

購入作品については、「芝川照吉コレクション」に含まれる青木繁の名作《女の顔》、我が国近代美術史上の代表作である村上華岳、速水御舟などの日本画、藤島武二の大作や、工芸においても富本憲吉や加守田章二の優品、継続購入となるハンナ・ヘッヒについては特別購入予算を活用することにより購入することができた。また、萬鐵五郎の油彩画を初めて収蔵することができた。

寄贈作品については、「芝川照吉コレクション」に含まれる青木繁の《女の顔》以外の作品が寄贈され、その中には岸田劉生や藤井達吉、富本憲吉などの作品170余点が含まれた。



また、当館で個展を開催した井田照一の版画作品及び北村武資の染織作品についても、多数の寄贈があった。

#### (ウ) 国立西洋美術館

平成24年度についても、中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れを概観するコレクションの充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行うことを意図し、次の点を方針として収集に努めた。

①15世紀～20世紀初頭のヨーロッパ絵画の収集、②ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心とするヨーロッパ版画コレクションの充実、③旧松方コレクション作品の情報収集の継続、④西洋工芸美術品（装飾作品・装身具）の収集

購入作品については、特別購入予算によりポール・セザンヌの油彩画《ポントワーズの橋と堰》を購入した。印象派の画風からセザンヌ独自の様式への移行を示す、非常に質の高い作品であり、常設展示の中で重要な位置を占めることとなった。

寄贈作品については、個人コレクターより、古代から現代までの宝飾品コレクション805点の一括寄贈を受けた。これまでの工芸コレクションはタピスリーが中心で、宝飾品・装身具の収蔵は今回が最初となる。時代、地域、技法・材質が極めて多岐にわたり、今後の調査研究や展示において多様な視点から活用できる可能性のある貴重なコレクションとなった。

#### (エ) 国立国際美術館

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主として、①1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集、②国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を行った。

購入作品については、第二次大戦後の抽象芸術を代表する作家でありアンフォルメルの流れとなった作家ジャン・フォートリエの作品や、現代ドイツ写真を代表する作家であるアンドレアス・グルスキーのほか、日本の現代美術を代表する作家である北山善夫の作品を購入することができた。

寄贈作品については、反芸術世代を代表する作家の一人である工藤哲巳の初期作品、版画家渡辺千尋の作品並びに内科画廊関連のコレクション、さらに、プレイの関連資料を多数寄贈いただき、充実させることができた。

### (2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

#### ① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

##### ア 東京国立近代美術館

本館では、現在、新・旧二つの収蔵庫はともに収蔵率約125%となっている。年間約250点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展展示により作品が庫外に出ていることで、最低限のやりくりが成り立っている。引き続き収納の効率化（マット装でのマップケースへの収蔵等）、周密化による環境悪化に由来する虫害を防止する虫害検査、定期清掃などの対策を行っている。また、フィルムセンター収蔵庫、ヤマト運輸倉庫、三菱倉庫の3つの外部倉庫を借り、不足を補っている。今後も引き続き収納の効率化、虫害防止等の対策を行う。将来的には外部に収蔵庫を設け、民間倉庫借り上げの費用的、業務的負担を軽減することが望ましいと思われる。

工芸館では、収蔵庫4室及び一時保管庫として活用している荷解き室の狭隘化は急激に進行している状態である。床面の大方はすでに埋まっているが、棚間の通路にも作品を2段重ねにするほどの困難な状態となりつつある。また、企画展や所蔵品巡回展、所蔵品展、本館

2階で開催したデザイン展等に関する出品作品の収納が重なった際にスペースの算段に厳しいものがあつた。グラフィック・デザイン作品はフィルムセンター内収蔵庫で保管しているが、平成24年度に所蔵資料から寄贈及び分類替えにより作品として収蔵した原弘のグラフィック作品186点も収納した。安全な保管を確保するために、外部倉庫の活用を検討する段階に達してきたように思われる。

フィルムセンターでは、平成24年度までに、「ビネガー・シンドローム」を極度に発症したフィルムと、保存庫を寄託映画フィルムと共用していた所蔵映画フィルムについて、映画保存棟Ⅱへの移動を完了するとともに、ならし室やエレベーター・ホール等の導線部分の温湿度設定について、フィルム素材、保存科学、建築の専門家による会議での議論を受け、次年度以降の本格的な移動・格納計画を準備することが可能になった。

また、平成24年度はこれに加え、以下のような対応を行った。

- ・京橋に設置していたKEM16mm検査台に、画像取り込み装置を付設し、相模原分館に移設することによって、分館での十全な検査作業に資することが可能になった。
- ・中古のスティーンバック35mm検査台1台を取得することにより、検査作業のバックアップ態勢を整えることができた。
- ・収集されるフィルムの多様化に対応し、フィルム調査カードのフォーマット、項目、選択肢等の改訂を行った。
- ・プリント運用の増加に対応し、フィルム検査及び補修の結果をレベルで評価することにより、運用上の便宜を向上させた。
- ・次年度以降、所蔵可燃性フィルムの網羅的な調査を行うための準備として、検査及び補修の作業工程とデータ採取について、調査研究を行った。

映画関連資料について、現在、ノンフィルム資料のうち紙素材の資料はフィルムセンター(京橋)の4階図書室と地下3階収蔵庫にて保管されているが、収蔵能力が限界に達しつつある。相模原分館の新収蔵庫への部分的な移転計画を検討する必要がある。

今後は、映画保存棟Ⅱの本格的な運用を目標に、低温低湿の維持を実行しつつ、節電等省エネルギー化を図るために契約電力の見直しを行い、ならし室やエレベーター・ホール等の導線部分の温湿度設定の環境条件について、専門家による委員会の報告をまとめ、実際に実行する必要がある。また、映画保存棟Ⅰと映画保存棟Ⅱの機能分担、ⅠからⅡへの移動・格納計画を進めることが必要である。さらに、画保存棟Ⅰの保存庫棟の外気侵入を妨げる方法についての検討を行い、根本的な改修を行う必要がある。

## イ 京都国立近代美術館

収蔵庫内の火災報知設備及び照明設備を改修するための設計業務を実施した。これを受け、今後、より安全で適切な保存環境に改修するための工事に着手する。なお、狭隘状態は慢性化しているため、新たな収蔵場所の確保を検討する。

## ウ 国立西洋美術館

不具合により使用ができなくなっていた新館第一収蔵庫の絵画ラック3面について、修繕を実施した。今後は、引き続き、収蔵庫内の日常的な整理整頓と、適正な温湿度管理、地震対策の徹底を実施していくことが必要である。また、収蔵庫内の適切な保存環境の維持のために、新館・企画館の収蔵庫について、耐用年数を考慮した空調機の更新の検討が望まれる。

平成24年度、橋本貫志氏旧蔵の宝飾品コレクション805点の寄贈を受けたが、初めてのまとまった美術工芸品の取得であることから、素材やサイズ、量、セキュリティを十分考慮した収納、保管の方法を構築する必要がある。

## エ 国立国際美術館

既に収納率が実質 100%以上となっているが、積み重ねられる作品をまとめて収納したり、ラックの隙間を可能な限り小さくしたりして、適切な保存環境を維持するよう努めた。今後も、引き続き新たな収納ケースの整備、作品梱包の工夫、汚損した額縁を廃棄するなどして、適切な保存環境の整備について検討する。

## オ その他

収蔵庫狭隘化への対策を検討するため、国立美術館、国立文化財機構及び日本芸術文化振興会の3法人で、収蔵施設に関するワーキンググループを関東地区及び関西地区でそれぞれ立ち上げた。

## ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

### ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

本館講堂において、平成 24 年 9 月 1 日に、「夏の家」に関する講演会の後、聴講のお客様(約 140 名)を交え、茨城県沖にて大地震発生を想定した避難誘導訓練を実施した。また、平成 24 年 9 月 24 日には、放送訓練、避難訓練、初期消火(模擬)、AED の操作方法を含む総合訓練を実施した。

工芸館において、平成 25 年 3 月 27 日に、人員の少ない日直出勤日における放送訓練、避難訓練、初期消火(模擬)を含む総合訓練を実施した。

(フィルムセンター)

フィルムセンターでは、以下の点検及び訓練を実施した。

- ・消防用設備、自家発電設備など定期点検を実施
- ・フィルムセンター(京橋)での消防訓練を実施(平成 25 年 3 月 6 日)
- ・フィルムセンター(京橋)での消防訓練(部分訓練:地下 3 階収蔵庫)を実施(平成 25 年 3 月 29 日)
- ・フィルムセンター相模原分館での消防訓練を実施(平成 24 年 11 月 20 日)

### イ 京都国立近代美術館

平成 24 年 11 月 26 日に消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した。

### ウ 国立西洋美術館

平成 23 年度に引き続き、常設展示室内での地震による衝撃の被害を軽減するために、すべての作品に衝撃吸収ゴムの取り付けと額装の改善を実施した。

## エ 国立国際美術館

当美術館は、阪神淡路大震災後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保、二次災害の防止及び機能保全が図られるよう建築された。また、当館は完全地下型の美術館のため、防水・洪水に対しても地下壁は二重構造及び外防水層を施し、防災上、必要な非常口等開口部には防潮、防水扉を採用している。

地下 2 階と地下 3 階にある収蔵庫は、ダイヤル式によりロックされており、防虫のために入口には網戸を設置している。内装は湿気の吸着に優れた天然木材を使用し、下地に不透湿シートをはり、外壁は 2 重壁構造により湿気を防ぎ、湿度・温度調整も 24 時間体勢で実施し

ている。火災発生時には、不活性ガス（窒素）が充填されるシステムにより、作品を傷めることなく消火できる。

また、災害対策を維持するための定期点検を実施した。

### （3）所蔵作品の修理・修復

#### ① 東京国立近代美術館

絵画 7 件、工芸 6 件、映画フィルムデジタル復元 20 本、ノイズリダクション等 34 本、不燃化作業 65 本

（本館）

昭和 38 年より長く寄託され、傷みが激しいため展示活用されずにきた日本画家、平福百穂の大型屏風《丹鶴青瀾》の寄贈を受け、この修復に着手した。破損、汚れ、水濡れ、焼け焦げなど重度の傷みが見られたため、大規模な解体修理を、半双ずつ、平成 25 年度までの 2 年をかけて行う計画とし、24 年度分の半双を終了した。なお、修復方針を決定するに当たって、東京藝術大学、練馬区立美術館、横浜美術館の日本画専門家の協力を得た。

（工芸館）

平成 23 年度から修復を継続した漆工の松田権六作品 1 点は、相当の期間と技術を要したが、一応の現状保存修復がなった。平成 23 年度に寄贈された野口光彦の御所人形作品 2 点の修復に着手したが、胡粉の大きなヒビがあり、また、カビや汚れが想定以上の困難さが見出され、そのために修復期間が平成 25 年度にも及ぶ結果となった。染織では、引き続き紬織の志村ふくみ作品の現状保存修復を行った。

（フィルムセンター）

- ・日本アニメーション映画のカラー作品における初のデジタル復元として、大藤信郎監督による戦後の代表作『くじら』（1953 年）と『幽霊船』（1956 年）について、現存素材及び関連資料等に関する綿密な調査研究を基に、褪色補正を焦点にしたデジタル復元を行うとともに、平成 23 年にアメリカ・アカデミー科学技術賞に輝いたカラー三色分解保存用白黒ネガ・フィルムにレコーディングすることにより、映画フィルムの復元、長期保存における現時点での最善のワークフローを実践した。また、三色分解した 3 本のネガ・フィルムを光学合成することによりプリントを仕上げることによって、優れた色再現性、高解像度、シャープネスを得ることができた。なお、デジタル復元を行うに当たっては、元素材となったフィルムを所有する公益社団法人映像文化製作者連盟から協力を得るとともに、修復及び複製作業を委託した IMAGICA 及び IMAGICA ウェストとの綿密な共同作業を行った。
- ・次年度以降、本格的な作業に入る小津安二郎監督のカラー作品 4 作品のデジタル復元について、その第 1 作目となる『秋刀魚の味』（1962 年）の褪色補正に必要な調査研究を行った。その際、デジタル復元の元素材となったフィルムを所有する松竹株式会社との連携協力を行った。
- ・日本大学芸術学部製作『無形文化財 神代舞』（1954 年）の可燃性フィルムからの復元に際し、タイトルと背景など複数枚のフィルムを使用して擬似的に合成する、通称「ヒゲ処理」に対して、該当フィルムよりマスター・ポジを作成し、これらを光学合成することにより、最適な復元を行った。
- ・映画関連資料については、記録映画作家中村麟子の旧蔵資料をはじめ、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図った。

#### ② 京都国立近代美術館

### 絵画 9 件

平成 24 年度も企画競争を導入して、日本画 3 点、洋画 5 点の修理を行い、素描 1 点についてもシミ抜きなどの処置を施した。特に洋画作品については、戦前京都で活躍した貴重なシュルレアリスム作家（伊藤久三郎）の未公開作であり、これまで傷みが激しかったこともあり、作者の全作品集にも未掲載のもので、今後の活用が期待される。企画競争の導入は、保存・修復の担当者がいない当館にあっては、研究員がその状態、修理方法を学ぶ絶好の機会でもあり、外部の修理業者から提出された修理にかかる書面を検討し、その知識を得るためにも貴重な場となっている、さらに、実際の修理に際しては、決定された外部の業者と常に修理の状況を確認しつつ、意見交換が行えることもあり、その連携を大切にしていきたい。

### ③ 国立西洋美術館

絵画 40 件、水彩 7 件、素描 3 件、版画 15 件

平成 24 年度は国立美術館巡回展の準備として、収蔵作品のうち、額装状態の劣悪な作品に関して、改善作業を実施した。また、新収蔵作品の額装改善を実施し、速やかに展示に供する準備をした。さらに、貸出に際してエル・グレコ作品及びルーベンス作品の額装改善とともに、状態に関する詳細な調査を実施した。版画・素描の新収作品について収蔵に適するように処置するとともに、状態の悪い収蔵作品について改善作業を施した。

### ④ 国立国際美術館

絵画 1 件、彫刻 2 件

平成 24 年度は、外部の彫刻に関する修復家と連携し、当館所蔵作品のコンディションチェックを行い、修復の緊急性が高いと判断した福嶋敬恭《Blue Dots》（1966/89 年）について、表面の清掃、角欠け部分の補填と補彩を行ったほか、ジャン・ティンゲリー《バッタ》（1963 年）について、ワイヤーによるブラッシング、層状の錆の除去、マシンオイルの塗布、プラスチッククリーナーによる清掃を行った。絵画に関しては、ロイ・リキテンスタイン《日本風の橋のある睡蓮》（1992 年）について、作品と一体化している白い額の汚れが目立ってきたため、クリーニングを行った。

## （4）美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は、以下のとおりである。

### ア 東京国立近代美術館

（本館）

#### （ア）所蔵作品に関する調査研究

『現代の眼』掲載の「作品研究」、『研究紀要』第 17 号、『読売新聞（都内版）』連載「近代の眼」などの執筆記事や、キュレーター・トークなどの催事により、広く所蔵作品に関する研究成果を公開した。

#### （イ）保管・修理に関する調査研究

洋画家、鬘光の油彩作品《馬》について、引き続き、東京文化財研究所の協力のもと、赤外線撮影による研究・調査を行った。平福百穂作《丹鶴青瀾》の修復にあたっては、東京藝術大学、練馬区立美術館、横浜美術館の協力を仰ぎ、方針の決定を行った。また、リニューアル工事の準備として、LED 照明システムの調査、作品にとって安全な床塗装材の調査等を行った。加えてポジフィルムの生産中止に伴うデジタル化の動きを視野に、作品画像の理想的なデジタルデータ作成につき、凸版印刷とともに調査研究を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

調査研究に基づき所蔵作品展において特集展示企画を行うとともに、所蔵作品展関係章解説、作品解説を公開した。また、鬚光《馬》赤外線撮影による研究の成果は、東京文化財研究所での口頭発表を経て、平成 25 年 7 月、同研究所『美術研究』誌上に発表の予定である。LED 照明システムの調査は継続、床塗料の調査成果はリニューアル工事に反映された。デジタル撮影の調査研究は、画像貸与システムの構築（平成 25 年度見込み）に反映される予定である。

(工芸館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

随時の専門的な調査研究とともに、所蔵作品展や企画展での展示、貸与及び熟覧等において専門家等と研究を行っている。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

文化財保存修復の目白漆芸研究所と連携して漆工や人形に関して調査研究を進め、染織では当館染織作品において実績のある浅井エージェンシーによる専門家等と連携を重ね、所蔵作品の保管と現状保存修理について計画的な実施を行っている。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

現状保存修復を実施する作品は活用頻度の高いもの、あるいは緊急度の高いものから計画的に行っている。完了した作品については展示や貸与等に有効に活用している。

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品に関する調査研究として、平成 24 年度は以下の通り取り組んだ。

- ・インディペンデント映画が急増し始めた 1980 年以降に製作・公開された日本映画について、今後、映画フィルム等の収集計画を立てるうえで役立つ、詳細なフィルムモグラフィーを作成するための調査を実施した。
- ・映画保存のための特別事業費により、平成 21 年度に収集した映画フィルムについて、データの採取、静止画像の取り込み、データベースへの登録、文献資料等による調査を完了した。
- ・近年所蔵が増加している小型映画によるホームムービーについて、フィルム検査、文献調査、データベース構築など、一連の作業とデータ管理の標準化を目標として、荻野茂二監督によるコレクションを具体例に、調査研究を開始した。
- ・新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究
- ・今井正監督に関する調査研究
- ・木下恵介監督に関する調査研究
- ・日活の歴史と作品に関する調査研究
- ・現代日本映画監督に関する調査研究
- ・戦後日本に配給された外国映画に関する調査研究
- ・日活の歴史と作品に関する調査研究
- ・ジャンル別の映画ポスターに関する研究
- ・平成 23 年度の「映画公社旧蔵資料」に続き、日本のフィルム・アーカイブの初期史を明らかにする当館フィルム・ライブラリー時代の資料のカタログ化を開始した。その成果は、「NFC ニュースレター」第 106 号、107 号所収の論考「フィルム・ライブラリー事始」で発表し、今後の事業にも活用する予定である。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

映画フィルムの保管に関する調査研究として、平成24年度は以下の通り取り組んだ。

- ・映画フィルムの検査及びデータ管理と、これに伴う作業工程に関する調査研究
- ・映画保存棟のならし室等における温湿度環境に関する調査研究

映画フィルムの修理に関する調査研究として、平成24年度は以下の通り取り組んだ。

- ・カラーフィルムのデジタル修復に関する調査研究
- ・三色分解ネガでの保存に関する調査研究
- ・三色分解ネガからの光学合成に関する調査研究
- ・「ヒゲ処理」の復元に関する調査研究

また、ノンフィルム資料については、寄贈者別に配置されていたプレス資料の現物レベルでの統合を開始した。映画パンフレットなど過去に寄贈されながら未整理であった分野の資料のデータベース登録に取り組むとともに、シナリオについては、これまで未着手だった合本シナリオのリスト化に着手した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

映画フィルムの保管における調査研究成果は以下のとおり反映された。

- ・フィルム調査カードの改訂及び検査・補修結果のレベル評価へ反映
- ・映画保存棟のならし室等の温湿度設定へ反映

映画フィルムの修理における調査研究成果は以下のとおり反映された。

- ・『くじら』（1953年）及び『幽霊船』（1956年）のデジタル復元へ反映
- ・『秋刀魚の味』（1962年）のデジタル復元への準備へ反映
- ・『無形文化財 神代舞』（1954年）の複製作業へ反映

所蔵映画資料における調査研究成果は以下のとおり反映された。

- ・企画展「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」、「日活映画の100年 日本映画の100年」及び「西部劇の世界 ポスターでみる映画史 Part1」へ反映
- ・映画関連資料の修理における調査研究成果は以下のとおり反映された。
- ・一部のシナリオ等、劣化した文献資料の修復へ反映

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

コレクションと展覧会の連動の成果として、『京都国立近代美術館所蔵作品目録X 井田照一の版画』を刊行した。所蔵作品については、すべてカラー図版とし、作家・作品についての展覧会歴などのデータも網羅して、京都を代表する現代版画家・井田照一についての第一級の資料となった。また、平成24年度末から開催した「開館50周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術」は、当館の展覧会、コレクションの柱を形成する「工芸」を中心に企画したものであり、その準備過程において、あらためて当館の「工芸」作品について調査し、過去の展覧会における出品やコレクションとなった経緯などの整理が進められたことを特筆しておきたい。さらに、開館以来の所蔵作品についても、データベース構築に向けての点検・整理、そして『50年史』にも、コレクションの成果を掲載するため、あわせて所蔵全作品についての調査研究を行った。

(イ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

一括収蔵した井田照一の版画については、展覧会を開催するとともに、所蔵作品目録も刊行した。また、「工芸」についても「50周年記念展」を開催し、展覧会図録にその研究成果の一端を発表した。

## ウ 国立西洋美術館

### (ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品に関する調査研究として、平成 24 年度は以下の通り取り組んだ。

- ・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
- ・中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ・所蔵版画作品に関する調査研究
- ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究
- ・ユベール・ロベール及び 18 世紀フランス美術に関する調査研究
- ・オーギュスト・ロダンとエミール＝アントワヌ・ブールデル作品に関する調査研究
- ・ジャン・パオロ・パニーニの風景画に関する調査研究
- ・「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究

### (イ) 保存・修復に関する調査研究

所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンプルを古典絵画技法に従って作成した。

LED 照明導入に向けた調査のための色彩見本及びチャートを作成し、色温度の違いによる発色効果を検証し、14w LED 導入を実現した。

修復処置過程において紫外線、赤外線等による調査を実施し、絵画作品の状態及び制作過程を検証する調査を実施した。作品によっては周辺部の絵具層を分析し、その材質を明らかにした。

### (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

調査研究の過程で、15 世紀から 19 世紀までのさまざまな作品の技法や保存状態を確認し、これまでの処置の歴史を再確認しながら、震災後の被害の状況の確認及び貸出のための安全／保存処置を実施した。様々な技法の処置／調査は、作品の安全な貸出を実現すると同時に、こうした調査結果は展覧会のカタログ等に随時反映されている。また、調査・処置後の作品は常設展示に随時反映され、国民へのよりよい鑑賞環境の提供及び安定した状態の作品展示へと還元されている。あわせて、館報や紀要による対外的な情報発信を積極的に進めている。

## エ 国立国際美術館

### (ア) 所蔵作品に関する調査研究

「国立国際美術館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」の時期にあわせ、当館の所蔵作品選を刊行した。また、国立国際美術館ニュースにおいて、工藤哲巳作品の調査研究成果の報告を行うとともに、所蔵作品についての解説も行った。

### (イ) 保管・修理に関する調査研究

平成 23 年度に引き続き、平成 24 年度は主に彫刻を対象とした所蔵作品のコンディションの確認を行った。

### (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

当館が所蔵する写真作品を調査し、「国立国際美術館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」において現代の写真に関する展覧会を開催するとともに、写真を巡る調査



研究の成果を、シンポジウムを開催することによって実現した。また、映像に関する調査研究を進め、その成果として、「夢か、現か、幻か」を開催した。

### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

#### (1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

##### ① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信

##### ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計 28 冊）、研究紀要（計 3 冊）、館ニュース（計 7 種、32 冊発行）等の刊行物により、研究成果を発信した。

| 館名        | 展覧会図録    | 研究紀要 | 館ニュース | 所蔵品目録 | パンフレット・ガイド等 | その他 |   |
|-----------|----------|------|-------|-------|-------------|-----|---|
| 東京国立近代美術館 | 本館       | 4    | 6     | 0     | 0           | 3   |   |
|           | 工芸館      | 3    |       | 1     | 3           | 4   | 1 |
|           | フィルムセンター | 0    |       | 6     | 0           | 0   | 0 |
| 京都国立近代美術館 | 6        | 1    | 3     | 1     | 0           | 1   |   |
| 国立西洋美術館   | 4        | 1    | 4     | 0     | 4           | 5   |   |
| 国立国際美術館   | 5        | 0    | 10    | 1     | 6           | 1   |   |
| 国立新美術館    | 6        | 0    | 3     | 0     | 5           | 1   |   |
| 計         | 28       | 3    | 32    | 5     | 19          | 12  |   |

注1 京都国立近代美術館の所蔵品目録には、「所蔵作品目録X」として刊行した「井田照一の版画」展の図録を含む。

注2 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

注3 「その他」には、論文集『実験場1950s』、『東京国立近代美術館60年史』、研究成果報告書『明治期に海外流出した近代工芸作品の調査』、『平成23年度 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告』（東京国立近代美術館）、『京都国立近代美術館 活動報告 MoMAK Report 2011』（京都国立近代美術館）、『国立西洋美術館報 No.46』、『国立西洋美術館名作選』、『ポケットガイド 西洋素描の見かた』、『国立西洋美術館ボランティア活動報告 2008-2011年度』、『平成24年度独立行政法人国立美術館国立西洋美術館概要』（国立西洋美術館）、『平成23年度国立国際美術館活動報告』（国立国際美術館）、『平成23年度国立新美術館活動報告』（国立新美術館）が含まれる。

##### イ 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

##### (ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表]（本館・工芸館）

| タイトル                             | 学会等名   | 発表者職名・氏名   | 日付         | 場所           | 聴講者数 |
|----------------------------------|--|------------|------------|--------------|------|
| 「美術を見ること、感じること—美術館を活用した鑑賞教育について」 | 「京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて—平成24年度図画工作科指導講座」<br>京都国立近代美術館・京都市教育委員会・京都市図画工作教育研究会 | 主任研究員・一條彰子 | 2012年8月3日  | 京都国立近代美術館講堂  | 80   |
| シンポジウム「誰かと一緒に作品を見るといふこと」         | 世田谷美術館   | 主任研究員・一條彰子 | 2012年10月8日 | 世田谷美術館講堂     | 80   |
| 「川平恵造作品の対話による鑑賞」                 | 美術による学び研究会   | 主任研究員・一條彰子 | 2012年11月3日 | 名護市21世紀の森ビーチ | 35   |
| 「美術館における鑑賞教育の展開とその意義」            | 知の広場   | 主任研究員・一條彰子 | 2012年11月7日 | お茶の水女子大学     | 30   |

|  |   |                |                 |  |     |
|--|---|----------------|-----------------|--|-----|
| 「博物館における青少年教育」ドイツ派遣事業に参加して」                              | 全国美術館会議第40回教育普及研究部会   | 主任研究員・<br>一條彰子 | 2012年11月<br>22日 | 東京都美術館アートスタディールーム                              | 50  |
| 「国立美術館が行う鑑賞教育研修」   | 釜山文化財団・釜山大学<br>校  | 主任研究員・<br>一條彰子 | 2012年12月6<br>日  | 釜山文化芸術教育支援センター                                 | 60  |
| 「鬚光《眼のある風景》をめぐって」  | 東京文化財研究所  | 主任研究員・<br>大谷省吾 | 2013年2月26<br>日  | 東京文化財研究所                                       | 15  |
| 「『これまでの芸術、これからの芸術』シリーズ プレ・セッション」                         | 四谷アート・ステュディオム   | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年4月22<br>日  | 近畿大学国際人文科学研究<br>所東京コミュニティカレッジ<br>東京アート・ステュディオム | 57  |
| 「石川卓磨・宮下さゆり展」<br>トーク                                     | タリオン・ギャラリー  | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年4月28<br>日  | タリオン・ギャラリー                                     | 20  |
| 「からだを作る、からだを壊す」  | 板橋区立美術館   | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年6月9<br>日   | 板橋区立美術館  | 32  |
| 「『ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945』展について」                           | 明治学院大学博物館実習   | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年6月22<br>日  | 明治学院大学   | 56  |
| 「Theory Round Table あつく塗る—ゴッホと由一と劉生と」                    | 四谷アート・ステュディオム   | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年6月28<br>日  | 近畿大学国際人文科学研究<br>所東京コミュニティカレッジ<br>東京アート・ステュディオム | 19  |
| 「TWS・Emerging 188/189/190/191」トーク                        | トーキョーワンダーサイト  | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年8月4<br>日   | トーキョーワンダーサイト                                   | 42  |
| 「進行中！ヴェネツィア・ビエンナーレに向けての過程公開」                             | 国際交流基金  | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年11月1<br>日  | 国際交流基金   | 67  |
| 「現代美術—きらわれる展示」   | 「～博物館 140年、これからの語る～多様なニーズにこたえる展示をめぐって」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年12月7<br>日  | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター                          | 60  |
| 「ナショナル・アート・ヒストリーを作る：東京国立近代美術館の場合」                        | 第8回次世代アジア・キュレーター会議  | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2012年12月<br>20日 | 国際交流基金   | 88  |
| 「Who is Kishida Ryusei?: A Case Study of a Yoga Painter」 | Taisho Conference 2013                                      | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2013年1月10<br>日  | ライデン大学   | 115 |
| 「座談会 なぜ岸田劉生だったのか？」                                       | 青山目黒  | 美術課長・<br>蔵屋美香  | 2013年2月9<br>日   | 青山目黒   | 30  |

|   |  |             |  |                            |       |
|---|--|-------------|--|----------------------------|-------|
| 聞き手「アーティスト・トーク」                           | 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」展 (gallery αM)       | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年4月14日, 5月26日, 6月30日, 8月18日, 9月21日, 10月27日, 12月1日, 2013年1月20日, 2月13日 | gallery αM                 | 30～60 |
| 公開鼎談「いま、絵画を語るために」                         | 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」展                    | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年6月12日   | gallery αM                 | 60    |
| 公開鼎談「徹底討論 絵画は本当に愛なのか」                     | 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」展                    | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年7月25日   | gallery αM                 | 60    |
| 公開鼎談／「クロージング・トーク 『エモーショナル&エンピリカル・ドローイング』」 | 「ドローイング・レッスンズ」展                        | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年10月19日  | 京都造形芸術大学ギャラリー・オーヴ          | 30    |
| 公開対談「映画『DUBHOUSE:物質試行52』について」             | 「特集上映 七里圭」                             | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年11月12日  | 新宿 K's cinema              | 40    |
| 公開鼎談「なにが人を魅了するのか アールブリュット作品のなぞ」           | 「第12回全国障害者芸術・文化祭さが大会」                  | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年11月23日  | 佐賀市文化会館                    | 60    |
| 「日本におけるアウトサイダー・アート」                       | NPO 法人アーツイニシアティブ東京                     | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年11月23日  | AIT 代官山                    | 30    |
| 公開対談「日本のアール・ブリュットについて語ろう」                 | 「日本のアール・ブリュットについて語ろう 私たちが考えるこれからのアート」展 | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年12月22日  | みずのき美術館                    | 30    |
| 「日本のアール・ブリュットの現在とこれから」                    | 薬工ミュージアム                               | 主任研究員・保坂健二郎 | 2012年12月23日  | アートゾーン薬工倉庫                 | 40    |
| 公開鼎談「ポコラートで福祉と美術を考える」                     | 「ポコラート全国公募展 vol.3」                     | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年1月14日   | アーツ千代田 3331                | 70    |
| 公開鼎談「絵画 TV」                               | 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」展                    | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年1月27日   | gallery αM                 | 50    |
| 公開鼎談「クロージング・トーク」                          | 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」展                    | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年2月2日  | gallery αM                 | 90    |
| モデレーター「シンポジウム アール・ブリュットの魅力とネットワーク」        | 「アメニティーネットワークフォーラム 17」                 | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年2月10日   | 大津プリンスホテルコンベンションホール淡海      | 100   |
| 「フランス・ベーコンナイト ベーコンを深く理解するための講座」           | 6次元                                    | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年3月9日  | 6次元                        | 30    |
| 公開鼎談「今、「アート」ではないアートが熱い!？」                 | アートフェア東京                               | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年3月13日   | 東京国際フォーラム                  | 80    |
| 特別講義「失敗から考えるアート」                          | 「ANTE TUMOR」展                          | 主任研究員・保坂健二郎 | 2013年3月26日   | アーツ千代田 3331                | 20    |
| シンポジウム「彫刻の領域素材とわざ」                        | 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館                        | 副館長・松本透     | 2012年6月3日  | 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー | 50    |

|   |  |            |             |                                 |     |
|---|--|------------|-------------|---------------------------------|-----|
| 「Growing Communication in Asian Art Museums in the New Century」                 | Asian Art Museum Directors' Forum 2012 | 副館長・松本透    | 2012年12月19日 | Bangladesh u Shilpakala Academy | 30  |
| 「『14のタペ』について」   | 東京藝術大学映像研究科主催「現代芸術論」                   | 主任研究員・三輪健仁 | 2012年11月28日 | 東京藝術大学                          | 20  |
| “Japanese-ness” in the Design Works for the Tokyo Olympics: Design Project 1964 | AIGA design educators conference       | 主任研究員・木田拓也 | 2012年12月15日 | University of Hawaii at Manoa   | 約30 |
| 東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト  | デザイン史学研究会                              | 主任研究員・木田拓也 | 2013年3月9日   | 埼玉大学                            | 約20 |

[学会等発表] (フィルムセンター)

| タイトル   | 学会等名                        | 発表者職名・氏名                                | 日付         | 場所                 | 聴講者数 |
|--|-----------------------------|---|------------|--------------------|------|
| Animation – an Art, an Entertainment, and a Light Thing  | 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 北京会議  | フィルムセンター主幹・岡島尚志                         | 2012年4月23日 | 中国電影資料館劇場          | 150  |
| ブルーシールドと文化財緊急活動 - 国内委員会の役割と必要性 -   | 文化遺産国際協力コンソーシアム             | フィルムセンター主幹・岡島尚志                         | 2012年9月7日  | 東京国立博物館・平成館 大講堂    | 100  |
| 残す?残さない?—35ミリ上映環境の確保について考える  | 全国コミュニティシネマ会議               | フィルムセンター主幹・岡島尚志                         | 2012年9月9日  | 沖縄県・那覇市 桜坂劇場       | 150  |
| Restoring Japanese Record Talkie Animation   | 国際フィルム・アーカイブ連盟北京会議          | フィルムセンター主任研究員・榎木章 (発表者名は Akira Tochigi) | 2012年4月23日 | 中国電影資料館劇場          | 150  |
| 交差する歴史のアーリー東京国立近代美術館フィルムセンターにおける非劇映画フィルム・コレクション  | 韓国・高麗大学韓国史センター              | フィルムセンター主任研究員・榎木章 (発表者名はとちぎあきら)         | 2012年6月23日 | 韓国ソウル・高麗大学         | 30   |
| 結節点としてのナショナル・フィルム・アーカイブ—フィルムセンターの映画フィルム収集事業について  | 第7回映画の復元と保存に関するワークショップ 2012 | フィルムセンター主任研究員・榎木章 (発表者名はとちぎあきら)         | 2012年8月26日 | 京都府京都文化博物館フィルムシアター | 120  |
| これからのフィルム上映について  | カナザワ映画祭 2012                | フィルムセンター主任研究員・榎木章 (発表者名はとちぎあきら)         | 2012年9月9日  | 石川県・金沢都ホテル・セミナーホール | 150  |
| Towards the Synergy of Photo-Chemical and Digital: Challenges of Film Preservation and Restoration at National Center of Tokyo | 第2回釜山シネマフォーラム               | フィルムセンター主任研究員・榎木章 (発表者名は Akira Tochigi) | 2012年10月8日 | 韓国釜山・ソヤン音楽センター     | 50   |

|  |   |   |             |                            |      |
|--|---|---|-------------|----------------------------|------|
| 映画保存の実践的課題—東京国立近代美術館フィルムセンターにおける映画フィルム収蔵のためのプロセス   | 記録映画アーカイブ・プロジェクト第9回ワークショップ                      | フィルムセンター主任研究員・<br>榎木章（発表者名はとちぎあきら）        | 2013年1月26日  | 東京大学大学院情報学環福武ホール           | 200  |
| Archiving Moving Image Practice  | Japanese Cinema Revisited Workshop              | フィルムセンター主任研究員・<br>榎木章（発表者名はAkira Tochigi） | 2013年2月23日  | 明治学院大学白金キャンパス              | 60   |
| 映画作品の原版保存に関する現状と課題   | 映画演劇労働組合連合会学習会                                  | フィルムセンター主任研究員・<br>榎木章（発表者名はとちぎあきら）        | 2013年3月14日  | 文京シビックセンター会議室              | 50   |
| 映画の復元—技術、倫理、そして創造  | 横浜キネマ倶楽部第30回上映会                                 | フィルムセンター主任研究員・<br>榎木章（発表者名はとちぎあきら）        | 2013年3月17日  | 神奈川県横浜市・神奈川公会堂             | 70   |
| Max au Japon, ver une nouvelle gestualité comique  | マックス・ランデー国際シンポジウム                               | フィルムセンター研究員・<br>大傍正規                      | 2012年10月4日  | シネマテーク・スイス                 | 60   |
| 新しい身体性と編集のリズム—越境者マックス・ランデーに注がれたまなざし  | 東西研   | フィルムセンター研究員・<br>大傍正規                      | 2013年2月9日   | 関西大学千里山キャンパス以文館4Fセミナースペース  | 40   |
| 演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用   | 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点での成果報告                     | フィルムセンター主任研究員・<br>入江良郎                    | 2012年12月20日 | 早稲田大学早稲田キャンパス6号館3階レクチャールーム | 30   |
| Noburo Ofuji, un cinéaste d'animation sauvé de l'oubli (忘却から救われたアニメーション作家 大藤信郎)                                  | 国際フィルム・アーカイブ連盟北京会議                              | フィルムセンター主任研究員・<br>岡田秀則                    | 2012年4月24日  | 中国電影資料館                    | 約200 |
| Cultures of Silent Film: Preservation, Reassessment, Digital Reproduction, and Contemporary Performance (セッション名) | 第16回日本アジア研究学会                                   | フィルムセンター主任研究員・<br>岡田秀則                    | 2012年6月30日  | 立教大学                       | 約40  |
| 「日本の色彩映画—1953年」を検証する」  | 早稲田大学演劇映像学連携研究拠点テーマ研究「日本映画、その史的社会的諸相の研究」主催公開研究会 | フィルムセンター主任研究員・<br>岡田秀則                    | 2012年7月21日  | 早稲田大学                      | 約20  |

[雑誌等論文掲載] (本館・工芸館)

| タイトル   | 執筆者職名・氏名        | 掲載誌名（発行者）                                      | 発行年月日                 |
|--|-----------------|--|-----------------------|
| 「美術館活用術—ロンドン・テート・ギャラリー」  | 主任研究員・<br>一條彰子  | 『美育文化』62巻6号                                    | 2012年11月              |
| 「「博物館における青少年教育」ドイツ派遣事業に参加して」   | 主任研究員・<br>一條彰子  | 『全美フォーラム』3号（全国美術館会議）                           | 2013年1月               |
| 作品解説「古賀春江」「三岸好太郎」「北脇昇」「鬘光」   | 主任研究員・<br>大谷省吾  | 『美術手帖』967号（美術出版社）                              | 2012年6月               |
| 「浅見貴子」   | 主任研究員・<br>大谷省吾  | 『第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展』カタログ（日本経済新聞社）               | 2012年5月               |
| 「Pre-history of APN: Kiyoji Ohtsuji and Nobuya Abe」（翻訳：Mélanie Mermod） | 主任研究員・<br>大谷省吾  | 『APN RESEARCH あぶん』カタログ（クンストハレ、ベルン）             | 2012年8月               |
| 「小谷野夏木」  | 主任研究員・<br>大谷省吾  | 『VOCA2013』カタログ（上野の森美術館）                        | 2013年3月               |
| 「熊谷守一 裸婦をめぐる実験」  | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『花美術館』26号                                      | 2012年6月               |
| 「日本美術と影 十選」  | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『日本経済新聞』                                       | 2012年9月25日～10月11日     |
| 「MOMAT コレクションリニューアルについて」   | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『美術手帖』967号（西澤徹夫と共著、美術出版社）                      | 2012年6月               |
| 作品解説「萬鉄五郎」「村山槐多」「関根正二」   | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『美術手帖』967号（美術出版社）                              | 2012年6月               |
| 「Women's Art 自然と女性—おなじみの主題がもつ意味」                                       | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『ウィラーン』709号（公益財団法人日本女性学習財団）                    | 2012年6月               |
| 「Women's Art 自然と女性 2—上から目線のそのわけは...」                                   | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『ウィラーン』710号（公益財団法人日本女性学習財団）                    | 2012年7月               |
| 「MOMAT コレクションリニューアルを振り返る」  | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 『美術手帖』976号（西澤徹夫と共著、美術出版社）                      | 2012年12月              |
| 「実技 所蔵作品展を見よう」   | 美術課長・<br>蔵屋美香   | 小沢剛・塚本由晴『線の演習 建築学生のための美術入門』（小沢剛と共著、彰国社）        | 2012年12月              |
| 連載「写真のバックストーリー」  | 客員研究員・<br>小林美香  | 『ときの忘れもの』ウェブサイト                                | 2012年4月10日～2013年2月25日 |
| 「“Ma” and Photography: Four Emerging Female Artists from Japan」        | 客員研究員・<br>小林美香  | 『Trans Asia Photography Review』（ウェブサイト）        | 2012年春                |
| 「The Stranger In Marrakech」  | 研究補佐員・<br>柴原聡子  | 『ANOTHER AFRICA』ウェブサイト                         | 2012年5月               |
| 「夏の家」  | 研究補佐員・<br>柴原聡子  | 『10+1 website』ウェブサイト（LIXIL 出版）                 | 2013年1月               |
| 「近代美術の眼 長原孝太郎《残雪》」   | 主任研究員・<br>鈴木勝雄  | 『読売新聞』都内版                                      | 2012年3月8日             |
| 「近代美術の眼 大下藤次郎《穂高山の麓》」  | 主任研究員・<br>都築千重子 | 『読売新聞』都内版                                      | 2012年5月18日            |
| 「近代美術の眼 谷中安規《春の自転車》」   | 主任研究員・<br>都築千重子 | 『読売新聞』都内版                                      | 2013年1月11日            |
| 「武田史子」   | 主任研究員・<br>都築千重子 | 『第1回 PAT in Kyoto 京都版画トリエンナーレ2013』カタログ（京都市美術館） | 2013年2月               |
| 「吉川霊華展 究極の線を求めて」   | 主任研究員・<br>鶴見香織  | 『美術の窓』366号（生活の友社）                              | 2012年7月               |
| 「吉川霊華展 近代にうまれた線の探究者」   | 主任研究員・<br>鶴見香織  | 『月刊水墨画』279号（ユーキャン）                             | 2012年6月               |
| 「近代美術の眼 狩野芳崖《仁王捉鬼》」  | 主任研究員・<br>鶴見香織  | 『読売新聞』都内版                                      | 2012年11月9日            |
| コラム、作品解説、作家解説  | 主任研究員・<br>鶴見香織  | 『Arte In Giappone 1868-1945』カタログ（ローマ国立近代美術館）   | 2013年2月               |

|  |                 |   |  |
|--|-----------------|---|--|
| 作品解説「徳岡神泉」「小林古径」   | 主任研究員・<br>中村麗子  | 『美術手帖』967号（美術出版社）   | 2012年6月  |
| 連載「美術」   | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『すばる』（集英社）  | 2012年4月～2013年<br>3月  |
| 連載「視線」   | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『朝日新聞』  | 2012年4月22日、6<br>月3日、7月8日、8<br>月12日、9月16日、<br>10月21日、12月2<br>日、2013年1月13日、<br>2月17日、3月24日 |
| 「The Possibilities of Japanese<br>Art Brut」                  | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『Art Brut from Japan』（Het<br>Dolhuys）   | 2012年4月  |
| 「勇敢と格好悪さのはざままで フ<br>ロネーシスを持つデザイナーとし<br>ての中島英樹」               | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『DAIWA PRESS VIEWING<br>ROOM 13 HIDEKI NAKAJIMA』<br>（Daiwa Press）   | 2012年5月  |
| 「アートインスパイアデザイン」  | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『倉俣史朗読本』（エクスナレッジ）   | 2013年7月  |
| 「なぜスーパー・ワールド・オン・<br>ペーパーなのか」                                 | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『スーパー・ワールド・オン・ペ<br>ーパー 古久保憲満と松本寛庸』（ボ<br>ーダレス・アートミュージアム<br>NOMA）   | 2012年8月  |
| 「時評 建築（展）と美術館のこ<br>れからの“感じ”」                                 | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『凶区』（BOOK PEAK）   | 2012年9月  |
| 「建築家とキュレーターの新し<br>い関係」                                       | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『「山下保博×アトリエ・天工人」<br>展覧会レポート』（TOTO ギャラ<br>リー・間ウェブサイト）  | 2012年10月   |
| 「アール・ブリュットとはなにか」   | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『手をつなぐ』（全日本手をつなぐ<br>育成会）  | 2012年10月   |
| 「なぜヴァレリオ・オルジャティ<br>は「建築」に立ち向かえるのか？：<br>カール・バルトの神学を手掛かり<br>に」 | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『a+u』（新建築社）   | 2012年12月   |
| 「A propos des cartes de Robert<br>Coutelas」（翻訳：岸真理子・モ<br>リア） | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『Les monde de Robert Coutelas<br>1930-1985: La collection Jeanne<br>Matossian』（Musée des beaux-arts<br>de Chartres） | 2012年12月   |
| 「東京ブロック 再生・ボーダ<br>レス・初」                                      | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『ZENBI』vol.3（全国美術館会議）   | 2013年1月  |
| 「ポコラートと日本のアート」   | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『アール・ブリュット？アウトサイ<br>ダー・アート？ポコラート！福祉×表<br>現×美術×魂』（3331 Arts Chiyoda）   | 2013年1月  |
| 連載「月評」   | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『新建築』（新建築社）   | 2013年1月、3月   |
| 「戦略家としてのフランシス・ペ<br>ーコン」、解説、鼎談                                | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『美術手帖』980号（美術出版社）   | 2013年3月  |
| 「近代美術の眼 恩地孝四郎『あ<br>るヴァイオリニストの印象（諏訪<br>根自子像）』」                | 主任研究員・<br>保坂健二郎 | 『読売新聞』（都内版）   | 2012年6月15日   |
| 「MOMAT コレクション こども<br>セルフガイド」                                 | 研究補佐員・<br>細谷美宇  | 『教育美術』（教育美術振興会）   | 2012年11月   |
| 「国立美術館 アートカード・セ<br>ット」                                       | 研究補佐員・<br>細谷美宇  | 『教育美術』（教育美術振興会）   | 2012年11月   |
| 「装置としての作品—高松次郎の<br>《点》／《紐》シリーズ再考」                            | 研究員・<br>梶田倫広    | 『Jiro Takamatsu Critical<br>Archive』（ユミコチバアソシエイ<br>ツ）   | 2012年6月  |
| 「イラストレーションならざる絵<br>画とは？」、解説、鼎談（特集フ<br>ランシス・ペーコン）             | 研究員・<br>梶田倫広    | 『美術手帖』980号（美術出版社）   | 2013年3月  |

|   |                |   |             |
|---|----------------|---|-------------|
| 「近代美術の眼 石井茂雄《戒厳状態》」   | 研究員・<br>梶田倫広   | 『読売新聞』都内版   | 2012年12月14日 |
| 「近代美術の眼 瑛九《青の中の丸》」  | 研究員・<br>梶田倫広   | 『読売新聞』都内版   | 2013年2月8日   |
| 「近代美術の眼 伊藤義彦《imagery 728500007》」  | 主任研究員・<br>増田玲  | 『読売新聞』都内版   | 2012年7月13日  |
| 「近代美術の眼 植田正治《パパとママと子供たち》」   | 主任研究員・<br>増田玲  | 『読売新聞』都内版   | 2012年10月12日 |
| 「道を横から撮る—北井一夫の写真について」   | 主任研究員・<br>増田玲  | 『北井一夫 いつか見た風景』展カタログ（東京都写真美術館）                           | 2012年11月    |
| 「発見され続ける植物写真群—カール・ブロスフェルトの写真について」   | 主任研究員・<br>増田玲  | 『カール・ブロスフェルト展』カタログ（Fuji Xerox Art Space）                | 2013年1月     |
| 「Tōhoku について」   | 主任研究員・<br>増田玲  | Hans-Christiaan Schink『Tōhoku』（Hatje Cantz）             | 2013年3月     |
| 「独立行政法人国立美術館による文化財レスキュー活動」  | 副館長・松本透        | 『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 平成23年度活動報告書』                     | 2012年10月    |
| 「日本の同時代美術 1970年代以後—その歴史性について」, 作家解説（村岡三郎, 河口龍夫, 伊藤隆介）   | 副館長・松本透        | 『Re: Quest—1970年代以降の日本現代美術』展カタログ（国際交流基金）                | 2013年2月     |
| 「審査講評」  | 副館長・松本透        | 『損保ジャパン美術賞展 FACE 2013』展カタログ（損保ジャパン東郷青児美術館）              | 2013年2月     |
| 「物質と空間—鈴木久雄と多和圭三の彫刻」  | 副館長・松本透        | 『武蔵野美術大学共同研究 日本現代彫刻における素材・技法の制作的・理論的研究』                 | 2013年3月     |
| （編集）  | 主任研究員・<br>水谷長志 | 『美術家たちの証言—東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』選集』（美術出版社）                 | 2012年10月    |
| 「メディア連携を企図する館史としての『東京国立近代美術館 60年史』—「美術館の歴史を一冊の参考図書とする」 試み再論」  | 主任研究員・<br>水谷長志 | 『アート・ドキュメンテーション通信』96号（アート・ドキュメンテーション学会）                 | 2013年1月     |
| 「Art Libraries and art documentation in Japan, 1986-2012: progress in networking in museums, libraries and archives and the ALC: Art Libraries' Consortium」 | 主任研究員・<br>水谷長志 | 『Art Library Journal』vol.38, no.2（ARLIS/UK & Ireland）   | 2013年3月     |
| 「話題提供 アート・ミュージアムからの課題の提起」   | 主任研究員・<br>水谷長志 | 『地域に生きるミュージアム』（現代企画室）                                   | 2013年3月     |
| 書評「『バウル・クレー 造形の宇宙』（著 前田富士男）」  | 主任研究員・<br>三輪健仁 | 『美術の窓』352号（生活の友社）                                       | 2013年1月     |
| 「神村恵」（「この劇団がすごい！2013」）  | 主任研究員・<br>三輪健仁 | 『ユリイカ』（青土社）   | 2013年1月     |
| 「画家とアーカイブズの関係についての覚え書き バウル・クレーを事例として」   | 研究補佐員・<br>渡邊美喜 | 『GCAS Report』Vol.2（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）            | 2013年3月     |
| 翻訳 キム・エバーハード, ステイプ・ステファノプロス「第16章 図面、写真、モノ資料」  | 研究補佐員・<br>渡邊美喜 | オーストラリア・アーキビスト協会『キーピング・アーカイブズ』（勉強出版ウェブサイト連載, 第17回～第24回） | 2012年7月～10月 |



|   |   |  |          |
|---|---|--|----------|
| Japanese Crafts and Cultural Exchange with the USA in the 1950s: Soft Power and John D. Rockefeller III during the Cold War | 主任研究員・木田拓也                                  | Journal of Design History (Oxford University Press)  | 2012年10月 |
| Japanese Art Crafts—From Modern to Contemporary   | 主任研究員・諸山正則                                  | L'eleganza Della Memoria The Elegance of Memory (sillabe s.r.l.) (フィレンツェ・ピッティ宮殿「日本のわざと美—近現代工芸の精華—」展図録) | 2012年4月  |
| バーナード・リーチと日本—個人作家の使命—   | 主任研究員・諸山正則                                  | バーナード・リーチ (朝日新聞社)  | 2012年8月  |
| 茶事にまつわる“うつわ”—陶を中心に—   | 工芸課長・唐澤昌宏                                   | 「茶事にまつわる“うつわ”—陶を中心に—」展リーフレット   | 2012年6月  |
| 作家作品解説  | 唐澤昌宏(工芸課長)・諸山正則(主任研究員, 以下同じ)・今井陽子・木田拓也・北村仁美 | L'eleganza Della Memoria The Elegance of Memory (sillabe s.r.l.) (フィレンツェ・ピッティ宮殿「日本のわざと美—近現代工芸の精華—」展図録) | 2012年4月  |
| 京都の染織   | 主任研究員・今井陽子                                  | 美しいキモノ(ハースト婦人画報社)  | 2012年8月  |

[雑誌等論文掲載] (フィルムセンター)

| タイトル                            | 執筆者職名・氏名                       | 掲載誌名(発行者)                              | 発行年月日       |
|---------------------------------|--------------------------------|--|-------------|
| <座談会>記録映画の保存と活用にむけて             | フィルムセンター主任研究員・榎木章(執筆者名はとちぎあきら) | 記録映画アーカイブ1 岩波映画の1億のフレーム(東京大学出版会)       | 平成24年5月30日  |
| CIE映画フィルムのアーカイビング               | フィルムセンター主任研究員・榎木章(執筆者名はとちぎあきら) | 占領する眼・占領する声 CIE/USIS映画とVOAラジオ(東京大学出版会) | 平成24年7月31日  |
| 共鳴する身体と音—喜劇映画の「笑い」を増幅する音響効果     | フィルムセンター研究員・大傍正規               | 『メディア文化論』(ナカニシヤ出版)                     | 平成25年3月30日  |
| 『還ってきた文楽フィルム『日本の人形劇—人形浄瑠璃』研究報告』 | フィルムセンター主任研究員・岡田秀則             | 「映像学」第88号(日本映像学会)                      | 2012年5月25日  |
| 映画史の中の岩波科学映画                    | フィルムセンター主任研究員・岡田秀則             | 『岩波映画の1億フレーム』(東京大学出版会)                 | 2012年5月30日  |
| 《ノンフィルム》—もう一つの映画のアーカイブ          | フィルムセンター主任研究員・岡田秀則             | 『アーカイブのつくりかた 構築と活用入門』(勉誠出版)            | 2012年11月30日 |

(イ) 京都国立近代美術館

[学会等発表]

| タイトル  | 学会等名  | 発表者職名・氏名   | 日付          | 場所             | 聴講者数 |
|---|---|------------|-------------|----------------|------|
| ドイツにおける型紙の受容とモダン・デザインの誕生『シンポジウム「KATAGAMI Style もうひとつのジャポニスム」』                 | 日仏会館フランス事務所主催                               | 主任研究員・池田祐子 | 2012年5月16日  | 日仏会館ホール        | 120  |
| 世紀転換期の〈植物表現〉—ユーゲントシュティールからモダンデザインへ『シンポジウム《植物を描く／植物で描く》—ドイツ語圏の美術でたどる植物表現の可能性—』 | 明治学院大学言語文化研究所・明治学院大学文学部芸術学科・ドイツ語圏美術史研究連絡網主催 | 主任研究員・池田祐子 | 2012年12月2日  | 明治学院大学白金校舎     | 53   |
| 「装飾とフォルムに見られる日本と自然に関する言説—ドイツの世紀転換期を中心に」『国際シンポジウム「装飾とデザインのジャポニスム」』             | 日本女子大学文化学科主催                                | 主任研究員・池田祐子 | 2012年12月15日 | 日本女子大学新泉山館大会議室 | 48   |

[雑誌等論文掲載]

| タイトル  | 執筆者職名・氏名   | 掲載誌名(発行者)  | 発行年月日      |
|---|------------|--|------------|
| 海外に渡った染め型紙とその影響—〈KATAGAMI Style〉展をめぐるめぐって       | 主任研究員・池田祐子 | 染織情報 α (染織と生活社)  | 2012年7月号   |
| 根源性の憧憬—ドイツ表現主義とプリミティヴィスム                        | 主任研究員・池田祐子 | 「ゴッホの夢」美術館(小学館)  | 2013年3月21日 |
| ドイツ世紀転換期のデザインにおける自然の言説をめぐる試論                    | 主任研究員・池田祐子 | 東西文化の磁場(国書刊行会)   | 2013年3月    |
| 世紀転換期の〈植物表現〉—ユーゲントシュティールからモダンデザインへ              | 主任研究員・池田祐子 | 『言語文化』第30号(明治学院大学言語文化研究所)  | 2013年3月    |
| 上野伊三郎・リチの活動に見る「東西文化の磁場」                         | 学芸課長・山野英嗣  | 東西文化の磁場(国書刊行会)   | 2013年3月    |
| Gutai and Its Internationalism                  | 主任研究員・平井章一 | Destroy the Picture: Painting the Void, 1949–1962(The Museum of Contemporary Art, Los Angeles, Skira Rizzoli Publications) | 2012年10月   |
| Prewar Kansai Cosmopolitanism and Postwar Gutai | 主任研究員・平井章一 | Gutai: Splendid Playground(Guggenheim Museum, N.Y.)  | 2013年2月    |

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

| タイトル                        | 学会等名                      | 発表者職名・氏名   | 日付         | 場所        | 聴講者数 |
|-----------------------------|---------------------------|------------|------------|-----------|------|
| チャールズ・ウィルソン・ピールのミュージアムとアメリカ | アメリカ学会第46回年次大会, 文化・芸術史分科会 | 主任研究員・横山佐紀 | 2012年6月3日  | 名古屋大学     | 20   |
| ナショナル・ポートレート・ギャラリーにおける思想・歴史 | 文化資源学会第2回博士号取得者研究発表会      | 主任研究員・横山佐紀 | 2012年12月8日 | 東京大学      | 50   |
| 作品情報の収集・整理・発信—現状と課題—        | 全国美術館会議第27回学芸員研修会         | 主任研究員・川口雅子 | 2013年3月25日 | 国立西洋美術館講堂 | 100  |

[雑誌等論文掲載]

| タイトル                          | 執筆者職名・氏名   | 掲載誌名（発行者）                                 | 発行年月日      |
|-------------------------------|------------|---|------------|
| ミロの寡黙な絵画                      | 学芸課長・村上博哉  | 日仏美術交流シンポジウム シュルレアリスムの時代—越境と混淆の行方（日仏美術学会） | 2012年6月20日 |
| ニューヨークのさまざまなミュージアムとアクセス・プログラム | 主任研究員・横山佐紀 | 『博物館研究』 Vol.48 No.1（日本博物館協会）              | 2013年1月25日 |
| レファレンスブック・ガイド13               | 主任研究員・川口雅子 | アート・ドキュメンテーション通信 96号                      | 2013年1月25日 |
| 部会報告 情報・資料研究部会                | 主任研究員・川口雅子 | Zenbi（全国美術館会議）                            | 2013年1月31日 |
| ナショナル・ポートレート・ギャラリー その思想と歴史    | 主任研究員・横山佐紀 | 『ナショナル・ポートレート・ギャラリー その思想と歴史』（三元社）         | 2013年2月28日 |

(エ) 国立国際美術館

[学会等発表]

| タイトル                    | 学会等名   | 発表者職名・氏名   | 日付               | 場所     | 聴講者数 |
|-------------------------|--|------------|------------------|--------|------|
| Curatorial Practice     | Curators' Incubator Program at Hong-gah Museum           | 主任研究員・植松由佳 | 2012年6月24日       | 台北（台湾） | —    |
| インサイド・アウトサイド            | 高松コンテンプラリー・アニュアル vol.02                                  | 主任研究員・植松由佳 | 2012年7月28日       | 高松     | —    |
| レッツトークアバウトアート           | CCAキュレーター・ミーティング 2012                                    | 主任研究員・植松由佳 | 2012年9月28日～9月30日 | 北九州    | —    |
| モホイ=ナジ・ラースローと日本—戦前を中心に— | 日本建築学会シンポジウム「近代建築史の最先端」第8回 近代（日本）×近代（西洋）—中東欧のモダニズムとその拡がり | 客員研究員・森下明彦 | 2013年3月6日        | 大阪     | 約35名 |

[雑誌等論文掲載]

| タイトル                                      | 執筆者職名・氏名   | 掲載誌名（発行者）                              | 発行年月日      |
|---|------------|--|------------|
| 「世界と人間」                                   | 主任研究員・中西博之 | 「高柳恵里 不意打ち」 TIME & STYLE MIDTOWN, 東京   | 2013年3月1日  |
| 「現代美術展を開催するということ」                         | 主任研究員・植松由佳 | 『高松コンテンプラリー・アニュアル vol. 02』（高松市美術館, 香川） | 2012年9月9日  |
| 「夢か、現か、幻か」                                | 主任研究員・植松由佳 | 『文化庁月報』（文化庁）                           | 2013年1月1日  |
| 「美術館での語らいの時間」                             | 主任研究員・藤吉祐子 | 『文化庁月報』（文化庁）                           | 2012年9月1日  |
| 「作品と鑑賞者をつなぐために～『ジュニア・セルフガイド』一枚の小さなシートから～」 | 主任研究員・藤吉祐子 | 『教育美術』（教育美術振興会）                        | 2012年11月1日 |
| モホイ=ナジ・ラースローと戦前の日本                        | 客員研究員・森下明彦 | Cross Sections Vol. 5（京都国立近代美術館研究論集）   | 2013年3月1日  |

(オ) 国立新美術館

[学会等発表]

| タイトル | 学会等名 | 発表者職名・氏名 | 日付 | 場所 | 聴講者数 |
|------|------|----------|----|----|------|
|------|------|----------|----|----|------|

|  |             |          |            |        |   |
|--|-------------|----------|------------|--------|---|
| 「時代と絵画」/造形大プロジェクト「組替え絵画 私たちの作品を見てください Cathy project」 | 東京造形大学レクチャー | 学芸課長・南雄介 | 2012年12月7日 | 東京造形大学 | — |
|--|-------------|----------|------------|--------|---|

[雑誌等論文掲載]

| タイトル  | 執筆者職名・氏名         | 掲載誌名（発行者）  | 発行年月日      |
|---|------------------|--|------------|
| 「大平實の新作」  | 副館長・福永治          | 『大平實展』 展覧会リーフレット                                     | 2012年10月   |
| 「「新進アーティスト作品展 vol.11」総評、作品評」  | 副館長・福永治          | 『新進アーティスト作品展 vol.11』 財団法人富士市文化振興財団                   | 2013年3月    |
| 「展評「中村と村上」展」(再録)  | 学芸課長・南雄介         | 美術手帖編『村上隆完全読本 美術手帖全記事 1992-2012』（美術出版社）              | 2012年6月    |
| 「国立新美術館 与えられた形象—辰野登恵子／柴田敏雄」   | 学芸課長・南雄介         | 『文化庁月報』9月号 No. 528 (WEB版)                            | 2012年9月    |
| 「日本の現代美術—その国際性について」   | 学芸課長・南雄介         | 『組替え絵画 私たちの作品を見てください Cathy project』（学校法人桑沢学園 東京造形大学） | 2013年1月    |
| 「マルセル・デュシャン」(再録)  | 学芸課長・南雄介         | 美術手帖編『現代アートの巨匠 先駆者たちの〈作品・ことば・人生〉』（美術出版社）             | 2013年2月    |
| 「フランス国立クリュニー中世美術館所蔵 貴婦人と一角獣展」   | 学芸課長・南雄介         | 『美術の窓』（生活の友社）  | 2013年2月    |
| 「アメリカン・ポップ・アート展」  | 学芸課長・南雄介         | 『美術の窓』（生活の友社）  | 2013年2月    |
| 「よみがえるニッポンのチャレンジ精神と創造的エネルギー」  | 主任研究員・平井章一       | 『文化庁月報』7月号 No.526(文化庁)                               | 2012年7月    |
| 「前衛グループ『具体』回顧展」   | 主任研究員・平井章一       | 東京新聞（中日新聞，北陸中日新聞，日刊県民福井）                             | 2012年8月29日 |
| 「西欧絵画をめぐる400年」  | 主任研究員・本橋弥生       | 『文化庁月報』4月号 No.523(文化庁)                               | 2012年4月    |
| 「第4章 19世紀 ロマン派からポスト印象派まで 進化する世紀」，「第5章 20世紀 マティスとその周辺 アヴァンギャルドの世紀」，「パブロ・ピカソ」                   | 主任研究員・本橋弥生       | 『ぶらぶら美術・博物館 おさんぽアートブック 2012-2013』（日本テレビ放送網株式会社）      | 2012年5月25日 |
| 「大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の400年」   | 主任研究員・本橋弥生       | 『新美術新聞』（No.1281）6月1日号                                | 2012年6月    |
| 「国立新美術館『アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち』展に寄せて」   | 主任研究員・西野華子       | 『文化庁月報』2月号 No.533(文化庁)                               | 2013年2月    |
| 「南北の往復から見るセザンヌ—展覧会史における『セザンヌ—パリとプロヴァンス』展の意義」  | アソシエイト・フェロー・工藤弘二 | 『シンポジウム記録集「セザンヌ—パリとプロヴァンス」展から見る今日のセザンヌ』              | 2013年3月    |
| 「フィンランドの話、始めます。」「フィンランドのライフスタイル—くらしとデザインにまつわる4つの話」／「フィンランドのくらしとデザイン—ムーミンが住む、森の生活」展覧会カタログ(第2刷) | アソシエイト・フェロー・吉澤菜摘 | 株式会社キュレイターズ  | 2012年10月   |
| 『国立新美術館ガイドブック ハロー!!カリフォルニア・デザイン』（共著）  | アソシエイト・フェロー・吉澤菜摘 | 国立新美術館   | 2013年3月    |

|  |                  |                     |         |
|--|------------------|---------------------|---------|
| 「綜観東京国立新美術館之圖書與資訊服務」<br>(Overview of the Library and Information Services at the National Art Center, Tokyo) | アソシエイト・フェロー・谷口英理 | 『美術論叢』（第87号）台北市立美術館 | 2012年8月 |
|--|------------------|---------------------|---------|

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

『研究紀要』の収録論文をホームページ上に掲載した。

また、本館所蔵作品展のリニューアルにともない、当館 HP 内の紹介記事を一新し、展示室内の写真を交えながら、特集展示の内容、見どころ、その他ファシリティなどわかりやすくアピールする作りとした。

(イ) 京都国立近代美術館

当館ホームページ上に、開催各展覧会の概要を掲載するとともに、コレクション・ギャラリーについても、「小企画」の概要を掲載した。さらに、「50周年記念特別展 交差する表現」展については、特設サイト上に、展覧会の概要及び当館の「50年の歩み」についての解説文を掲載した。

(ウ) 国立西洋美術館

「国立西洋美術館ニュース Zephyros」をホームページ上に掲載した。

また、研究資料センターで提供している電子ジャーナルやマイクロ資料等の情報源を案内した、美術館学芸員・西洋美術史研究者向けの西洋美術分野のレファレンス・ガイドである「国立西洋美術館研究資料センター 学術情報案内」をホームページ上で発信した。

(エ) 国立新美術館

「国立新美術館活動報告」及び「国立新美術館ニュース」を、当館ホームページにおいて公開した。

エ その他

(ア) 京都国立近代美術館

当館の研究員が中心になって平成 21 年度から 4 か年にわたって研究を進めてきた科学研究費補助金（基盤研究 A）「東西文化の磁場 日本近代建築・デザイン・工芸の超一、脱一領域的作用史の基盤研究」が平成 24 年度 3 月末で終了するに際し、その最終報告も兼ねた書籍『東西文化の磁場 日本近代の建築・デザイン・工芸における境界的作用史の研究』が国書刊行会から出版された（平成 25 年 3 月）。

(イ) 国立西洋美術館

青柳正規館長監修、国立西洋美術館編により「朝日おとなの学びなおし 美術 西洋美術史」（朝日新聞出版、平成 25 年 1 月 30 日）を刊行した。執筆には渡辺晋輔，高梨光正，陳岡めぐみ，村上博哉，大屋美那（以上主任研究員），中田明日佳，新藤淳，川瀬佑介（以上研究員），幸福輝（客員研究員）があたった。

(ウ) 国立国際美術館

主任研究員植松由佳が、文部科学省平成24年度学芸員等在外派遣研修に採択され、「我が国の博物館政策の参考となる海外の実践活動・研究事例について」というテーマで研修を実施した。

(エ) 国立新美術館

「セザンヌーパリとプロヴァンス」展では、記録集「シンポジウム『セザンヌーパリとプロヴァンス』展から見る今日のセザンヌ」を刊行した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

|                  |  |      |            |
|------------------|--|------|------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 工芸館巡回展ギャラリートーク   | 開催日  | 平成24年8月5日  |
| 場所               | 益子陶芸美術館展示室   | 聴講者数 | 56人        |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)  |      |            |
| 内容               | 工芸館巡回展に伴うギャラリートーク。当館所蔵作品の中から選び抜いて構成した「茶事にまつわる『うつわ』」展について、企画意図や出品作品を紹介した。                       |      |            |
| セミナー・シンポジウム名     | 所蔵作品展「寿ぎ」のうつわ 講演会  | 開催日  | 平成25年1月12日 |
| 場所               | 東京国立近代美術館講堂  | 聴講者数 | 約150人      |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 講演者：室瀬和美(漆芸家)，横溝廣子(東京藝術大学准教授)，北村仁美(東京国立近代美術館工芸課主任研究員)  |      |            |
| 内容               | 「所蔵作品展『寿ぎ』のうつわ」の関連イベントとして開催した講演会。特に、明治時代から様々に議論されてきた、漆芸技法「末金鏤」を中心に、時代ごとの理解の変遷と表現との結び付きをテーマとした。 |      |            |

(フィルムセンター)

|                  |  |      |            |
|------------------|--|------|------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 「日本の映画ポスター芸術」監督映画上映記念 和田誠氏によるアフタートーク   | 開催日  | 平成24年12月8日 |
| 場所               | 京都国立近代美術館講堂                            | 聴講者数 | 100人       |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 和田誠(イラストレーター・映画監督)，岡田秀則(フィルムセンター主任研究員) |      |            |
| 内容               | 和田氏の監督作品と手がけた映画ポスターについてのトーク。           |      |            |

イ 国立西洋美術館

|                  |   |      |             |
|------------------|---|------|-------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 平成24年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」ギャラリートーク  | 開催日  | 平成24年10月5日  |
| 場所               | 井原市立田中美術館   | 聴講者数 | 40人         |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 村上博哉(国立西洋美術館学芸課長)   |      |             |
| 内容               | 国立美術館巡回展の岡山展に伴うギャラリートーク。所蔵作品により19世紀から20世紀中葉にかけてのヨーロッパ近代美術の流れを紹介した「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展について、企画意図や出品作品を紹介した。 |      |             |
| セミナー・シンポジウム名     | 平成24年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」講演会   | 開催日  | 平成24年11月10日 |
| 場所               | 井原市立田中美術館   | 聴講者数 | 47人         |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 陳岡めぐみ(国立西洋美術館学芸課主任研究員)  |      |             |
| 内容               | 国立美術館巡回展の岡山展に伴う講演会。所蔵作品により19世紀から20世紀中葉にかけてのヨーロッパ近代美術の流れを紹介した「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨ                                     |      |             |

|                  |   |      |                   |
|------------------|---|------|-------------------|
|                  | 「ヨーロッパの近代美術」展について、企画意図や出品作品を紹介した。   |      |                   |
| セミナー・シンポジウム名     | 平成 24 年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」ギャラリートーク  | 開催日  | 平成 24 年 12 月 22 日 |
| 場所               | 島根県立石見美術館   | 聴講者数 | 30 人              |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 新藤淳 (国立西洋美術館学芸課研究員)   |      |                   |
| 内容               | 国立美術館巡回展の島根展に伴うギャラリートーク。所蔵作品により 19 世紀から 20 世紀中葉にかけてのヨーロッパ近代美術の流れを紹介した「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展について、企画意図や出品作品を紹介した。 |      |                   |
| セミナー・シンポジウム名     | 平成 24 年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」講演会   | 開催日  | 平成 25 年 1 月 13 日  |
| 場所               | 島根県立石見美術館   | 聴講者数 | 56 人              |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 村上博哉 (国立西洋美術館学芸課長)  |      |                   |
| 内容               | 国立美術館巡回展の島根展に伴う講演会。松方コレクションを中心とした近代美術コレクションの形成の歴史や、「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展の企画意図及び出品作品を紹介した。                      |      |                   |

## (2) 国内外の美術館等との連携

### ① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

#### ア 東京国立近代美術館

##### (本館・工芸館)

|                  |   |      |                   |
|------------------|---|------|-------------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 東京国立近代美術館 60 周年記念シンポジウム 近代美術館の誕生—前史から未来へ  | 開催日  | 平成 24 年 12 月 1 日  |
| 場所               | 東京国立近代美術館講堂   | 聴講者数 | 117 人             |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 木下直之 (東京大学教授), 五十殿利治 (筑波大学教授), 高橋裕次 (東京国立博物館学芸企画部博物館情報課長), 水沢勉 (神奈川県立近代美術館長), 島田紀夫 (ブリヂストン美術館長), 松本透 (東京国立近代美術館副館長), 蔵屋美香 (東京国立近代美術館美術課長) |      |                   |
| セミナー・シンポジウム名     | 戦後日本美術の新たな語り口を探る—ニューヨークと東京、二つの近代美術館の展覧会を通して見えてくるもの  | 開催日  | 平成 24 年 12 月 23 日 |
| 場所               | 東京国立近代美術館講堂   | 聴講者数 | 145 人             |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | ドリユン・チョン (ニューヨーク近代美術館アソシエイト・キュレーター), ガブリエル・リッター (ダラス美術館アシスタント・キュレーター), 林道郎 (上智大学国際教養学部教授), 前山裕司 (埼玉県立近代美術館首席学芸主幹), 鈴木勝雄 (東京国立近代美術館主任研究員)  |      |                   |
| セミナー・シンポジウム名     | オリエンタル・モダニティ：東アジアのデザイン史 1920-1990   | 開催日  | 平成 24 年 7 月 15 日  |
| 場所               | 東京国立近代美術館講堂   | 聴講者数 | 90 人              |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 樋田豊郎 (秋田公立美術短期大学学長), 菊池裕子 (ロンドン芸術大学教授), リン・ウェッシー (ロンドン芸術大学准教授), リー・ユナ (ブライトン大学准教授), 菅靖子 (津田塾大学准教授), 木田拓也 (東京国立近代美術館主任研究員), 井口壽乃 (埼玉大学教授)  |      |                   |

##### (フィルムセンター)

|                  |   |      |                        |
|------------------|---|------|------------------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 世界のアニメーション  | 開催日  | 平成 24 年 4 月 23 日, 24 日 |
| 場所               | 中国電影資料館劇場 (中国・北京)   | 聴講者数 | 150 人                  |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | フィルムセンターから出席した岡島尚志 (フィルムセンター主幹), 棚木章 (フィルムセンター主任研究員), 岡田秀則 (フィルムセンター主任研究員) を含む 11 の国・地域から参加した 26 名の講師・パネリスト |      |                        |

## イ 京都国立近代美術館

|                  |                            |      |                  |
|------------------|----------------------------|------|------------------|
| セミナー・シンポジウム名     | シンポジウム「近代日本画と工芸 1868-1945」 | 開催日  | 平成 25 年 2 月 26 日 |
| 場所               | ローマ日本文化会館                  | 聴講者数 | 約 50 人           |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 尾崎正明(館長), 松原龍一(主任研究員)      |      |                  |

## ウ 国立西洋美術館

|                  |   |      |                  |
|------------------|---|------|------------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 国際シンポジウム「時の作用と美学」   | 開催日  | 平成 24 年 4 月 14 日 |
| 場所               | 国立西洋美術館講堂   | 聴講者数 | 85 人             |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 高階秀爾(大原美術館館長), 小佐野重利(東京大学教授), バルテレミ・ジョベール(パリ第 4 大学教授), ギョーム・ファルー(ルーヴル美術館キュレーター), 三浦篤(東京大学教授), 阿部成樹(中央大学教授), 陳岡めぐみ(国立西洋美術館主任研究員) |      |                  |
| セミナー・シンポジウム名     | 彩色文化遺産の有機物質の分析に関するシンポジウム  | 開催日  | 平成 25 年 1 月 7 日  |
| 場所               | 東京文化財研究所 地下会議室  | 聴講者数 | 70 人             |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 谷口陽子(筑波大学・助教), Joy Mazurek(Getty 保存研究所・Assistant Scientist), 島津美子(東京文化財研究所・特別研究員), 中澤隆(奈良女子大学・教授), 高嶋美穂(国立西洋美術館・研究補佐員)          |      |                  |

## エ 国立国際美術館

|                  |  |      |                       |
|------------------|--|------|-----------------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 歴代館長によるシンポジウム「国立国際美術館のこれまでとこれから」   | 開催日  | 平成 24 年 4 月 28 日      |
| 場所               | 国立国際美術館地下 1 階講堂  | 聴講者数 | 68 人                  |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 司会: 山梨 俊夫(国立国際美術館館長)<br>パネリスト: 木村重信(美術評論家・国立国際美術館元館長), 宮島久雄(高松市美術館館長・国立国際美術館元館長), 建島哲(京都市立芸術大学学長・埼玉県立近代美術館館長・国立国際美術館前館長)   |      |                       |
| セミナー・シンポジウム名     | シンポジウム「写真の誘惑ー視線の行方」  | 開催日  | 平成 24 年 5 月 12 日・13 日 |
| 場所               | 国立国際美術館地下 1 階講堂  | 聴講者数 | 758 人                 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 司会: 植松由佳(国立国際美術館主任研究員), 竹内万里子(国立国際美術館客員研究員)<br>パネリスト: 青山勝(大阪成蹊大学芸術学部准教授), 五十嵐太郎(東北大学教授), 笠原美智子(東京都写真美術館事業企画課長), 加治屋健司(広島市立大学芸術学部准教授), 佐藤守弘(京都精華大学デザイン学部准教授), 島敦彦(国立国際美術館学芸課長), 管啓次郎(比較文学者, 詩人), 鈴木理策(写真家), 鷹野隆大(写真家), 畠山直哉(写真家), ブブ・ド・ラ・マドレーヌ(現代美術作家), 前田恭二(読売新聞文化部記者), 森村泰昌(美術家), ヨコミゾマコト(建築家), 米田知子(写真家) |      |                       |

## オ 国立新美術館

|                  |  |      |                  |
|------------------|--|------|------------------|
| セミナー・シンポジウム名     | 「『セザンヌーパリとプロヴァンス』展から見る今日のセザンヌ」   | 開催日  | 平成 24 年 5 月 26 日 |
| 場所               | 国立新美術館   | 聴講者数 | 188 人            |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 永井隆則(京都工芸繊維大学准教授), 工藤弘二(国立新美術館アソシエイト・フェロー), 三浦篤(東京大学教授), 新畑泰秀(石橋財団ブリヂストン美術館学芸課長) |      |                  |
| セミナー・シンポジウム名     | 「現代ロシアとエルミタージュ美術館」   | 開催日  | 平成 24 年 6 月 3 日  |
| 場所               | 国立新美術館   | 聴講者数 | 166 人            |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 沼野充義(東京大学教授, ロシア・東欧文学者), 鴻野わか菜(千葉大学准教授, ロシア文学者), 青木保(当館館長)                       |      |                  |
| セミナー・シンポジウム名     | 「『具体』再評価の過去と現在」  | 開催日  | 平成 24 年 7 月 14 日 |



|                  |  |      |      |
|------------------|--|------|------|
| 場所               | 国立新美術館   | 聴講者数 | 105人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 河崎晃一(インディペンデント・キュレーター), ミン・ティアンボ(カールトン大学准教授, グッゲンハイム美術館「具体」展共同キュレーター), マテイヤス・フィッサー(ゼロ・ファンデーション設立ディレクター), 萬木康博(美術評論家), 平井章一(当館学芸課主任研究員) |      |      |

## ② 我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

### ア 東京国立近代美術館

本館では, 「Yayoi Kusama」(2012年2月1日 - 5月20日, テートモダン, ロンドン/6月20日 - 9月20日 ホイットニー美術館, ニューヨーク), 「William Klein + Daido Moriyama: New York + Tokyo + Film + Photo」(2012年10月10日 - 2013年1月13日, テートモダン, ロンドン), 「Drawing Surrealism, 1915-1945」(2012年10月21日 - 2013年1月6日, ロサンゼルス・カウンティ美術館/2013年1月25日 - 5月12日, モルガン図書館・美術館, ニューヨーク), 以上の海外展について, 日本人作家の作品を貸与し, その開催に協力した。

また, 広くアジアの近代美術を収集・展示する計画のシンガポール新美術館(2015年開館予定)と, 日本近代美術作品の展示について, そのコンセプト, 貸与の実現等に向け, 協議を行った。

さらに, 「国吉康男展」開催準備のため, (公財)直島福武美術館財団, Smithsonian American Art Museum の作品調査に協力した。

工芸館では, 文化庁, イタリア・フィレンツェ国立美術監督局とともに主催したピッティ宮殿「白の間」における「日本のわざと美—近現代工芸の精華—」展開催にあたり, 同宮殿内の銀器博物館等と連携・協力を行った。

フィルムセンターでは, チネテカ・デル・コムネ・ディ・ボローニャ(FIAF加盟機関)との共催による第26回チネマ・リトロバート映画祭・特集企画「日本が声を上げる! 陽が昇る地から来た最初のトーキー映画」において, レコードトーキーや活弁トーキーなどのユニークなサウンド形式を持つ作品を含む13本の映画フィルム(うち1本は, 外国映画に日本語による活弁を付したフィルム)を, すべて英語字幕付きで上映し, 映画の音に挑んだ日本の映画監督や技術者による多彩な試みについて, 映画祭に参加した世界各国の研究者やアーティストの認識を高めることができた。本番組の一部はその後, ニューヨーク近代美術館(FIAF加盟機関)からの貸与申請を受け, 同館が主催する第10回国際映画保存映画祭にて上映が行われた。

また, 平成23年度, 共催によりアメリカ及びフランスの3会場で実施した「『日活百年』海外巡回上映会」について, 平成24年度はオーストラリア国立映画音響アーカイブ(FIAF加盟機関)をはじめとして8カ国, 10会場に対し, 計38本の映画フィルムを貸与することにより, 上映会への協力を行った。

### イ 京都国立近代美術館

当館と国際交流基金との共催で, ローマ国立近代美術館において「近代日本画と工芸の流れ 1868-1945」展を開催し(2013年2月26日から5月5日まで), 当館の尾崎正明館長及び松原龍一主任研究員が, 企画及び作品選定を担当した。これは当館をはじめ国内の美術館ほかが所蔵する我が国の日本画・工芸作品計170点によって構成されたものであり, 我が国の近代美術作品を海外で紹介する貴重な機会となった。また, 開会初日には, 上記の国際シンポジウムも開催した(パネラーは日本から3名, イタリアから2名)。

#### ウ 国立国際美術館

平成 25 年度開催予定の「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」の準備のため、ニューヨーク近代美術館で開催した企画展「TOKYO 1955-1970－A NEW AVANT」の調査を行い、成果を共有し連携協力した。

### ③ その他海外の美術館との連携・協力

国立美術館本部では、ASEMUS（Asia-Europe Museum Network）に加盟するとともに、韓国国立中央博物館（ソウル）で開催された ASEMUS 執行委員会及び総会に青柳理事長代理として山梨国際美術館長が出席した。また、シルパカラ・アカデミー（バングラデシュ）で開催された第 6 回アジア美術館長会議（AAMDF）に小松理事、松本東近美副館長及び建畠埼玉県立近代美術館長が出席した。

京都国立近代美術館では、日豪美術館学芸員交流に基づきオーストラリア国立美術館主任学芸員を招へいし、京都、大阪、神戸及び東京の美術館及び博物館を訪問し、美術関係者と交流した。また、我が国の古美術から近現代にいたる美術作品について理解を深めてもらうとともに、オーストラリア美術との交流を図った。

### (3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

#### ア 東京国立近代美術館

(本館)

平福百穂《丹鶴青瀾》の大規模修復するに当たり、東京藝術大学、横浜美術館、練馬区立美術館の専門家と意見交換を行った。また、鬚光《馬》について、東京文化財研究所の協力のもと、赤外線による撮影・調査を行った。

(フィルムセンター)

福岡市総合図書館（FIAF 加盟機関）、神戸映画資料館、映画保存協会、記録映画保存センター、日本動画協会、映画製作各社、現像所等より、映画フィルムに関する新たな所在情報を得た。

また、中国電影資料館、ミュンヘン映画博物館、チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ボローニャ（以上 FIAF 加盟機関）、京都府京都文化博物館、日本動画協会、記録映画保存センター、大手映画製作会社、現像所、映画フィルム製造会社、映画関連機器メーカー等との間で、映画フィルムの保存・復元に関する調査や情報交換を行った。

さらに、釜山シネマフォーラム、「映画の復元と保存に関するワークショップ」、記録映画アーカイブ・プロジェクト、明治学院大学、企業史料協議会等が主催するシンポジウムやワークショップに参加することで、参加者との情報交換に努めた。

#### イ 京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催で、同館等が収蔵する日本のポスター作品によって構成した展覧会「日本の映画ポスター芸術」を開催するとともに、展示に際してポスター等の保存・修復についても情報交換を行った。

#### ウ 国立西洋美術館

平成 24 年度はゲッティ保存研究所研究員の Joy Mazurek 氏との共同で動物性タンパク質の分析に関するワークショップ及びシンポジウムを実施し、膠や卵テンペラ技法の分析技

術の向上に努めると同時に、その重要性を内外にアピールした。なお、上記のシンポジウムは筑波大学西アジア文明研究センターとの共催で実施した。

#### エ 国立国際美術館

欧米では「time-based media」とされる映像、インスタレーションやパフォーマンスなどの新しい表現様式による作品を美術館の収蔵作品としていかに受入れ、それを管理、保存、修復するかをテーマに調査研究を進めているが、当該分野では先進国である英国のテート・モダンやV&A, LUX, ブリティッシュ・カウンシルなどの機関と情報交換を行った。

### (4) 所蔵作品の貸与等

#### ① 作品の貸与

| 館名             | 貸出件数 | 貸出点数  | 特別観覧件数 | 特別観覧点数 |
|----------------|------|-------|--------|--------|
| 東京国立近代美術館(本館)  | 65   | 237   | 208    | 565    |
| 東京国立近代美術館(工芸館) | 23   | 233   | 36     | 81     |
| 京都国立近代美術館      | 54   | 351   | 83     | 189    |
| 国立西洋美術館        | 15   | 53    | 66     | 208    |
| 国立国際美術館        | 23   | 431   | 25     | 39     |
| 計              | 180  | 1,305 | 418    | 1,082  |

東京国立近代美術館本館では、特に震災復興支援として、「二年後。自然と芸術、そしてレクイエム」展（茨城県近代美術館，平成25年2月5日-3月20日）に横山大観《生々流転》（重要文化財）を特別貸与した。また、「東山魁夷展」（宮城県美術館，平成24年7月20日-9月9日，北海道立美術館，平成24年9月22日-11月11日）には、「出品協力」名義とし、代表作18点を貸与した。また、「Yayoi Kusama」（2012年2月1日-5月20日，テートモダン，ロンドン／6月20日-9月20日 ホイットニー美術館，ニューヨーク），「William Klein + Daido Moriyama: New York + Tokyo + Film + Photo」（2012年10月10日-2013年1月13日，テートモダン，ロンドン），「Drawing Surrealism, 1915-1945」（2012年10月21日-2013年1月6日，ロサンゼルス・カウンティ美術館／2013年1月25日-5月12日，モルガン図書館・美術館，ニューヨーク），以上の海外展について、日本人作家の作品を貸与し、その開催に協力した。

工芸館では、文化庁が主催した徳島県立博物館「日本のわざと美展」をはじめ、愛知県陶磁資料館，石川県立美術館，うらわ美術館，大分県立芸術会館及び千葉県立美術館等への工芸作品，三菱一号館美術館ほかの巡回展「KATAGAMI Style」及び山口県立萩美術館・浦上記念館ほか巡回の「アール・デコ」展等に主要なデザイン作品を貸与した。海外では、文化庁が主催し当館も共催したフィレンツェ展「日本のわざと美—近現代工芸の精華—」では出品の多数を当館が貸与出品し、また、国際交流基金，京都国立近代美術館等が主催したローマ国立近代美術館「近代日本画と工芸の流れ 1868～1945」にも貸与した。

京都国立近代美術館では、イタリアのローマ国立近代美術館で、当館ほかが主催して開催した「近代日本画と工芸の流れ 1968-1945」展に、所蔵作品日本画13点及び工芸21点を出品した。

国立西洋美術館では、平成23年度と比較し2件・21点増加した。バイエラー美術館（スイス）の「ドガの後期作品」展，グラン・パレ（フランス）及びマプフレ財団（スペイン）の「ボヘミアン」展，トリード美術館（アメリカ）及びロイヤル・アカデミー（イギリス）

の「マネの肖像画」展，愛知県美術館及び宇都宮美術館の「マックス・エルンスト フィギュア×スケープ」展などに貸与を行った。

国立国際美術館では，「TOKYO 1955-1970—A NEW AVANT」展（ニューヨーク近代美術館（アメリカ）），「Re: Quest—1970年代以降の日本現代美術」展（主催：国際交流基金，ソウル大学美術館）などからの貸与依頼に対し，積極的に貸し出しを行った。

## ② 映画フィルム等の貸与

| 種別     | 貸出  |     | 特別映写観覧 |     | 複製利用 |     |
|--------|-----|-----|--------|-----|------|-----|
|        | 件数  | 本数  | 件数     | 本数  | 件数   | 本数  |
| 映画フィルム | 100 | 272 | 83     | 288 | 37   | 426 |

| 種別     | 貸出 |    | 特別観覧 |     |
|--------|----|----|------|-----|
|        | 件数 | 点数 | 件数   | 点数  |
| 映画関連資料 | 4  | 39 | 20   | 943 |

映画フィルムの貸与については，海外と国内への貸与，あるいは共同主催事業における提供と通常の貸与とに分けられる。海外への貸与のうち，共同主催事業では，チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ボローニャ（FIAF加盟機関）との共催による第26回チネマ・リトロバート映画祭・特集企画「日本が声を上げる！ 陽が昇る地から来た最初のトーキー映画」において，日本における最初期のトーキー映画13本の映画フィルムを提供した。平成23年度，3会場で共催した「『日活百年』海外巡回上映会」について，平成24年度はオーストラリア国立映画音響アーカイブ（FIAF加盟機関）をはじめとして8カ国10会場で開催された上映会に対し，計38本の映画フィルムを貸与した。日本の初期アニメーション映画については，FIAF北京会議を主催した中国電影資料館（FIAF加盟機関）をはじめとして3カ国5会場で開催された上映会に対し，計26本の映画フィルムを貸与した。イギリス・エジンバラ国際映画祭をスタートに，シネマテーク・フランセーズ（FIAF加盟機関）等フランス2会場を巡回した相米慎二監督回顧展には，計14本の映画フィルムを貸与した。また，平成24年度はエストニア，クロアチア，ベルギーなど，これまで貸与実績の少なかった国々に映画フィルムの貸与を行い，世界における日本映画のより広範な普及に寄与することができた。

国内への貸与のうち，共同主催事業では，平成23年度に引き続き京都国立近代美術館との間で開催した「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@home」において，『雪崩』（1937年）等日本映画15本と『朝から夜中まで』（1921年）等外国映画5本を，国立国際美術館との間で開催した「第5回中之島映像劇場」においては，『地下鉄の出来るまで』（1938年）等日本映画6本を提供し，関西における所蔵フィルムの上映拠点として，さらに堅固な地盤を築くことができた。また，平成23年度に引き続きコミュニティシネマセンターとの間で開催した「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」巡回上映事業では，福岡市総合図書館（FIAF加盟機関）及び神戸アートビレッジセンターに，同監督による日本劇映画4本を提供した。通常の貸与では，国立民族学博物館が主催する上映会に対しインド映画4本，ポーランド広報文化センターが主催するポーランド映画祭に対しポーランド映画3本，NPO法人那須フィルムコミッションが主催する那須ショートフィルムフェスティバルに対しフランス映画6本を貸与するなど，新規の貸与先への協力が特筆される。また，例年に引き続き，福岡市総合図書館（FIAF加盟機関），映画保存協会，映画美学校，コミュニティシネマ大阪，山口市文化振興財団等が主催する上映会や，京都映画祭，カナザワ映画祭等

の映画祭、並びに神保町シアター、新文芸坐、ラピュタ阿佐ヶ谷等の名画座における特集上映に対しては、番組において欠くことのできない作品について、所蔵プリントの貸与を行った。

特別映写観覧については、大学等教育研究機関、映画関連団体、映画及びテレビ番組製作会社、映画・映像に係る非営利法人等における調査、研究、研修等に、所蔵プリントの試写を通して寄与した。

複製利用については、著作権者による運用、美術館等の収集作品や展示作品の充実、映像作品や番組における資料としての映像提供等に寄与したが、とりわけ平成24年度は、松本俊夫監督より平成23年度受贈した原版フィルム25本、テレビ朝日映像より1980年に受贈した『東映ニュース』の原版フィルム300本、東京藝術大学より戦前の東京を記録した文化・記録映画16本等、大量の複製利用申請を受けたことが特筆される。

映画関連資料の貸与としては、4つの公立文化機関に貸出しを行った。とりわけ鎌倉市川喜多映画記念館に、女優高峰秀子の出演作ポスター32点を提供したことが特筆される。また、出版社、大学等教育研究機関、新聞社、映画配給会社等における事業や研究のため、所蔵資料の特別観覧（画像使用及び撮影等）を行った。

## (5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

### ① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

7年目となる平成24年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、より多くの方々と研修成果を共有するため、従来冊子として発行してきた研修記録を、ウェブサイトで公開した。

また、本研修において平成24年度「教員免許状更新講習」を実施した。

- ・参加人数：100名（小中学校教諭61名、指導主事8名、学芸員31名）
- ・会 期：平成24年7月30日、31日（2日間）
- ・会 場：国立西洋美術館（7月30日）、東京国立近代美術館（7月31日）
- ・教員免許状更新講習：受講者13名（全員に履修証明書を授与）

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、東京都図画工作研究会、東京都現代美術館との共催で教員研修を実施した。

- ・平成24年6月29日 鑑賞授業（於：工芸館）
- ・平成24年7月12日 公開授業・研究協議会（於：世田谷区立花見堂小学校）

ここ数年は、学習指導要領及び学校の授業とつながる美術館利用についての試験的な研修を実施しているが、平成24年度は東京国立近代美術館工芸館において、花見堂小学校の児童を対象にタッチ&トークによる鑑賞授業を行い、後日、同小学校で鑑賞とリンクした公開授業と研究協議会を実施した。

京都国立近代美術館では、京都市教育委員会及び図画工作教育研究会と共催で、図画工作科指導講座「京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて」を開催し（平成24年8月3日）、京都市内の小学校教員及び総合支援学校教員70名が参加した。また、「高橋由一」展及び「山口華楊展」の会期中にも、小学生から大人までを対象としたワークショップを計5回開催した。

### ② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

#### ア 国立美術館全体としての取組

鑑賞教材「国立美術館アートカード」を各館から学校へ貸出しを行ったほか、教員の研修などの機会をとらえて積極的に紹介した。

イ 東京国立近代美術館

工芸館では、所蔵作品展「植物図鑑」開催に際してセルフガイドを対象年齢に応じて2種作成した。小学生以下を対象とする「こども工芸館 植物図鑑」では文字の大きさを小学校低学年以下と中学年以上の区分を示唆し、各学年に応じた難度で内容を構成した。中学生以上を対象とする「おとな工芸館 植物図鑑」ではより専門的な素材技法及び歴史的背景について情報提供に努めた。

ウ 国立西洋美術館

ファン・ウィズ・コレクション『彫刻の魅力を探る』に関連して、原型となる塑像からそれを異なる素材（石膏，テラコッタ，ブロンズ，大理石）に置き換えるための材料，その完成像及び制作過程の記録ビデオをセットにした資料教材を制作した。また、「手の痕跡」展会場においてこれらの資料教材の展示・上映を行った。

(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

| 館名        | インターンシップ受入数 | 博物館実習受入数 |
|-----------|-------------|----------|
| 東京国立近代美術館 | 本館          | 6        |
|           | 工芸館         | 4        |
|           | フィルムセンター    | 2        |
| 京都国立近代美術館 | 3           | 13       |
| 国立西洋美術館   | 15          | —        |
| 国立国際美術館   | 6           | —        |
| 国立新美術館    | 8           | —        |
| 計         | 44          | 15       |

(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築

① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

| 館名                  | 共同主催件数 | 共同研究件数 |
|---------------------|--------|--------|
| 東京国立近代美術館(本館・工芸館)   | 0      | 3      |
| 東京国立近代美術館(フィルムセンター) | 7      | 8      |
| 京都国立近代美術館           | 8      | 5      |
| 国立西洋美術館             | 1      | 2      |
| 国立国際美術館             | 2      | 2      |
| 国立新美術館              | 6      | 7      |
| 計                   | 24     | 27     |

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

「フランス・ベーコン展」を開催するに当たり、豊田市美術館と共同研究を行った。

(工芸館)

「越境する日本人—工芸家が夢みたアジア 1910s-1945」では、埼玉大学、津田塾大学及びロンドン芸術大学、「寿ぎの『うつわ』」展では、日本工芸会漆芸部会との共同研究を行い、展覧会を開催した。

(フィルムセンター)

- ・「EU フィルムデーズ 2012」：駐日欧州連合代表部及び EU 加盟国各大使館・文化機関と協議し、近年の EU 加盟各国の映画動向や作品の評価を踏まえながら作品選定を行った。
- ・「ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画」：一般社団法人外国映画輸入配給協会と協議し、上映作品の選定を行った。
- ・「第 34 回 PFF ぴあフィルムフェスティバル」：PFF パートナーズ及び公益財団法人ユニジャパンと協議し、招待作品部門の作品選定を行った。
- ・「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」：京都国立近代美術館と協議しながら作品の選定、提供を行った。
- ・「第 5 回中之島映像劇場」：国立国際美術館と協議しながら作品の選定、提供を行った。
- ・展覧会「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」：一般社団法人外国映画輸入配給協会と共同で開催した。
- ・展覧会「日本の映画ポスター芸術」（会場 京都国立近代美術館）：京都国立近代美術館と共同で開催した。
- ・映画美術資料を調査及び整理するとともに、その画像をデジタル化し、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とする「日本映画美術遺産プロジェクト」を協同組合日本映画・テレビ美術監督協会と共同で進めた。

(イ) 京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンターと共催で「日本の映画ポスター芸術」展を開催（2012年10月31日から12月24日まで）したほか、同館と共催の映画会「MoMAK Films@home」を、5回（計10日）開催した。

(ウ) 国立西洋美術館

「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の400年」については、ベルリン国立美術館及び九州国立博物館と共同研究を行った。「ラファエロ」展についてはフィレンツェ文化財・美術館監督局との共同研究及び共同主催により、展覧会及び講演会を開催した。

(エ) 国立国際美術館

「エル・グレコ展」では、東京都美術館と、「<私>の解体へ：柏原えつとむの場合」では、東京都現代美術館及び千葉市美術館と情報交換を行った。

(オ) 国立新美術館

「セザンヌーパリとプロヴァンス」展では、パリ市立プティ・パレ美術館と共同研究を行った。「大エルミタージュ展 世紀の顔・西欧絵画の400年」展では、エルミタージュ美術館、京都市美術館及び名古屋市美術館と、「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」展では、高知県美術館及び京都市美術館と、それぞれ共同研究及び共同主催を行った。「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」展では、ロサンゼルス・カウンティ美術館と共同研究及び共同主催を行った。

② キュレーター研修

| 館名                | 受入人数 |
|-------------------|------|
| 東京国立近代美術館(本館・工芸館) | 2    |
| 京都国立近代美術館         | 1    |

|         |   |
|---------|---|
| 国立西洋美術館 | 1 |
| 国立国際美術館 | 0 |
| 国立新美術館  | 1 |
| 計       | 5 |

## (8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

### ① 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動

フィルムセンター主幹が、FIAF 運営委員 (副会長) として、2 度の運営委員会 (北京とブリュッセルで開催) に出席した。平成 24 年 4 月 23 日から 28 日まで中国電影資料館 (北京) で開催された第 68 回 FIAF 会議では、そのシンポジウム「世界のアニメーション」において、フィルムセンター主幹が基調講演、フィルムセンター主任研究員 2 名がそれぞれ個別のプレゼンテーションを行った。

### ② 日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。当館としては平成 24 年度も当館公開データベースへの接続に関する協力を行っている。平成 24 年度は 3,073 件が登録され、平成 25 年 3 月末時点で登録されている件数は 45,407 件となった。これにより旧作の遡及登録はほぼ終了した。

### ③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充

NFCD (フィルムセンターデータベース) においては、所蔵フィルムを平成 24 年度中に 1,770 件を登録し 67,287 件となった。そのうち公開データベース「所蔵映画フィルム検索システム」については、日本劇映画のレコード 88 件を新たに公開し、公開件数は 6,116 件となった。

### ④ 映画関係団体等との連携

- 国内団体との連携は、デジタル復元事業を通じて、復元フィルムの元素材を所有する映像文化製作者連盟への協力、共催上映事業を通じて、コミュニティシネマセンターへの協力を行った。映画フィルムの貸与を通じては、福岡市総合図書館 (FIAF 加盟機関)、広島市未来都市創造財団、山口市文化振興財団、川崎市文化振興財団、能美市立博物館、映画美学校、映像産業振興機構、映画保存協会、田中絹代メモリアル協会等への協力を行った。特別映写観覧を通じては、日本映画撮影監督協会、早稲田大学演劇博物館、京都大学、東京藝術大学、筑波大学、新潟大学、早稲田大学、明治学院大学、桜美林大学、成城大学、専修大学、日本映画映像文化振興センター等への協力を行った。また、複製利用を通じて、神奈川県立美術館、久万美術館、坂の上の雲ミュージアム、山梨県立博物館等への協力を行った。
- 海外団体との連携は、チネテカ・デル・コムーネ・ディ・ボローニャ (FIAF 加盟機関) との共催事業において、番組編成、カタログへの執筆、プリント提供、フィルムセンター研究員による実施会場での解説等を通じて、協力を行った。映画フィルムの貸与を通じては、中国電影資料館、韓国映像資料院、オーストラリア国立映画音響アーカイブ、英国映画協会、シネマテーク・ド・グルノーブル (フランス)、パシフィック・フィルム・アーカイブ (アメリカ)、ノルウェー映画協会、シネマテーク・ケベコワーズ (カナダ)、ニューヨーク近代美術館、エストニア・フィルム・アーカイブ、シネテカ・ナショナル (メキシコ)、シネマテーク・フランセーズ、ガリシア映像芸術センター (スペイン)、ベル



ギー王立シネマテーク（以上 FIAF 加盟機関），エジンバラ国際映画祭（イギリス），サンパウロ国際映画祭（ブラジル），ナント三大陸映画祭（フランス），フィルム・ミュージーションズ（クロアチア），バード大学（アメリカ）等への協力を行った。また，特別映写観覧を通じてイェール大学，テンプル大学（以上アメリカ）等，複製利用を通じて，ミュンヘン映画博物館（FIAF 加盟機関），上海音像資料館（中国），ジョルジュ・ポンビドゥ芸術文化センター・メス（フランス），ニューミュージアム（アメリカ）等への協力を行った。

- ・マックス・ランデー国際シンポジウム（スイス），釜山シネマフォーラム，高麗大学韓国史センター（以上韓国），「映画の復元と保存に関するワークショップ」，明治学院大学，東西研，カナザワ映画祭，横浜キネマ倶楽部等が主催するシンポジウム，講演会等にフィルムセンター研究員が参加し，研究成果の発表やディスカッションを通じて協力した。
- ・一般社団法人外国映画輸入配給協会と共同で上映会「ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画」及び展覧会「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」を開催した。
- ・日本映画・テレビ美術監督協会と連携して「日本映画美術遺産プロジェクト」を行い，映画美術資料のデジタル化と保存を進めた。

#### ⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

独立の可能性を探る内部打合せを，平成 24 年 4 月 12 日，13 日，22 日，26 日及び 5 月 8 日に実施した。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務の効率化のための取り組み

#### (1) 各美術館の共通的な事務の一元化

引き続き、理事長の指示による事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行するとともに、各館で行っていた出版物のうち年報について法人本部において一元的に実施した。また、法人内で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システム、特にテレビ会議システムについては、定期的な会議等に積極的に活用している。

#### (2) 使用資源の削減

##### ① 省エネルギー（5年計画中に5%の削減）

##### ●使用量，使用料金の削減割合（対前年度比）

| 館名                     | 使用量    |        |        | 使用料金   |        |        |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                        | 電気     | ガス     | 合計     | 電気     | ガス     | 合計     |
| 東京国立近代美術館本館            | 93.9%  | 88.2%  | 91.6%  | 114.3% | 96.4%  | 107.3% |
| 東京国立近代美術館工芸館           | 96.4%  | —      | 96.4%  | 131.0% | —      | 131.0% |
| 東京国立近代美術館フィルムセンター      | 89.6%  | —      | 89.6%  | 127.4% | —      | 127.4% |
| 東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館 | 90.7%  | —      | 90.7%  | 97.5%  | —      | 97.5%  |
| 京都国立近代美術館              | 104.4% | 40.6%  | 81.5%  | 110.6% | 53.2%  | 93.3%  |
| 国立西洋美術館                | 100.1% | 98.8%  | 99.6%  | 113.6% | 109.5% | 112.0% |
| 国立国際美術館                | 108.3% | —      | 108.3% | 106.4% | —      | 106.4% |
| 国立新美術館                 | 108.6% | 105.4% | 107.6% | 114.2% | 113.6% | 114.0% |
| 計                      | 102.6% | 97.6%  | 101.2% | 112.4% | 107.3% | 110.9% |

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は、電気は一般電気事業者からの昼間買電を9.97GJ/千kWh、夜間買電を9.28GJ/千kWh、特定規模電気事業者からの買電を9.76GJ/千kWh、都市ガスを45GJ/千kWhに換算し得た熱量に0.0258kl/GJを乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値(原単位)を基礎とする(エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく)。

##### ●特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季28℃，冬季19℃），夏季における服装の軽装化，不使用設備機器類のこまめな停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者の元で、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS (Building and Energy Management System) により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取り組みを行っている。

更に、平成 23 年度に引き続いて「今夏の電力需要対策について (24 文科施第 117 号)」及び「今冬の電力需給対策について (24 文科施第 355 号)」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏期 28℃，冬期 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏期は直射日光を遮光，冬期は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬期のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏期休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏期休暇の完全取得，夏期における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手

・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

京都国立近代美術館は、平成 23 年度末に空調機をガスを用いるものから電気を用いるものに更新したため、平成 24 年度における電気使用量及び使用料金が増加し、ガス使用量及び使用料金が減少している。

国立西洋美術館の電気使用量の増加は、夏季に開催した「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年」の入館者数が目標入館者数 296,000 人に対し 399,312 人であったため、平成 23 年度以上に空調を稼働させたためである。

国立国際美術館の電気使用量の増加は、特殊な素材を用いた展覧会の開催に当たり、会期中全館で空調を 24 時間稼働させたためである。

国立新美術館の電気及びガスの使用量の増加は、企画展の延べ開催日数が、平成 23 年度の 350 日に対し平成 24 年度は 436 日と増加したためである。

なお、法人全体ではエネルギー使用量は 1.2%増加し、使用料金は供給各社の値上げの影響により 10.9%の増加となっている。

## ② 廃棄物減量化

### ● 排出量，廃棄料金の削減割合（対前年度比）

| 館名                | 排出量    |        |        | 廃棄料金   |        |
|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                   | 一般廃棄物  | 産業廃棄物  | 合計     | 一般廃棄物  | 産業廃棄物  |
| 東京国立近代美術館本館       | 101.3% | 100.3% | 100.9% | 101.3% | 100.3% |
| 東京国立近代美術館工芸館      | 80.2%  | 78.4%  | 79.9%  | 80.2%  | 78.4%  |
| 東京国立近代美術館フィルムセンター | 91.0%  | 127.9% | 109.5% | 58.0%  | 447.8% |
| 京都国立近代美術館         | 103.4% | 110.3% | 106.5% | —      | 23.8%  |
| 国立西洋美術館           | 94.8%  | 92.0%  | 93.7%  | 82.5%  | 85.9%  |
| 国立国際美術館           | 80.7%  | 172.6% | 111.9% | 86.8%  | 100.5% |
| 国立新美術館            | 97.5%  | 105.3% | 99.2%  | 110.1% | 176.2% |
| 計                 | 95.0%  | 104.6% | 98.8%  | 98.2%  | 128.5% |

※京都国立近代美術館は、一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しているため、廃棄料金が算出できない。

※東京国立近代美術館フィルムセンターには、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館を含む。

### ● 特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては、開館日数や来館者数の増減による影響など、業務の性質上、廃棄物の計画的な削減が難しいものの、引き続き、事務・研究部門における電子メール、グループウェアの活用による通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化、両面印刷の促進等による用紙の節減に努めるとともに、古紙の分別回収による再資源化を進めることにより、廃棄物の削減を図った。

廃棄物の排出量及び廃棄料金の増加は、来館者数の増加及び展覧会に使用した部材の廃棄に伴う増加といった一時的な要因によるものが主である。

東京国立近代美術館本館の一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量の増加は、開館 60 周年記念事業として開催した「BEER MOMAT」における飲食提供に伴う廃棄物、「14 の夕べ」の廃材及び「夏の家」搬入用資材の廃棄が生じたためである。

東京国立近代美術館フィルムセンターの産業廃棄物の排出量の増加は、保管していた蛍光管を廃棄したためであり、産業廃棄物の廃棄料金の増加は、民間競争入札により、会場管理、清掃及び廃棄物処理等を管理運営業務として包括的に契約したところ、契約総額では予定価格を下回っていたが、廃棄物の廃棄に係る単価が増加したためである。

京都国立近代美術館の一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量の増加は、平成24年度に館内改修工事を行ったことに伴うものである。また、産業廃棄物の廃棄料金の減少は、廃棄に係る単価が廃棄物の容量に応じて決定されること、平成23年度は展示台等の大型の廃棄物があったことに対し、平成24年度は大型の廃棄物がなかったためである。

国立国際美術館の産業廃棄物の排出量の増加は、保管していた台座を廃棄したため及び特殊な素材を用いた展覧会の開催に当たり、撤去時に一般廃棄物と産業廃棄物の分別が困難なこと、産業廃棄物と一般廃棄物との混合廃棄物として廃棄したためである。産業廃棄物の排出量に比し廃棄料金が安価となっているのは、混合廃棄物の一般廃棄物割合が大きかったためである。

国立新美術館の産業廃棄物の排出量の増加は、展示室の管球交換を実施したためである。また、一般廃棄物の排出量が減少し廃棄料金が増加したことは、単価の安い古紙等の排出量が減少し、単価の高い紙類や食品廃棄物等が増加したためであり、産業廃棄物の廃棄料金の増加は、単価の高い蛍光管の排出量が増加したためである。

### ③ リサイクルの推進

平成23年度に引き続き、古紙含有率100%のコピー用紙の利用、廃棄物の分別、OA機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行い、リサイクルの推進に努めた。

## (3) 美術館施設の利用推進

### 外部への施設の貸出

| 各館の貸出施設名          | 貸出日数<br>(平成24年度) | 貸出日数<br>(平成23年度) |
|-------------------|------------------|------------------|
| 東京国立近代美術館本館（講堂）   | 19日              | 25日              |
| 東近美フィルムセンター（小ホール） | 4日               | 6日               |
| 東近美フィルムセンター（会議室）  | 3日               | 7日               |
| 京都国立近代美術館（講堂）     | 6日               | 5日               |
| 京都国立近代美術館（会議室）    | 9日               | 9日               |
| 国立西洋美術館（講堂）       | 15日              | 14日              |
| 国立西洋美術館（会議室）      | 10日              | 11日              |
| 国立国際美術館（講堂）       | 16日              | 15日              |
| 国立国際美術館（会議室）      | 61日              | 62日              |
| 国立新美術館（講堂）        | 80日              | 68日              |
| 国立新美術館（研修室A）      | 93日              | 92日              |
| 国立新美術館（研修室B）      | 63日              | 67日              |
| 国立新美術館（研修室C）      | 29日              | 43日              |
| 計                 | 408日             | 424日             |

## ●特記事項

当該施設については、展覧会事業にあわせた講演会やシンポジウム等に使用するものであるが、事業に差し支えない範囲で、外部への貸出を行った。

### (4) 民間委託の推進

#### ① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務, (イ) 設備管理業務, (ウ) 清掃業務, (エ) 保安警備業務, (オ) 機械警備業務, (カ) 収入金等集配業務, (キ) レストラン運営業務, (ク) アートライブラリ運営業務, (ケ) ミュージアムショップ運営業務, (コ) 美術情報システム等運営支援業務, (サ) ホームページサーバ運用管理業務, (シ) 電話交換業務, (ス) 展覧会アンケート実施業務, (セ) 省エネルギー対策支援業務, (ソ) 展覧会情報収集業務

民間競争入札による東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運営業務(展示事業の企画等を除く。以下同じ。)並びに東京国立近代美術館フィルムセンターの管理運営業務の実施は、契約事務の軽減、統括管理業務の導入による事務と委託業務の効率化、民間事業者の相互連携の推進による適確な業務の実施とともに、それぞれの業務の専門知識をもとにした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

この結果を踏まえ、東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運営業務(展示事業の企画等を除く。以下同じ。)並びに東京国立近代美術館フィルムセンターの管理運営業務については、引き続き、「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り実施した。

また、国立新美術館の管理運営業務については、平成25年度以降の契約について、新たに民間競争入札を実施した。

#### ② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 情報案内業務, (イ) 広報物等発送業務, (ウ) 交通広告等掲載, (エ) ホームページ改訂・更新業務, (オ) インターネット検索サイト, (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務, (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務

### (5) 競争入札の推進

#### 一般競争入札の実績

ア 契約件数及び契約金額(少額随契を除く) 198件, 11,483,507,821円

イ 契約種別毎の年間契約数

① 競争性のある契約 100件(50.5%), 3,153,694,147円(27.5%)

#### 【内訳】

- ・一般競争入札 79件, 2,471,218,152円
- ・企画競争, 公募 14件, 287,791,208円
- ・不落随契 7件, 394,684,787円

② 競争性のない随意契約 98件(49.5%) , 8,329,813,674円(72.5%)

【内訳】

- ・同一所管公益法人等 3件, 5,590,614,497円
- ・同一所管公益法人等以外の法人等 95件, 2,739,199,177円  
(うち美術作品の購入に関する随意契約 58件, 2,417,838,470円)

ウ 公益調達の適正化(財計第2017号)等に即した実施状況  
別紙1を参照

●特記事項

平成24年度において、競争性のない随意契約の占める割合は、件数では全体の49.5%、金額では全体の72.5%となっている。このうち、同一所管公益法人等の契約(3件, 5,590,614,497円)は、国立新美術館の土地購入及び土地借料である。また、同一所管公益法人等以外の法人等の契約(95件, 2,739,199,177円)の中には、国立美術館特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約(58件, 2,417,838,470円)が含まれている。これらの特殊な事由を除く比率で比較すると、競争性のない随意契約の割合は件数で全体の27.0%、金額は全体の9.2%となる。

少額随契又は真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札や公募、企画競争等の実施により競争性の確保に努めている。

2 事業評価及び職員の研修等

① 外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回(平成24年7月3日及び平成25年3月5日)開催し、平成23年度事業実績並びに、平成24年度事業の実施状況及び25年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回(平成24年4月17日、5月23日及び6月5日)開催し、平成23年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会(美術・工芸部会)を2回(平成24年6月29日及び平成25年2月15日)、評議員会(映画部会)を2回(平成24年6月27日及び平成25年3月1日)開催し、平成23年度事業実績、平成24年度事業の実施状況及び平成25年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回(平成24年7月19日)開催し、平成23年度事業実績、平成24年度年度計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

エ 国立西洋美術館

評議員会を1回(平成24年9月10日)開催し、平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回(平成25年3月15日)開催し、平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を1回（平成24年7月13日）開催し、平成23年度事業報告について説明聴取の上、今後の運営について意見交換を行った。

顧問会を1回（平成24年11月27日）開催し、広い見知から現代の美術及び美術館に関する意見をいただいた。

### 3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、引き続き、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格に書類管理を行った。また、あわせてウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

なお、独立行政法人国立美術館保有個人情報管理規則第50条に基づき、当法人の保有個人情報の管理状況について、平成24年10月25日に監事による監査を実施した。

### 4 人件費の抑制，給与体系の見直し

#### ① 人件費決算

決算額 809,789千円（対平成23年度比較 88.8%）

・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

#### ●特記事項

退職者の後任不補充、特例法に基づく国家公務員の給与見直しに関連して講じた措置等により、前年度と比較して11.2%減少した。

#### ② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成23年度）」平成24年9月7日総務省公表資料を参照。）。

#### ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較> 23年度実績

| 項目         | 国     | 国立美術館 |
|------------|-------|-------|
| 平均年齢       | 42.3歳 | 39.9歳 |
| 学歴（大学卒の割合） | 52.5% | 72.5% |
| 調整手当支給率 ※1 | 44.4% | 100%  |

※1 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較> 23年度年間給与額

| 項目          | 全独立行政法人 | 国立美術館   |
|-------------|---------|---------|
| 給与総額        | 6,926千円 | 5,639千円 |
| 平均年齢        | 43.5歳   | 39.9歳   |
| ラスパイレス指数 ※2 | 105.7   | 91.0    |



※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較> 23年度実績

| 項目         | 国     | 国立美術館 |
|------------|-------|-------|
| 平均年齢       | 44.9歳 | 45.3歳 |
| 学歴（大学卒の割合） | 97.2% | 100%  |
| 調整手当支給率 ※3 | 62.6% | 100%  |

※3 1級地, 2級地及び4級地の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較> 23年度年間給与額

| 項目          | 全独立行政法人 | 国立美術館   |
|-------------|---------|---------|
| 給与総額        | 8,866千円 | 8,156千円 |
| 平均年齢        | 45.9歳   | 45.3歳   |
| ラスパイレス指数 ※4 | 100.2   | 93.9    |

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬 23年度実績

| 項目   | 全独立行政法人  | 国立美術館    |
|------|----------|----------|
| 法人の長 | 17,260千円 | 18,296千円 |
| 理事   | 15,220千円 | 16,526千円 |

③ 平成24年度の役職員の報酬・給与等について

別紙2「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

### Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

#### 1 予算（単位：千円）

| 区 分           | 計画額        | 決算額        | 増△減額    |
|---------------|------------|------------|---------|
| 収入            |            |            |         |
| 運営費交付金（注1）    | 7,783,702  | 7,701,187  | △82,515 |
| 展示事業等収入（注2）   | 1,095,092  | 1,172,042  | 76,950  |
| 寄附金収入         | —          | 16,656     | 16,656  |
| 施設整備費補助金（注3）  | 5,347,281  | 5,317,871  | △29,409 |
| 計             | 14,226,075 | 14,207,757 | △18,317 |
| 支出            |            |            |         |
| 運営事業費         | 8,878,794  | 8,382,204  | 496,589 |
| 管理部門経費        | 1,512,903  | 1,443,368  | 69,534  |
| うち人件費（注4）     | 330,642    | 282,649    | 47,992  |
| うち一般管理費（注5）   | 1,182,261  | 1,160,718  | 21,542  |
| 事業部門経費        | 7,365,891  | 6,938,836  | 427,054 |
| うち人件費（注4）     | 773,457    | 717,507    | 55,949  |
| うち展覧事業費（注6）   | 5,402,905  | 5,006,760  | 396,144 |
| うち調査研究事業費（注5） | 221,880    | 208,782    | 13,097  |
| うち教育普及事業費（注7） | 967,649    | 1,005,786  | △38,137 |
| 施設整備費補助金（注3）  | 5,347,281  | 5,317,871  | 29,409  |
| 計             | 14,226,075 | 13,700,076 | 525,998 |
| 収支差引          | —          | 507,681    | 507,681 |

#### 主な増減理由

（注1）国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律（平成24年法律第2号）に基づく減額による。

（注2）入場料収入等の増加による。

（注3）支出経費の見直しによる。

（注4）（注1）による減額及び人員削減等の効率化による。

（注5）業務運営の効率化による。

（注6）業務運営の効率化及び未達成の運営費交付金の繰越による。

（注7）設備等の修繕及び更新に係る経費の増加による。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

#### ●特記事項

運営費交付金については、国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律（平成24年法律第2号）に基づき、人件費相当82,515千円の減額となった。

一般管理費、展覧事業費、調査研究事業費及び教育普及事業費を合わせた物件費は、美術作品購入費の運営費交付金債務の繰越等により、予算に比べ392,646千円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことから、予算に比べ76,950千円の収入増となった。

施設整備費補助金は、入札等による工事価格の抑制により予算に比べ29,409千円の支出減となった。

寄附金については、19件、16,656千円を獲得した。うち11,487千円を平成24年度の収益とし、残りの5,169千円を平成25年度以降に繰り越して執行する予定である。

## 2 収支計画（単位：千円）

| 区 分                             | 計画額       | 決算額       | 増△減額     |
|---------------------------------|-----------|-----------|----------|
| 費用の部                            |           |           |          |
| 経常費用                            | 5,424,726 | 5,501,092 | 76,366   |
| 管理部門経費                          | 1,470,814 | 1,577,714 | 106,900  |
| うち人件費                    (注1)   | 330,642   | 420,825   | 90,183   |
| うち一般管理費                (注2)     | 1,140,172 | 1,156,888 | 16,716   |
| 事業部門経費                          | 3,791,858 | 3,762,084 | △29,774  |
| うち人件費                    (注3)   | 773,457   | 579,022   | △194,435 |
| うち展示事業費                (注4)     | 1,853,762 | 1,981,342 | 127,580  |
| うち調査研究事業費            (注4)       | 211,859   | 208,479   | △3,380   |
| うち教育普及事業費            (注4)       | 952,779   | 993,240   | 40,461   |
| 減価償却費                           | 162,923   | 161,294   | △1,629   |
| 収益の部                            |           |           |          |
| 経常収益                            | 5,424,726 | 5,509,364 | 84,638   |
| 運営費交付金収益                (注5)    | 4,167,581 | 4,133,941 | △33,640  |
| 展示事業等の収入                (注6)    | 1,095,092 | 1,172,042 | 76,950   |
| 資産見返運営費交付金戻入                    | 146,585   | 144,626   | △1,959   |
| 資産見返寄附金戻入                       | 1,678     | 3,258     | 1,580    |
| 資産見返物品受贈額戻入                     | 13,789    | 12,212    | △1,577   |
| 寄附金収益                           | —         | 29,290    | 29,290   |
| 施設費収益                      (注7) | —         | 13,991    | 13,991   |
| 経常利益                            |           | 8,271     |          |
| 臨時損失                            |           | 227       |          |
| 臨時利益                            |           | 1,454     |          |
| 当期純利益                           |           | 9,498     |          |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩額                 |           | 1,611     |          |
| 当期総利益                           |           | 11,110    |          |

主な増減理由

(注1) 退職手当の支出による。

(注2) 施設整備費補助金による費用への計上が見込より多かったことによる。

(注3) 人員の削減等の効率化及び「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律（平成24年法律第2号）」に準じた抑制による。

(注4) 支出経費の見直しを行ったことによる。

(注5) 運営費交付金による固定資産の取得が見込より多かったため、資産見返運営費交付金又は資本剰余金に計上されたことによる。

(注6) 入場料収入等の増加による。

(注7) 年度計画に基づいた工事の完了による。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

### 3 資金計画（単位：千円）

| 区分               | 計画額        | 決算額        | 増△減額     |
|------------------|------------|------------|----------|
| 資金支出             | 14,226,075 | 14,011,150 | △214,925 |
| 業務活動による支出（注1）    | 8,789,786  | 8,370,446  | △419,340 |
| 投資活動による支出（注2）    | 5,436,288  | 5,640,704  | 204,416  |
| 財務活動による支出        | —          | —          | —        |
| 資金収入             | 14,226,075 | 14,328,120 | 102,045  |
| 業務活動による収入        | 8,878,794  | 8,937,890  | 59,096   |
| 運営費交付金による収入（注3）  | 7,783,702  | 7,701,187  | △82,515  |
| 展示事業等による収入（注4）   | 1,095,092  | 1,236,703  | 141,611  |
| 投資活動による収入        | 5,347,281  | 5,390,229  | 42,948   |
| 有形固定資産の売却による収入   |            | 1,641      | 42,948   |
| 施設整備補助金による収入（注5） | 5,347,281  | 5,388,588  |          |
| 資金増加額            |            | 316,969    |          |
| 資金期首残高           |            | 1,300,199  |          |
| 資金期末残高           |            | 1,617,168  |          |

主な増減理由

（注1）美術品・収蔵品の購入に係る運営費交付金の平成25年度以降への繰越による。

（注2）前期に完了した工事代金の支出による。

（注3）国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律（平成24年法律第2号）に基づく減額による。

（注4）入場料収入等の増加による。

（注5）平成23年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成24年度の収入となったことによる。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

### 4 貸借対照表（単位：千円）

| 資産の部      |             | 負債及び純資産の部   |             |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 資産の部      |             | 負債の部        |             |
| I 流動資産    | 1,813,451   | I 流動負債      | 1,706,619   |
| II 固定資産   |             | II 固定負債     | 879,944     |
| 1. 有形固定資産 | 163,773,297 | 負債合計        | 2,586,564   |
| 2. 無形固定資産 | 9,744       |             |             |
| 固定資産合計    | 163,783,041 | 純資産の部       |             |
|           |             | I 資本金       | 81,019,148  |
|           |             | II 資本剰余金    | 81,510,819  |
|           |             | III 利益剰余金   | 479,959     |
|           |             | 純資産合計       | 163,009,927 |
| 資産の部合計    | 165,596,492 | 負債及び純資産の部合計 | 165,596,492 |

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

## 5 短期借入金

実績なし

## 6 重要な財産の処分等

実績なし

## 7 剰余金

### (1) 当期末処分利益の処分計画

| 区分        | 金額 (円)     |
|-----------|------------|
| I 当期末処分利益 | 11,110,237 |
| 当期総利益     | 11,110,237 |
| II 利益処分量  |            |
| 積立金       | 11,110,237 |

平成 24 年度未処分利益については、平成 25 年度に独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号。以下「通則法」という。）第 44 条第 1 項に定める積立金として処分する計画である。

### (2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

### ●特記事項

国立西洋美術館で開催した「ラファエロ」が目標入館者数 97,000 人に対して入館者数 139,611 人及び「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年」が目標入館者数 296,000 に対して入館者数 399,312 人であったこと、また、国立国際美術館で開催した「草間弥生 永遠の永遠の永遠」が目標入館者数 4,000 人に対して入館者数 39,831 人及び「エル・グレコ展」が目標入館者数 127,000 人に対して 191,143 人であったことなどにより、予算額を上回る自己収入を得ることができた。

### (3) 目的積立金の使用状況

今中期目標期間における目的積立金の承認がないため、実績はない。

### (4) 積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況（単位：円）

| 使途の内訳            | 期首残高        | 当期増加額      | 当期減少額     | 期末残高        |
|------------------|-------------|------------|-----------|-------------|
| 積立金              | 0           | 89,483,260 | 0         | 89,483,260  |
| 前中期目標期間<br>繰越積立金 | 380,977,841 | 0          | 1,611,792 | 379,366,049 |

平成 24 年度は、「独立行政法人の経営努力認定について（平成 18 年 7 月 21 日（平成 19 年 7 月 4 日改訂）総務省行政管理局）」の（3）「独立行政法人の経営努力認定の基準」、②「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績を上回ること。」の基準を満たしていないため、通則法第 44 条第 3 項に定める目的積立金の申請を行わなかった。また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリースによる減価償却費相当額である。

## 8 人事に関する計画

### 職種別人員の増減状況（過去5年分）

（単位：人）

| 職種※      | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 定年制研究系職員 | 61   | 61   | 61   | 61   | 61   |
| 定年制事務系職員 | 70   | 70   | 70   | 70   | 70   |

① 「公務員の給与改定に関する取扱について（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置，対処している。

#### ② 人事交流の推進

事務系職員については，文化庁，国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い，組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

#### ③ 職員の研修等

##### ア 東京国立近代美術館

- ・国立公文書館主催 「平成24年度公文書管理研修Ⅰ（第1回）」（1名）
- ・東京大学主催 「平成24年度東京大学次世代リーダー育成研修」（1名）
- ・法務省人権擁護局主催 「平成24年度人権に関する国家公務員等研修会（前期）」（1名）
- ・財務省会計センター主催 「第50回政府関係法人会計事務職員研修」（1名）
- ・文部科学省生涯学習政策局主催 「平成24年度博物館長研修」（1名）
- ・行政管理研究センター主催 「行政機関等の個人情報保護法制セミナー」（1名）
- ・文化庁主催 「平成24年度文部科学省・文化庁研修生向け研修」（2名）
- ・国立美術館「平成24年度接遇・クレーム研修」（11名）
- ・国立美術館「平成24年度メンタルヘルス研修」（12名）
- ・文部科学省主催 「平成24年度学芸員等在外派遣研修」（2名）
- ・日本博物館協会主催 「平成24年度日独青少年指導者セミナー『博物館における青少年教育』」（1名）
- ・避難誘導訓練（平成24年9月1日）
- ・防災総合訓練（（本館）平成24年9月24日，（工芸館）平成25年3月27日）
- ・フィルムセンター消防訓練（（京橋）平成25年3月6日及び3月29日，（相模原分館）平成24年11月20日）

##### イ 京都国立近代美術館

- ・総務省近畿管区行政評価局「政策評価に関する統一研修」（1名）
- ・文化庁「第2回ミュージアム・エデュケーター研修」（1名）
- ・人事院主催「第67回近畿地区中堅係員研修」（1名）
- ・京都地方法務局  
「平成24年度京都地方法務局管内行政庁訴訟事務担当者会議」（1名）
- ・近畿経済産業局「平成24年度官公需確保対策地方推進協議会」（1名）
- ・IDCJ 評価事業部「プロフェッショナル統計分析ワークショップ」（1名）
- ・日本博物館協会「平成24年度研究協議会 学校の博物館利用の現状と課題」（1名）
- ・経済調査会「印刷費積算講習会（演習編）」（1名）
- ・国立美術館「平成24年度メンタルヘルス研修」（2名）
- ・国立美術館「平成24年度接遇・クレーム研修」（2名）

- ・避難誘導訓練・消火訓練（平成 24 年 11 月 26 日）

#### ウ 国立西洋美術館

- ・全国美術館会議「第 27 回学芸員研修会」（1 名）
- ・人事院主催「第 91 回関東地区中堅係員研修」（1 名）
- ・社団法人国立大学協会支部主催「平成 24 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1 名）
- ・総務省主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（1 名）
- ・東京都博物館協議会主催「平成 24 年度第 2 回東京都博物館協議会見学研修会」（1 名）
- ・国立美術館「平成 24 年度接遇・クレーム研修」（4 名）
- ・消防訓練（平成 24 年 12 月 19 日）

#### エ 国立国際美術館

- ・人事院近畿事務局主催「第 67 回近畿地区中堅係員研修」
- ・第 61 回全国美術館会議総会（5 名）
- ・国立美術館「平成 24 年度接遇・クレーム研修」（1 名）
- ・国立美術館「平成 24 年度メンタルヘルス研修」（1 名）
- ・文部科学省平成 24 年度学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣（1 名）
- ・関西電力株式会社主催「エネルギーマネジメントセミナー」（1 名）
- ・防災総合訓練（平成 25 年 3 月 18 日）
- ・大阪市主催「特定建築物の衛生管理に関する講習会」（1 名）

#### オ 国立新美術館

- ・文化財虫害研究所「第 34 回文化財の虫菌害・保存対策研修会」（2 名）
- ・東京防災設備保守協会「防災センター講習」（1 名）
- ・日本消防設備安全センター「自衛消防業務講習」（1 名）
- ・国立美術館「平成 24 年度接遇・クレーム研修」（2 名）
- ・国立美術館「平成 24 年度メンタルヘルス研修」（2 名）
- ・文化財虫害研究所「第 34 回文化財虫菌害防除作業に関する講習会」（1 名）
- ・国立公文書館「平成 24 年度公文書管理研修 I（第 3 回）」（1 名）
- ・自衛消防・防災訓練（平成 24 年 9 月 25 日、平成 25 年 2 月 26 日）

## 9 施設整備に関する計画

東京国立近代美術館本館展示室・収蔵庫空調機更新工事について平成 24 年度に竣工した。また、平成 24 年度から 3 年計画の京都国立近代美術館電気設備等更新について 1 年目の工事を行い、平成 19 年度からの継続事業として国立新美術館の土地購入を行った。

## 10 関連公益法人

該当なし。

「公共調達適正化について」（財計第 2017 号）等に即した独立行政  
 法人における実施状況調書  
 （独立行政法人名 国立美術館）

1. 公共調達適正化の実施状況

(1) 再委託の適正化を図るための措置

措置済み      ・一部未措置 (      )      ・未措置 (      )

(2) 契約に係る情報の公表

措置済み      ・一部未措置 (      )      ・未措置 (      )

○各支店・支社等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表  
 ページへの直接リンクを行っているか

措置済み      ・未措置 (      )      ・支店等がない

(3) 公共調達に関する問合せの総合窓口の設置

措置済み      ・未措置 (      )

○措置済みと回答した場合

・連絡先等（本部事務局財務担当係）

・URL（<http://www.artmuseums.go.jp>）

(4) 内部監査の実施

(イ) 監査計画等に随意契約の重点的監査を記載

措置済み      ・未措置 (      )

(ロ) 監査マニュアル等の整備

措置済み      ・未措置 (      )

(ハ) 内部監査の実施状況をデータベース化している。

措置済み      ・未措置 (      )

(5) 決裁体制の強化

措置済み      ・未措置 (      )

・具体的な措置内容（複数の係による監査を行っている）

2. 随意契約の適正化の一層の推進の実施状況

(1) 随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底

措置済み      ・一部未措置 (      )      ・未措置 (      )

(2) 監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック

措置済み      ・未措置 (      )



(3) 府省の独立行政法人評価委員会による、入札・契約事務の適正執行についての厳正な評価

措置済み      ・ 未措置 (      )

3. 平成 23 年度各独立行政法人が行う随意契約の見直し状況フォローアップについての公表状況

公表済み      ・ 未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

4. 平成 23 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

公表済み      ・ 未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 2・四半期分】

公表済み      ・ 未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 3・四半期分】

公表済み      ・ 未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 4・四半期分】

公表済み      ・ 未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

5. 平成 24 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

公表済み      ・ 未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 2・四半期分】

公表済み      ・ 未措置 (      )

- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第3・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第4・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

|                            |
|----------------------------|
| 6. 「1者応札・1者応募」に係る改善方策の公表状況 |
|----------------------------|

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【記載要領】

- ・ いずれかを○で囲むこと
- ・ 一部未措置又は未措置である場合は、実施予定時期を記載すること

## 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

## I 役員報酬等について

## 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

## ① 平成24年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

平成24年度においては、平成23年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

## ② 役員報酬基準の改定内容

法人の長

改定なし

理事

改定なし

監事(非常勤)

改定なし

## 2 役員の報酬等の支給状況

| 役名           | 平成24年度年間報酬等の総額 |              |             |  | 就任・退任の状況 |  | 前職 |
|--------------|----------------|--------------|-------------|--|----------|--|----|
|              | 報酬(給与)         | 賞与           | その他(内容)     | 就任   | 退任       |  |    |
| 法人の長         | 千円<br>16,791   | 千円<br>10,654 | 千円<br>4,145 | 千円<br>1,918 (地域手当)<br>74 (通勤手当)                |          |  | ※  |
| A理事          | 千円<br>12,998   | 千円<br>8,402  | 千円<br>3,081 | 千円<br>840 (地域手当)<br>183 (通勤手当)<br>492 (単身赴任手当) |          |  | ※  |
| B理事          | 千円<br>15,163   | 千円<br>9,875  | 千円<br>3,759 | 千円<br>1,481 (地域手当)<br>48 (通勤手当)                |          |  |    |
| C理事          | 千円<br>13,270   | 千円<br>8,402  | 千円<br>3,269 | 千円<br>1,512 (地域手当)<br>86 (通勤手当)                |          |  | ◇  |
| A監事<br>(非常勤) | 千円<br>960      | 千円<br>960    | 千円<br>0     | 千円<br>0 ( )                                    |          |  |    |
| B監事<br>(非常勤) | 千円<br>960      | 千円<br>960    | 千円<br>0     | 千円<br>0 ( )                                    |          |  |    |

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄。

3 役員の退職手当の支給状況(平成24年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分          | 支給額(総額) | 法人での在職期間 |   | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘 要   | 前職 |
|-------------|---------|----------|---|-------|-------|-------|----|
|             | 千円      | 年        | 月 |       |       |       |    |
| 法人の長        |         |          |   |       |       | 該当者なし |    |
| 理事          |         |          |   |       |       | 該当者なし |    |
| 監事<br>(非常勤) |         |          |   |       |       | 該当者なし |    |

注1:「摘要」欄には、独立行政法人評価委員会による業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入する。

注2:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄。

## II 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項

#### ① 人件費管理の基本方針

〔 人員数及び効率化等を勘案した人件費を算出し、その範囲内で執行した。 〕

#### ② 職員給与決定の基本方針

##### ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

〔 学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与決定を行っている。 〕

##### イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

〔 勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。 〕

#### [能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目             | 制度の内容  |
|------------------|--|
| 俸給月額<br>(昇格)     | 従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。       |
| 俸給月額<br>(昇給)     | 昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。               |
| 賞与:勤勉手当<br>(査定分) | 基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。 |

#### ウ 平成24年度における給与制度の主な改正点

〔 国家公務員の給与を考慮して、次の改正を行った。 〕

- ・特例法に基づく国家公務員の給与の見直しに関連して、以下の措置を講ずることとした。
  - (職員)
    - 実施期間:平成24年4月1日から平成26年3月31日
    - 俸給表関係の措置の内容: ▲9.77%(一般職7級以上、研究職5級以上)
      - ▲7.77%(一般職3級～6級、技能・労務職4級以上、研究職3級・4級)
      - ▲4.77%(一般職2級以下、技能・労務職3級以下、研究職2級以下)
    - 諸手当関係の措置の内容:管理職手当▲10%
      - 地域手当▲俸給関係の措置の内容と同様
      - 期末勤勉手当▲9.77%
  - (役員)
    - 実施期間:平成24年4月1日から平成26年3月31日
    - 俸給表関係の措置の内容: ▲9.77%
    - 諸手当関係の措置の内容:地域手当▲9.77%
      - 期末勤勉手当▲9.77%
- ・退職手当の支給水準を経過措置を設け段階的に引き下げ

## 2 職員給与の支給状況

### ① 職種別支給状況

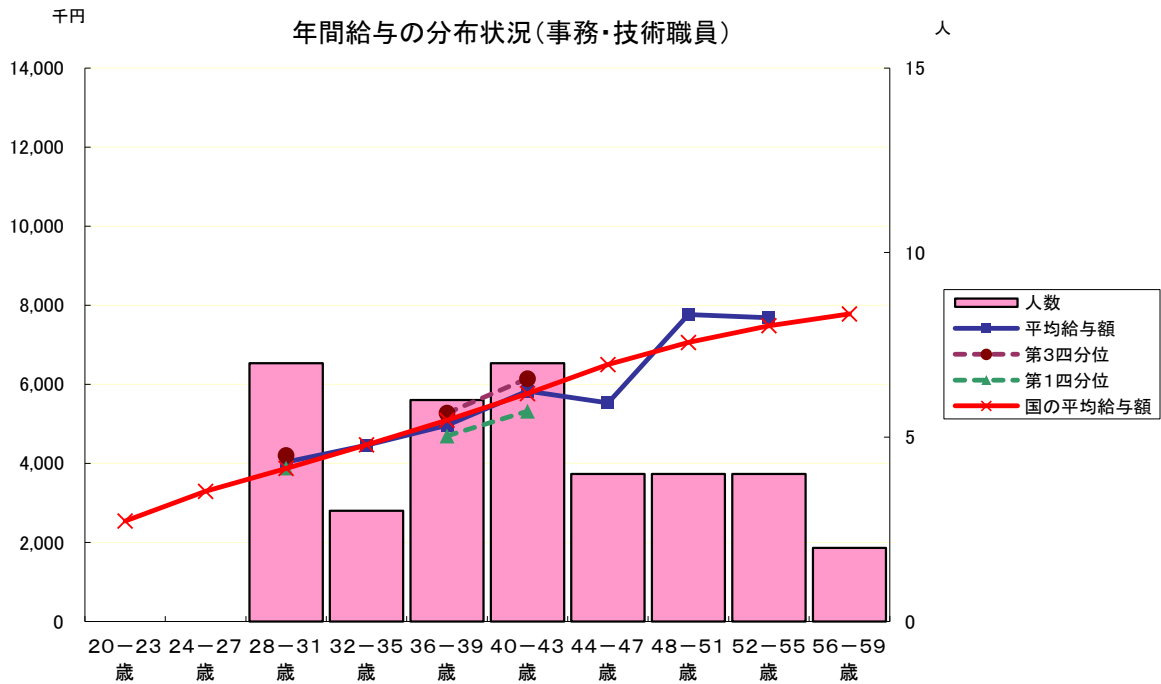
| 区分      | 人員      | 平均年齢      | 平成24年度の年間給与額(平均) |             |           |             |
|---------|---------|-----------|------------------|-------------|-----------|-------------|
|         |         |           | 総額               | うち所定内       |           | うち賞与        |
|         |         |           |                  | うち通勤手当      |           |             |
| 常勤職員    | 人<br>89 | 歳<br>44.3 | 千円<br>6,966      | 千円<br>5,339 | 千円<br>161 | 千円<br>1,627 |
| 事務・技術   | 人<br>37 | 歳<br>42.0 | 千円<br>5,936      | 千円<br>4,530 | 千円<br>173 | 千円<br>1,406 |
| 研究職種    | 人<br>50 | 歳<br>45.7 | 千円<br>7,792      | 千円<br>5,983 | 千円<br>150 | 千円<br>1,809 |
| 技能・労務職種 | 人<br>2  | 歳<br>51.0 | 千円<br>5,375      | 千円<br>4,193 | 千円<br>192 | 千円<br>1,182 |

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員、任期付職員、再任用職員並びに非常勤職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

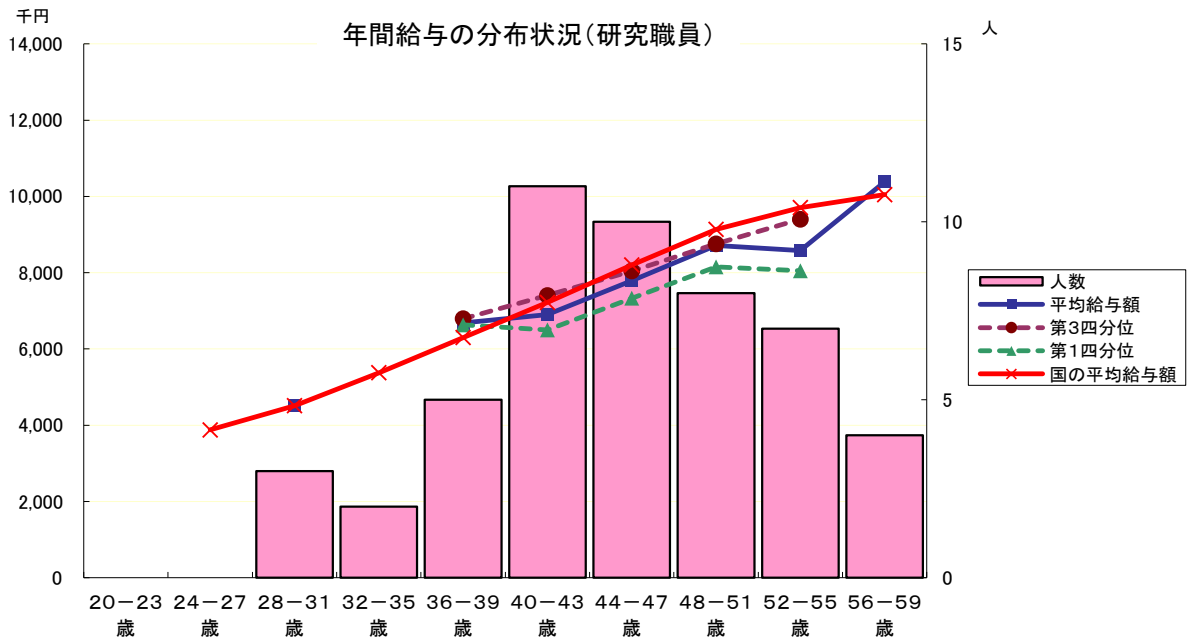
② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下，⑤まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下，⑤まで同じ。

注2: 年齢32-35歳、44-47歳、48歳-51歳及び52歳-55歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。

注3: 年齢56-59歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位及び平均給与額を表示していない。



注1: 年齢28-31歳及び56-59歳の該当者については4人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位を表示していない。

注2: 年齢32-35歳の該当者については2人以下のため，当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから，第1・第3分位及び平均給与額を表示していない。

## (事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位   | 平均    | 四分位   |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|
|             |    |      | 第1分位  |       | 第3分位  |
|             | 人  | 歳    | 千円    | 千円    | 千円    |
| 代表的職位       |    |      |       |       |       |
| 部長          | 1  | -    | -     | -     | -     |
| 課長          | 4  | 54.8 | -     | 8,482 | -     |
| 本部室長        | 4  | 52.3 | -     | 7,134 | -     |
| 室長          | 5  | 51.7 | 6,700 | 7,099 | 7,246 |
| 本部係長        | 4  | 41.5 | -     | 5,605 | -     |
| 係長          | 13 | 42.2 | 5,320 | 5,636 | 6,019 |
| 本部係主任       | 1  | -    | -     | -     | -     |
| 係主任         | 5  | 38.1 | 4,332 | 4,751 | 5,131 |
| 本部一般職員      | 1  | -    | -     | -     | -     |
| 一般職員        | 9  | 31.7 | 3,910 | 4,140 | 4,201 |

注1: 課長, 本部室長, 本部係長の該当者は4人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 第1・第3分位を記載していない。

注2: 部長, 本部係主任, 本部一般職員の該当者は2人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 平均年齢以下の項目を記載していない。

## (研究職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位   | 平均    | 四分位    |
|-------------|----|------|-------|-------|--------|
|             |    |      | 第1分位  |       | 第3分位   |
|             | 人  | 歳    | 千円    | 千円    | 千円     |
| 代表的職位       |    |      |       |       |        |
| 副館長         | 2  | -    | -     | -     | -      |
| 課長          | 7  | 52.5 | 9,138 | 9,487 | 10,066 |
| 本部主任研究員     | 1  | -    | -     | -     | -      |
| 主任研究員       | 36 | 45.7 | 6,855 | 7,525 | 8,117  |
| 研究員         | 5  | 32.5 | 4,368 | 4,719 | 4,903  |

注: 副館長及び本部主任研究員の該当者は2人以下のため, 当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから, 平均年齢以下の項目を記載していない。



③ 職級別在職状況等(平成25年4月1日現在)(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

| 区分                 | 計       | 10級              | 9級               | 8級               | 7級               | 6級                    | 5級               | 4級                    | 3級                    | 2級                    | 1級               |
|--------------------|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|
| 標準的な職位             |         | 施設の長             | 局長<br>副館長        | 局長<br>次長<br>副館長  | 次長<br>部長         | 部長<br>課長              | 課長<br>室長         | 室長<br>係長              | 係長<br>係主任             | 係主任<br>一般職員           | 一般職員             |
| 人員<br>(割合)         | 人<br>37 | 人<br>0<br>(0.0%) | 人<br>0<br>(0.0%) | 人<br>0<br>(0.0%) | 人<br>1<br>(2.7%) | 人<br>3<br>(8.1%)      | 人<br>1<br>(2.7%) | 人<br>5<br>(13.5%)     | 人<br>17<br>(45.9%)    | 人<br>10<br>(27.0%)    | 人<br>0<br>(0.0%) |
| 年齢(最高～最低)          |         | 歳                | 歳                | 歳                | 歳                | 歳                     | 歳                | 歳                     | 歳                     | 歳                     | 歳                |
| 年齢(最高～最低)          |         |                  |                  |                  | -                | 56～52                 | -                | 54～49                 | 47～35                 | 37～28                 |                  |
| 所定内給与<br>年額(最高～最低) |         | 千円               | 千円               | 千円               | 千円               | 千円<br>6,668～<br>6,068 | 千円<br>-          | 千円<br>5,954～<br>4,895 | 千円<br>4,822～<br>3,015 | 千円<br>3,977～<br>2,961 | 千円               |
| 年間給与額<br>(最高～最低)   |         | 千円               | 千円               | 千円               | 千円               | 千円<br>8,802～<br>7,983 | 千円<br>-          | 千円<br>7,945～<br>6,646 | 千円<br>6,356～<br>4,097 | 千円<br>5,120～<br>3,841 | 千円               |

注:7級及び5級については該当者が2人以下であるため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(研究職員)

| 区分                 | 計       | 6級               | 5級                     | 4級                    | 3級                    | 2級                    | 1級               |
|--------------------|---------|------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|
| 標準的な職位             |         | 施設の長             | 副館長<br>課長              | 課長<br>主任研究員           | 主任研究員                 | 研究員                   | 研究員              |
| 人員<br>(割合)         | 人<br>50 | 人<br>0<br>(0.0%) | 人<br>9<br>(18.0%)      | 人<br>24<br>(48.0%)    | 人<br>12<br>(24.0%)    | 人<br>5<br>(10.0%)     | 人<br>0<br>(0.0%) |
| 年齢(最高～最低)          |         | 歳                | 歳                      | 歳                     | 歳                     | 歳                     | 歳                |
| 年齢(最高～最低)          |         |                  | 57～47                  | 56～43                 | 42～37                 | 35～30                 |                  |
| 所定内給与<br>年額(最高～最低) |         | 千円               | 千円<br>8,654～<br>5,943  | 千円<br>7,487～<br>5,317 | 千円<br>5,455～<br>4,303 | 千円<br>3,981～<br>3,228 | 千円               |
| 年間給与額<br>(最高～最低)   |         | 千円               | 千円<br>11,778～<br>7,780 | 千円<br>9,715～<br>7,010 | 千円<br>7,134～<br>5,584 | 千円<br>5,214～<br>4,259 | 千円               |

④ 賞与(平成24年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

| 区分   |                 | 夏季(6月)    | 冬季(12月)   | 計         |
|------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当)     | %         | %         | %         |
|      | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | -         | -         | -         |
|      | 最高～最低           | -         | -         | -         |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当)     | 64.5      | 66.6      | 65.6      |
|      | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | 35.5      | 33.4      | 34.4      |
|      | 最高～最低           | 40.7～31.3 | 40.4～30.6 | 36.7～31.8 |

注:事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

| 区分   |                 | 夏季(6月)    | 冬季(12月)   | 計         |
|------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当)     | %         | %         | %         |
|      | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | -         | -         | -         |
|      | 最高～最低           | -         | -         | -         |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当)     | 64.2      | 67.1      | 65.7      |
|      | 査定支給分(勤勉相当)(平均) | 35.8      | 32.9      | 34.3      |
|      | 最高～最低           | 40.7～33.2 | 37.9～30.2 | 36.4～32.0 |

注:研究職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

⑤ 職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／研究職員)

|                |       |
|----------------|-------|
| 対国家公務員(行政職(一)) | 101.0 |
| 対国家公務員(研究職)    | 95.9  |
| 対他法人(事務・技術職員)  | 95.0  |
| 対他法人(研究職員)     | 95.6  |

注:当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他法人」においては、すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

| 項目                      | 内容   |  |      |      |      |       |         |
|-------------------------|--|--|------|------|------|-------|---------|
| 指数の状況                   | 対国家公務員 101.0   |  |      |      |      |       |         |
|                         | 参考   | <table border="1"> <tr> <td>地域勘案</td> <td>91.5</td> </tr> <tr> <td>学歴勘案</td> <td>100.4</td> </tr> <tr> <td>地域・学歴勘案</td> <td>91.8</td> </tr> </table> | 地域勘案 | 91.5 | 学歴勘案 | 100.4 | 地域・学歴勘案 |
| 地域勘案                    | 91.5   |  |      |      |      |       |         |
| 学歴勘案                    | 100.4  |  |      |      |      |       |         |
| 地域・学歴勘案                 | 91.8   |  |      |      |      |       |         |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | <p>事務職員の給与水準については、年齢のみを勘案した対国家公務員指数は101.0と国家公務員を上回っているが、地域勘案の指数は91.5となり国家公務員を下回る。本部事務局及び5館の美術館のうちの3館が東京都特別区内に所在し、1級地に勤務する事務・技術職員の割合が国を大きく上回る(国立美術館:72.9%, 国:29.5%)ため、年齢のみを勘案した指数においては国家公務員を上回ったものと考えられる。</p> <p>※国の勤務地の比率については、「平成24年国家公務員給与等実態調査」を用いて算出</p> <p>【主務大臣の検証結果】<br/>地域差を是正した給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考える。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p> |  |      |      |      |       |         |
| 給与水準の適切性の検証             | <p>【国からの財政支出について】<br/>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 92.3%<br/>(国からの財政支出額 13,131百万円, 支出予算の総額 14,226百万円:平成24年度予算)<br/>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.3%<br/>(支出総額(平成24年度決算ベース) 13,700,076千円, 給与・報酬等支出総額 1,000,158千円)</p> <p>【検証結果】<br/>俸給表, 諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており, 地域勘案の対国家公務員指数は100を下回っていることから, 国からの財政支出の割合は大きいものの, 平成24年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p>                           |  |      |      |      |       |         |
|                         | <p>【累積欠損額について】<br/>累積欠損額 0円(平成24年度決算)</p> <p>【検証結果】<br/>非該当</p>  |  |      |      |      |       |         |
| 講ずる措置                   | 引き続き適正な給与水準を維持する   |  |      |      |      |       |         |

○研究職員

| 項目                      | 内容  |         |      |
|-------------------------|---|---------|------|
| 指数の状況                   | 対国家公務員 95.9   |         |      |
|                         | 参考  | 地域勘案    | 93.5 |
|                         |   | 学歴勘案    | 95.4 |
|                         |   | 地域・学歴勘案 | 93.3 |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | <b>【主務大臣の検証結果】</b><br>給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。   |         |      |
| 給与水準の適切性の検証             | <b>【国からの財政支出について】</b><br>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 92.3%<br>(国からの財政支出額 13,131百万円, 支出予算の総額 14,226百万円:平成24年度予算)<br>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.3%<br>(支出総額(平成24年度決算ベース) 13,700,076千円, 給与・報酬等支出総額 1,000,158千円) |         |      |
|                         | <b>【検証結果】</b><br>国からの財政支出の割合が大きいが,平成24年度の研究職員の給与水準は,対国家公務員の指数を下回っており,適切なものであると認識している。   |         |      |
|                         | <b>【累積欠損額について】</b><br>累積欠損額 0円(平成24年度決算)  |         |      |
|                         | <b>【検証結果】</b><br>非該当  |         |      |
| 講ずる措置                   | 引き続き適正な給与水準を維持する  |         |      |

### III 総人件費について

| 区 分                 | 当年度<br>(平成24年<br>度) | 前年度<br>(平成23年<br>度) | 比較増△減                        | 中期目標期間開始時(平成<br>23年度)からの増△減  |
|---------------------|---------------------|---------------------|------------------------------|------------------------------|
| 給与, 報酬等支給総額<br>(A)  | 千円<br>809,789       | 千円<br>912,147       | 千円 (%)<br>△ 102,358 (△ 11.2) | 千円 (%)<br>△ 102,358 (△ 11.2) |
| 退職手当支給額<br>(B)      | 千円<br>80,676        | 千円<br>56,702        | 千円 (%)<br>23,974 (42.3)      | 千円 (%)<br>23,974 (42.3)      |
| 非常勤役員等給与<br>(C)     | 千円<br>324,790       | 千円<br>302,530       | 千円 (%)<br>22,260 (7.4)       | 千円 (%)<br>22,260 (7.4)       |
| 福利厚生費<br>(D)        | 千円<br>148,191       | 千円<br>152,372       | 千円 (%)<br>△ 4,181 (△ 2.7)    | 千円 (%)<br>△ 4,181 (△ 2.7)    |
| 最広義人件費<br>(A+B+C+D) | 千円<br>1,363,446     | 千円<br>1,423,751     | 千円 (%)<br>△ 60,305 (△ 4.2)   | 千円 (%)<br>△ 60,305 (△ 4.2)   |

#### 総人件費について参考となる事項

給与, 報酬等支給総額について、特例法に基づく国家公務員の給与見直しに関連して講じた措置により、平成24年度予算ベースで総額80,368千円を削減した。  
退職手当支給額については、「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき講じた措置により、平成25年1月1日から平成25年3月31日までの間、総額4,130千円を削減した。

### IV 法人が必要と認める事項

「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)に基づき、平成25年1月1日から以下の措置を講ずることとした。

- ・役職員の退職手当について、経過措置を設け段階的に支給水準の引き下げを実施した。
- 役員に関する講じた措置の概要: 在職期間1月あたりの支給割合を引き下げた(12.5/100→12.25/100)
- 職員に関する講じた措置の概要: すべての退職者に対し調整率を引き下げた(104/100→98/100)